

私立大学図書館協会東地区部会

研究部報告書

2009年度

2010年3月

研究部担当理事校

東京理科大学図書館

目 次

《2009 年度研究部活動報告》

運営委員会	1
運営委員・研究分科会代表者合同会議	3
研究会	4
研修委員会	5
研修会	7
研究分科会	8

《2009 年度研究分科会活動報告》

1. 分類研究分科会	9
2. 逐次刊行物研究分科会	12
3. パブリック・サービス研究分科会	15
4. 図書館運営戦略研究分科会	18
5. レファレンス研究分科会	21
6. 理工学研究分科会	23
7. 西洋古版本研究分科会	24
8. 和漢古典籍研究分科会	26
9. 情報リテラシー教育研究分科会	28
10. Lーラーニング学習支援システム研究分科会	30
11. 研修分科会（2009 年度新設）	32

《研究分科会刊行物一覧》

34

《2009 年度研究分科会月例会について（報告）》

35

《2010/2011 年度研究分科会会員の更新結果（報告）》

36

《研究講演会》

38

《研修会》

2009 年度研修会 2009 年 10 月 22 日（木）～10 月 23 日（金）	39
テーマ：行きたくなる図書館、利用したくなる図書館ーLibrary2.0 に向けてー	
第 1 日（10 月 22 日）	
・大学図書館の 21 世紀：大学図書館員は何をしなければならないか （竹内 比呂也）	41
・関係性マネジメントのための利用者調査を目指して（上岡 真紀子）	49
・図書館員が図書館建設に関わった！ （萬谷 衣加）	56

- ・ボランティアは図書館を変えたか？－導入から 14 年－
(仲川 敦子)67
- ・図書館ツアービデオを活用した利用者教育について (藤懸 徳仁)76

第 2 日 (10 月 23 日)

- ・次世代OPACとLibrary 2.0 (原田 隆史)80
- ・図書館 Web サービスの連携 (井上 創造)85
- ・ポッドキャスト@千葉大図書館 (岩井 愛子)95
- ・ネットワーク時代のレファレンスサービス (齋藤 泰則)99

≪2009 年度研修会の総括と回顧≫ (研修委員長 今村 昭一)104

≪2009 年度 東地区部会研究部決算報告書・監査報告書≫105

≪2010 年度 研究部活動計画 (案) ≫106

≪2010 年度 東地区部会研究部予算 (案) ≫107

≪関係規程≫

- 研究部細則108
- 研究分科会申し合わせ110
- 研修委員会規則112

《2009 年度研究部活動報告》

1. 運営委員会

運営委員（任期：2009 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日）

委 員	伊藤 富士子	（東京農業大学）
	伊藤 義裕	（青山学院大学）
	角田 浩子	（慶應義塾大学）
	金子 和代	（早稲田大学）
	川北 友美	（帝京大学）
	菊地 秀明	（跡見学園女子大学）
	久世 泰子	（東京経済大学）
	矢野 巧仁	（関東学院大学）

研究部担当理事校 東京理科大学

第 1 回 2009 年 4 月 14 日（火）15:00～17:00 於：東京理科大学

1. 2008 年度研究部決算報告について
2. 研究分科会の休会について
3. 2009 研究部スケジュール（案）及び研究部予算（案）について
4. 2008 年度研究分科会活動報告について
5. 2008 年度研究分科会会計報告について
6. 2009 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
7. 2009 年度部会総会行事について
8. 研究分科会マニュアル 2009 年度版について
9. 特別助成金交付基準・「研究部活動費」運用内規の改正について
10. 研修分科会について
11. 2009 年度東地区部会運営委員会日程（案）及び協会スケジュールについて

第 2 回 2009 年 5 月 15 日（金）13:00～14:30 於：東京理科大学

1. 2009 年度研究分科会の廃止について
2. 2009 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
3. 2009 年度研究分科会予算計画について
4. 2009 年度東地区部会総会・館長会・研究講演会について
5. 2009 年度研究分科会報告大会について
6. 研究分科会会員更新スケジュールについて

7. その他

- (1) 2009 年度東地区部会運営委員会日程について

第 3 回 2009 年 6 月 12 日（金）12:00～12:30 於：獨協大学

- 1. 研究講演会最終打ち合わせについて
- 2. 2009 年度研究分科会報告大会の実施スケジュールについて
- 3. 第 1 回研修分科会について
- 4. その他
 - (1) 2009 年度研修会におけるオブザーバー参加について
 - (2) 2009 年度私立大学図書館協会スケジュールについて

第 4 回 2009 年 7 月 17 日（金）15:00～17:00 於：東京農業大学

- 1. 2009 年度研究分科会報告大会について
- 2. 2009 年度研究分科会夏期合宿（集中研究会）実施計画について
- 3. 新規研究分科会受付募集の案内について
- 4. 2010/2011 年度研究分科会会員募集について
- 5. 休会中の研究分科会に係る取り扱いについて
- 6. 第 2 回研修分科会について
- 7. その他
 - (1) 2009 年度私立大学図書館協会スケジュールについて
 - (2) 研究分科会会員区分変更届（機関用）（様式 17）に係る運用について

第 5 回 2009 年 10 月 16 日（金）10:00～11:30 於：跡見学園女子大学

- 1. 2009 年度研究分科会報告大会について
- 2. 2009 年度第 2 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
- 3. 研修分科会会員への意見聴取結果について

第 6 回 2009 年 11 月 13 日（金）13:00～14:30 於：早稲田大学

- 1. 2009 年度第 2 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
- 2. 夏期研究合宿（集中研究会）実施報告について
- 3. 2009 年度研究分科会報告大会について
- 4. 研修分科会について
- 5. 2009 年度研究分科会報告大会運営について
- 6. 2010 年度研究講演会の講師と演題について

第 7 回 2009 年 12 月 14 日（月）12:15～12:45 於：東京理科大学

1. 2009 年度研究部中間決算について
2. 2010 年度研究部活動計画（案）について
3. 2010 年度研究部予算（案）について
4. 新規研究分科会受付募集について
5. 2010/2011 年度研究分科会会員募集について
6. 2010 年度研究講演会の講師と演題について
7. 研修分科会について

第 8 回 2009 年 3 月 12 日（金）15：00～17：00 於：東京経済大学

1. 2009 年度研究分科会報告大会参加状況及び研究分科会への意見・感想等の集計結果について
2. 2010/2011 年度研究分科会会員参加申込状況について
3. 2009 年度研究部活動報告及び中間決算について
4. 2010 年度研究部活動計画（案）及び予算（案）について
5. 2009 年度研修委員会活動報告について
6. 次期研修委員（2010/2011 年度）について
7. 研究分科会マニュアル 2010 年度版（案）について
8. 2010 年度研究部運営委員会日程（案）について
9. 2010 年度研究講演会の講師と演題について
10. 2009 年度東地区部会役員会（第 2 回）について
11. 2010 年度私立大学図書館協会スケジュールについて

2. 運営委員・研究分科会代表者合同会議

第 1 回 2009 年 5 月 15 日（金）15:00～15:40 於：東京理科大学

1. 2009 年度研究分科会の廃止について
2. 2009 年度研究分科会の休会について
3. 2009 年度研究部活動計画（案）について
4. 2009 年度研究部予算（案）について
5. 2009 年度研究分科会報告大会について
6. 2009 年度研究分科会の活動計画について
7. 研究分科会マニュアル 2009 年度版について
8. 分科会関連業務の分担について
9. 2009 年度私立大学図書館協会スケジュールについて
10. 協会ホームページについて
11. 研究分科会会員更新スケジュールについて

第2回 2009年11月13日(金) 15:00~16:20 於: 早稲田大学

1. 夏期研究合宿(集中研究会)実施報告について
2. 2009年度研究分科会報告大会について
3. 新規研究分科会受付募集について
4. 2010/2011年度研究分科会会員募集について

3. 研究会

2009年度研究分科会報告大会

日時: 2009年12月14日(月) 11:00~16:45

2009年12月15日(火) 10:05~16:45

会場: 東京理科大学 森戸記念館

参加数: 67大学 106名

発表者: 36名

研究発表:

第1日(12月14日)

理工学研究分科会

(11:10~12:00)

テーマ: 「文献ガイダンスで利用可能なプレゼンテーションモデルの研究

(理工系大学図書館のガイダンスをカンタンに実施するために)」

発表者: 内山 光子(日本大学理工学部) 平田 さくら(明治大学)

西洋古版本研究分科会

(13:00~13:50)

テーマ: 「2008-2009年度 西洋古版本研究分科会 活動報告」

発表者: 上田 健一(獨協大学) 齊藤 理香(中央大学)

中島 悠史(文化女子大学)

和漢古典籍研究分科会

(13:55~14:45)

テーマ: 「和漢古書の情報と補修 ~書物の顔から刊年を探る~」

発表者: 沼田 晃佑(身延山大学) 井上 玲子(中央大学)

図書館運営戦略研究分科会

(15:00~15:50)

テーマ: 「2008-2009年度 図書館運営戦略 活動報告」

発表者: 櫻井 友美(国土館大学) 小生方 麻里(麗澤大学)

関口 千登世(城西大学)

L-ラーニング学習支援システム研究分科会

(15:55~16:45)

テーマ: 「大学図書館員のためのリポジトリからエルラー的PBLへの
展開を目指して」

発表者: 南雲 彰子(国際大学) 田代 陽子(日本女子大学)

阿部 潤也(東京歯科大学)

第2日(12月15日)

分類研究分科会 (10:15~11:05)

テーマ:「日本十進分類法(NDC)10版試案の検討」

発表者: 藤倉 恵一(文教大学)

逐次刊行物研究分科会 (11:10~12:00)

テーマ:「電子ジャーナルとその周縁をめぐる研究ー導入から
利用者への発信までー」

発表者: 小室 啓子(文教大学)

菊地 秀明(跡見学園女子大学)

三上 彰(桜美林大学)

レファレンス研究分科会 (13:00~13:50)

テーマ:「大学図書館の学習支援 事例紹介」

発表者: 井口 良子(國學院大學)

近藤 裕子(専修大学)

小幡 誉子(大正大学)

藤原 美佳(駒澤大学)

横田地 妙(創価大学)

情報リテラシー教育研究分科会 (13:55~14:45)

テーマ:「『1年次教育における情報リテラシー教育』のモデル作成」

発表者: 池田 有紀(横浜商科大学)

樋口 知義(東洋大学)

小海 理恵(和光大学)

パブリック・サービス研究分科会 (15:00~15:50)

テーマ:「2008-2009年度 パブリック・サービス研究分科会活動・研究報告」

発表者: 瀬戸山 雄介(学習院大学)

清水 滋文(和光大学)

伊藤 康子(女子美術大学)

植苗 翔(中央大学)

塩瀬 雅博(女子栄養大学)

内藤 沙織(学習院大学)

川端 美月(多摩大学)

研修分科会(2009年度新設) (15:55~16:45)

テーマ:「2009年度 研究報告」

発表者: 高木 彩(白百合女子大学)

松濱 純美(昭和音楽大学)

古越 奈央(相模女子大学)

島田 貴司(立正大学)

見 学 東京理科大学神楽坂図書館・東京理科大学近代科学資料館

4. 研修委員会

研修委員(任期:2008年4月1日~2010年3月31日)

委員長 今村 昭一(早稲田大学)

委員 河野 江津子(慶應義塾大学)

伊原 千秋(中央大学)

安田 清孝 (東京農業大学)
矢野 恵子 (明治大学)
三宅 里美 (東京理科大学) (2009 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日)
オブザーバー 浮塚 利夫 (明治大学)

第 1 回 2009 年 4 月 17 日 (金) 14 : 00～16 : 50 於 : 東京理科大学

1. 2009 年度研修委員会の日程と会場
2. 研究テーマ、アウトラインについて

第 2 回 2009 年 5 月 14 日 (木) 14 : 00～17 : 00 於 : 早稲田大学

1. 2009 年度研修会について
2. 今後の進め方について
3. 第 3 回以降の研修委員会の日程について

第 3 回 2009 年 6 月 2 日 (火) 14 : 00～17 : 00 於 : 中央大学

1. 2009 年度研修会について
2. 今後の進め方について
3. 第 4 回以降の研修委員会の日程について

第 4 回 2009 年 7 月 7 日 (火) 15 : 00～17 : 00 於 : 東京農業大学

1. 2009 年度研修会について
2. 第 5 回以降の研修委員会の日程について

第 5 回 2009 年 9 月 17 日 (木) 14 : 00～17 : 00 於 : 東京農業大学

1. 2009 年度研修会参加申し込み状況について
2. 2009 年度研修会準備状況について
3. 2009 年度研修会会場・動線の実地検分
4. 第 6 回以降の研修委員会の日程について

第 6 回 2009 年 10 月 14 日 (水) 14 : 00～18 : 00 於 : 東京農業大学

1. 2009 年度研修会参加申し込み状況について
2. 2009 年度研修会準備状況について
3. 2009 年度研修会会場・動線の実地検分
4. 第 7 回以降の研修委員会の日程について

第 7 回 2009 年 11 月 18 日 (水) 15 : 00～17 : 00 於 : 明治大学

1. 2009 年度研修会をふりかえって
2. 2010 年度予算について
3. 次期委員会への引継ぎについて
4. 第 8 回以降の研修委員会の日程について

第 8 回 2009 年 12 月 8 日（火）15：00～17：00 於：慶應義塾大学

1. 2010 年度研修委員会引継ぎについて
2. 第 9 回の研修委員会の日程について

第 9 回 2010 年 3 月 19 日（金）15：00～17：00 於：東京理科大学

1. 新旧研修委員自己紹介
2. 研修委員会の役割と活動の再確認
3. 新旧研修委員引継ぎ

5. 研修会

2009 年度研修会

期 日：2009 年 10 月 22 日（木）・23 日（金）

場 所：東京農業大学 図書館

テーマ：行きたくなる図書館、利用したくなる図書館 ―Library2.0 に向けて―

参加者：107 大学 112 名（いずれも延数）

内 容：

第 1 日（10 月 22 日）

基調講演：大学図書館の 21 世紀：大学図書館員は何をしなければならないか

千葉大学 文学部 教授 竹内 比呂也

講 演：関係性マネジメントのための利用者調査を目指して

慶應義塾大学 理工学メディアセンター 上岡 真紀子

事例報告：図書館員が図書館建設に関わった！

獨協大学 総務課 萬谷 衣加

事例報告：ボランティアは図書館を変えたか？ ―導入から 14 年―

筑波大学附属図書館 情報管理課 仲川 敦子

事例報告：図書館ツアービデオを活用した利用者教育について

亜細亜大学 学術情報部学術情報課 藤懸 徳仁

第 2 日（10 月 23 日）

講 演：Library2.0 と次世代 OPAC

慶應義塾大学 文学部 准教授 原田 隆史

講 演：図書館 Web サービスの連携

	九州工業大学大学院工学研究院 准教授	井上 創造
講 演：	ポッドキャスト@千葉大図書館	
	千葉大学附属図書館 情報サービス課	岩井 愛子
講 演：	ネットワーク時代のレファレンスサービス	
	明治大学 文学部 教授	齋藤 泰則

特別企画：ポスター展示

見 学：東京農業大学図書館

6. 研究分科会

次の 11 研究分科会が、月例研究会・夏期研究合宿等の活動を実施した。

(2008 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日)

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| (1) 分類研究分科会 | (7) 西洋古版本研究分科会 |
| (2) 逐次刊行物研究分科会 | (8) 和漢古典籍研究分科会 |
| (3) パブリック・サービス研究分科会 | (9) 情報リテラシー教育研究分科会 |
| (4) 図書館運営戦略研究分科会 | (10) Lーラーニング学習支援システム研究分科会 |
| (5) レファレンス研究分科会 | (11) 研修分科会 (2009 年度新設) |
| (6) 理工学研究分科会 | |

休会：2008 年 4 月 相互協力研究分科会、2009 年 4 月 企画広報研究分科会

廃止：2009 年 5 月 北海道地区研究分科会 (2008 年 4 月から休会)

研究分科会月例会担当理事校 関東学院大学

研究分科会更新担当理事校 跡見学園女子大学

《2009 年度研究分科会活動報告》

1. 分類研究分科会

代表者：藤倉 恵一（文教大学）

会員数：7 名

会 員：上條 庸子（女子栄養大学） 小林 美佐（昭和女子大学）
鈴木 学（日本女子大学） 高澤 玲子（獨協大学）
田中 環（文化女子大学） 藤倉 恵一（文教大学） 以上正会員
伊藤 民雄（実践女子学園） 以上個人 ML 会員

年会費：なし

例会開催回数：11 回（合宿含む）

延べ参加者数：68 名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/bunrui/>

活動

1) 基本テーマ

件名、シソーラス、Indexing 理論等を含んだ“トータル”な意味での図書館分類法とその理論に関する研究という基本テーマとする。

今期は、「分類する」ということはどういうことか、人間の思考や思想に根ざした「分類」の基本についてまず検討し、翻って、現代の図書館分類法が抱える問題や分類実務における困難について再考することをメインテーマとする。

並行して、現在日本図書館協会分類委員会で編纂中の日本十進分類法（NDC）新訂 10 版の試案が公表されれば、その検討や批評も予定する。

2) 活動の概要

分類研究分科会は 2 年間で(1) 研究テーマに沿った文献の精読を通じて参加会員の基礎レベルを整える、(2) 主たる研究テーマの研究・検証を行う、(3) 研究成果の発表および総括の 3 つの期間に分けて活動する。

ア. 第 1 期 「分類」の基本の再確認（2008 年度活動）

2008 年度は、思想の分類や動植物の分類、規格としての分類など、図書館における「分類」にとらわれない分類の根幹にかかわることを再確認するための文献精読を行った。

イ. 第 2 期 図書館実務における「分類」の問題点：NDC 試案の集中的検討

第 2 期の活動として、具体的なツールとしての分類表を採りあげた。

内容としては『図書館雑誌』2008 年 10 月号より公開が開始された「日本十進分類法新訂 10 版試案の概要」について、新訂 9 版の試案やそれに対する批評、批評を受けて実際に刊行された 9 版と 10 版試案の差異を検討することと、可能な範囲でそれを批評する研究を開始した（2009 年 2 月～）。

試案については時系列で以下のように公開されている。また、試案は『図書館雑誌』のページ構成上各 4 ページという制約があるが、日本図書館協会分類委員会ホームページ（<http://www.jla.or.jp/bunrui/>）上では、PDF および HTML で雑誌掲載のものより詳細な

ものが公開されている。分科会での検討にはこの Web 版を使用した。以下、特に区別する
必要がない場合「試案」とはこの Web 版のことを指す。

- ・ その 1 3 類「社会科学」の部 図書館雑誌 102(10) p.734-737, 2008.10
- ・ その 2 2 類「歴史・伝記・地理」の部 図書館雑誌 102(12) p.882-885, 2008.12
- ・ その 3 7 類「芸術」の部 図書館雑誌 103(2) p.102-105, 2009.2
- ・ その 4 0 類「総記」の部 図書館雑誌 103(7) p.474-477, 2009.7

これら試案の検討の結果を NDC 全体に関わる課題と各類改訂試案個々に対する課題とに分け、前者を 2010 年 1 月 21 日付「日本十進分類法新訂 10 版試案に対する意見」、後者を 2010 年 3 月 31 日付「日本十進分類法新訂 10 版試案に対する意見(各類試案に対して)」としてそれぞれ日本図書館協会分類委員会に提出した。

なお、この研究は試案の公開に応じて次期以降も継続する。

ウ. 夏期研究合宿

第 2 期の活動と連動して、NDC10 版試案の検討を中心に行った。

関連して、分科会 OB である光富健一氏（東京理科大学図書館）による特別講義「DDC に見る注記のあり方」を受けた。これにより、NDC の注記が抱える問題点について会員の認識を再整理した。

また、検討を終えた 3 類改訂試案について、実際に書架に影響を及ぼす（再分類の必要）可能性について、『出版年鑑』2009 および 1999 で 3 類に分類された書誌をもとに検証した。結果、顕著に再分類の必要が生じる箇所はまれであることが確認された。

エ. 第 3 期 今期のまとめとして

今年度の活動計画の主軸に据えた「分類することの基本」を踏まえたうえで、具体的なツールとしての NDC 試案を詳細に検討し、評価することによって、今期の研究目的が具現化しえた。よって、会期末の研究発表はこれを主たるテーマとして「日本十進分類法（NDC）10 版試案の検証」と題して行った。

2 年間の研究活動を通じて、まず会員個人々人においては試案の集中的な検討・批評を通じて、NDC が潜在的に抱えていた問題点を抽出するなど、分類法への理解がより深まり、スキルの向上を達成しえた。さらに NDC という会員所属館が実際に使用しているツールを検討したことから、それぞれの所属館への業務のフィードバックも期待できるだろう。さらに、分類委員会に提言をすることで、図書館界に貢献できる研究内容であったと自負することができる。

資料

1) 刊行物

特になし。

2) 事業

ア. TP&D フォーラム 2009（第 19 回整理技術・情報管理等研究集会）の共催

1991 年に日本図書館研究会整理技術研究グループ（現・情報組織化研究グループ）により始められた TP&D フォーラムは、第 2 回から分類研究分科会が共催者となり運営に参画してきた。2009 年度は東京で開催され、分科会からは藤倉・鈴木・小林・高澤の 4 名が出席した（藤倉と鈴木は実行委員）。

フォーラムの参加者は教員、図書館員、データベース業者などさまざまであり、これに

分科会が参加・関与することの利点は(1) 主題組織分野における最新の研究動向の把握、(2) 分野を同じくする教員や研究者、実務家たちとの交流、(3) この分野の研究基盤継承への貢献 であるといえる。

なお、2010 年度は 8 月 20 日（金）～21 日（土）に京都にて開催される予定である。

イ. 日本図書館協会分類委員会への参画

2007 年度より、分類研究分科会を代表して藤倉が NDC の編纂に携わっている。これによって、分類研究分科会での研究成果を多少なりとも NDC の編纂に役立てることができ、逆に最新の動向を分科会に持ち帰ることができる。

また、分類委員個人のレベルにおいても分科会と交流の機会を設け、有意義なコミュニケーションがとれるような環境を整備している。

ウ. NDC10 版試案説明会への参加

2009 年 11 月 10 日（火）、日本図書館協会会館にて「日本十進分類法（NDC）新訂 10 版試案説明会（中間報告）」が開催された。分科会ではこれを研究上重要なイベントととらえ、各会員所属館のご理解・協力を得て正会員全員でこれに出席し、質疑応答や懇親会の席上で多くの意見を分類委員に提示した。

エ. NDC10 版試案への意見提出

前述のとおり、分類委員会に対して新訂 10 版試案に対する意見の提出を行った。このうち、NDC 全体に関わる部分の意見については 3 月 9 日付で分類委員会からの回答を得た。

以上

2. 逐次刊行物研究分科会

代表者：小室 啓子（文教大学）

会員数：4 大学 4 名（正会員 3 名 個人会員 1 名）

会 員：小室 啓子（文教大学）

菊地 秀明（跡見学園女子大学）

森永 瑞穂（和光大学）

三上 彰（桜美林大学）

年会費：なし

例会開催回数：14 回（夏期集中研究会含む）

延べ参加者数：44 名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/chikukan/>

活動

1) 基本テーマ

- ・電子ジャーナルやオンライン・データベースの導入と、管理運用に関する研究
- ・学術資料としての逐次刊行物の資料収集と保存にともなう諸問題の研究
- ・逐次刊行物の効果的な選定基準と蔵書構成の研究
- ・オープン・アクセス、機関リポジトリ、共同リポジトリに関する研究

2) 活動の概要

今期参加会員の興味あるテーマであった電子ジャーナルやオンライン・データベースの導入にともなう逐次刊行物の蔵書構築の変容について、前年に引き続き各大学の状況等についての聞き取り調査を行なった。この結果、逐次刊行物の蔵書構築は、電子ジャーナルやオンライン・データベースを抜きにしては考えられないことがわかったが、そのほかに、拡大している機関リポジトリなどのオープン・アクセスも影響を及ぼしてくるであろうことが認識された。そこで、電子ジャーナルやオンライン・データベースだけでなく、オープン・アクセスに含まれる機関リポジトリの現状を確認した上で、今後の課題等を研究・検討した。

研究活動のほかに、専門図書館や大学図書館の見学も積極的に行なった。

資料

1) 月例会テーマ

4 月例会（第 530 回）2009 年 4 月 16 日（木） 文教大学旗の台キャンパス

- ・事務連絡
- ・本年度の研究分科会活動計画の検討
- ・蔵書構築に関する調査Ⅳ

5 月例会（第 531 回）2009 年 5 月 15 日（金） 東京理科大学森戸記念館

- ・事務連絡
- ・蔵書構築に関する調査のまとめ
- ・研究テーマの検討
- ・夏期集中研究会の実施内容についての検討

6 月例会（第 532 回）2009 年 6 月 19 日（金） 東邦大学習志野メディアセンター

- ・事務連絡
- ・夏期集中研究会の実施内容・実施日程についての検討

- ・蔵書構築についての調査
『東邦大学習志野メディアセンターにおける蔵書構築のポリシーと現状について』
- ・東邦大学習志野メディアセンター見学

7月例会（第533回）2009年7月10日（金） 東京ビッグサイト

- ・事務連絡
- ・東京国際ブックフェア 専門セミナー参加
今後の雑誌の可能性について
「雑誌の新たなビジネスモデル」
 1. 『雑誌のデジタル進化は可能か？ ～新しいビジネスモデルの模索』
集英社 雑誌販売部 大久保徹也氏
 2. 『新しい雑誌ビジネスを探る』
博報堂ケトル クリエイティブディレクター・編集者 嶋浩一郎氏ほか

7月夏期集中研究会（第534回）2009年7月25日（土）

桜美林大学 四谷キャンパス 3大学3名参加

- ・事務連絡
- ・逐次刊行物の選定基準・資料保存について
- ・文献レビュー
『情報の科学と技術』誌に掲載の逐次刊行物や電子ジャーナルに関する
論文記事のレビュー
- ・研究報告大会での報告内容についての検討
- ・桜美林大学四谷キャンパス図書室見学

8月夏期集中研究会（第535回）2009年8月31日（月）

亜細亜大学図書館 3大学3名参加

- ・事務連絡
- ・講演：『逐次刊行物の選定基準・資料保存について』 亜細亜大学 毛利和弘氏
- ・亜細亜大学図書館見学

9月例会（第536回）2009年9月24日（木） 跡見学園女子大学新座図書館

- ・事務連絡
- ・研究報告大会の報告発表準備
報告発表の概略・流れの検討・確認、参考資料準備等
- ・夏期集中研究会のまとめ

11月例会（第537回）2009年11月9日（月） 跡見学園女子大学新座図書館

- ・事務連絡
- ・研究報告大会の報告発表準備
報告発表要旨『電子ジャーナルとその周縁をめぐる研究
ー導入から利用者への発信までー』の確認等
- ・次期会員募集について

11月臨時例会（第538回）2009年11月22日（日） 桜美林大学四谷キャンパス

- ・事務連絡
- ・研究報告大会の報告発表準備
報告発表の内容確認、配布資料の準備等

12月臨時例会（第539回）2009年12月5日（土） 跡見学園女子大学新座図書館
・事務連絡
・研究報告大会の報告発表準備

12月例会（第540回）2009年12月7日（月） 桜美林大学四谷キャンパス
・事務連絡
・研究報告大会の報告発表準備
報告発表用資料やスライドの最終確認、および、発表リハーサル
研究報告大会の報告発表会場（東京理科大学森戸記念館）の下見・機器調整等

1月例会（第541回）2010年1月22日（金） 跡見学園女子大学茗荷谷図書館
・事務連絡
・研究報告大会の報告発表の反省と今後について
・『私立大学図書館協会会報』に掲載する研究報告大会の報告原稿について
・講演：『機関リポジトリの現状と課題ー埼玉県地域共同リポジトリ SUCRA の取り組みと展開ー』 文教大学 鈴木正紀氏

2月臨時例会（第542回）2010年2月6日（土） 桜美林大学四谷キャンパス
・事務連絡
・『私立大学図書館協会会報』に掲載する研究報告大会の報告原稿について

3月例会（第543回）2010年3月16日（火） 桜美林大学四谷キャンパス
・事務連絡
・今期研究分科会活動の最終提出書類についての確認
2008/2009年度研究分科会活動報告
2008/2009年度研究分科会会計報告
・次期研究分科会について

2) 刊行物及び事業

2008/2009年度は特になし

3. パブリック・サービス研究分科会

代表者：瀬戸山雄介（学習院大学）

会員数：17校16名（個人会員含む）

会 員：中島眞由美（桜美林大学・副代表）

瀬戸山雄介（学習院大学・代表）

内藤 沙織（学習院大学）

北原恵美子（相模女子大学・会計担当）

山口 美奈（実践女子大学・合宿担当・会計担当）

東家 由朗（上智大学・個人会員）

塩瀬 雅博（女子栄養大学）

伊東 康子（女子美術大学）

矢ヶ崎理紗（成城大学・副代表）

川端 美月（多摩大学）

植苗 翔（中央大学・合宿担当）

小松 泰亮（東京家政学院大学・個人会員）

西嶋 優（東京農業大学）

小松 久美（日本赤十字看護大学・個人会員）

椎名ちか子（明治学院大学・個人会員）

清水 滋文（和光大学・HP担当）

年会費：8,000円（機関会員） 4,000円（個人会員）

例会開催回数：10回

延べ参加人数：約130人

ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/public/index.htm>

活動

1) 基本テーマ

知識と情報の共有化を目的に、講義を通じて図書館業務を遂行する上で必要とされる知識・技能の修得に努める。また、大学図書館を取り巻く環境の変化について、国内外の情報を収集・理解・分析し、今後の日本の大学図書館の方向性を確認する。

2) 活動の概要

基本的には講義とグループ研究の2本立てで実施した。また、会員が所属する図書館見学も積極的に行った。

①講義

毎回の定例会の講義テーマを決定し、そのテーマに沿った講師を招聘し、受講した。今年度は図書館スタッフにおける授業運営の事例紹介、学生を活用した図書館サービス事例の紹介、図書館経営、著作権等の講義を受講した。

②グループ研究

2008年度に引き続き、研究テーマを絞り込み、以下の各テーマに分かれて研究活動を行った。成果物として、研究活動報告書の作成も行った。

- ・SA(Student Assistant)
- ・蔵書評価
- ・共同保存図書館

資料

1) 月例会テーマ

4 月例会：4 月 20 日（月）13：00～17：00 成城大学

①成城大学図書館見学

②「図書館クラスターを構成する概念の検討：経営学を中心としたアプローチ」
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス事務長 加藤好郎氏

5 月例会：5 月 11 日（月）10：20～17：00 慶應義塾大学（湘南藤沢）

①慶應義塾大学看護医療学部図書室見学

②「資料検索法：図書館スタッフによる授業運営の実際」
慶應義塾大学 SFC メディアセンター係主任レファレンス担当 保坂睦氏

③「米国の大学図書館における Peer Library Tutor(PLT)の実際」
明治学院大学図書館資料管理課コンテンツ係 椎名ちか子氏

6 月例会：6 月 8 日（月）10：30～17：00 和光大学

①和光大学図書館見学

②「これからの大学図書館職員に期待するスキルとは」
中央大学文学部事務室 梅澤貴典氏

③「大学図書館の環境整備：デジタルイミグランドからネイティブへ」
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス事務長 加藤好郎氏

7 月例会：7 月 8 日（月）10：30～17：30 慶應義塾大学（湘南藤沢）

①慶應義塾湘南藤沢中高図書室見学

②「The Keio ACADEX Project The Vision of a Community Library and Primary School」
慶應義塾大学 コンゴ小学校設立プロジェクト代表 サイモン・ベデロ氏

夏期研究合宿：8 月 24 日（月）～26 日（水） 石和温泉旅館（山梨）

①「米国における図書館の歴史と現状そして改革」
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス事務長 加藤好郎氏

②ディベート「図書館長を務めるべきなのは教員か図書館員か」

10 月例会：10 月 19 日（月）10：30～17：00 実践女子大学（日野）

①実践女子大学図書館見学

②「お茶の水女子大学における Library Student Assistant(LiSA)について」
お茶の水女子大学図書・情報チームリーダー(附属図書館) 茂出木 理子氏

③「米国の大学図書館基準と SA について」
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス事務長 加藤好郎氏

11 月例会：11 月 9 日（月）13：00～17：00 慶應義塾大学（湘南藤沢）

①「Improving student life, learning and support through Collaboration,integration and innovation」

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス事務長 加藤好郎氏

12 月例会：12 月 7 日（月）10：30～17：00 桜美林大学（四谷）

①報告大会発表リハーサル

1 月例会：1 月 25 日（月）10：30～17：00 女子栄養大学（坂戸・駒込）

①女子栄養大学図書館見学

②「戦後の図書館の歴史、プライバシーそして著作権」

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス事務長 加藤好郎氏

③「女子栄養大学出版部について」

女子栄養大学出版部副部長 湯浅俊夫氏

3 月例会：3 月 8 日（月）9：30～17：00 慶應義塾大学（日吉）

①慶應義塾大学理工学メディアセンター見学

②「理工学メディアセンター概要と最近の取り組み」

慶應義塾大学理工学メディアセンターテクニカルサービス担当
向當麻衣子氏

③慶應義塾大学日吉メディアセンター見学

④「慶應義塾大学日吉メディアセンター(日吉図書館)の最近の動向」

慶應義塾大学日吉メディアセンターパブリックサービス担当課長 長島敏樹氏

4. 図書館運営戦略研究分科会

代表者：櫻井 友美（国士舘大学）

会員数：3校 3名

会 員：小生方 麻里（麗澤大学） 関口 千登世（城西大学）

年会費：なし

例会開催回数：11回（夏期集中研究会含む）

延べ参加者数：33名

分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/senryaku/index.htm>

活動

1) 基本テーマ

各大学図書館における「中・長期構想」の作成に携わることを想定し、それに見合う図書館運営への意識を育成することを目指す。

2) 活動の概要

図書館業務について多面的に考察し、あるべき大学図書館像を提示することを主題とする。集会活動は、討議中心に「情報の交換」「現状の把握」「問題解決の方策」等に重点を置き、今後の図書館運営に携わる際の基礎能力を高める。今期は話題になっている各種図書館を訪問し、各図書館の戦略的経営や現状を把握する活動を行った。月例会では会員所属図書館のトラブルの現状について報告・意見交換をし、危機管理に関する文献を用いて意識を高めた。その延長として「トラブル報告書」を作成、さらにクレーム対応研修へ参加した。

資料

1) 月例会テーマ

4月例会 4月28日（火） 会場：国士舘大学図書館 参加者：3名

- ・ 2009年度活動計画について
- ・ クレーム対応に関するセミナーへの参加について
- ・ 各種セミナーへの参加（出版社、図書館総合展等）
- ・ 見学図書館の候補について
- ・ 2009年度の予算計画書、分科会ホームページについて

5月例会 5月29日（金） 会場：城西大学水田記念図書館 参加者：3名

- ・ 合同委員会の報告
- ・ 夏季集中研究会について
- ・ トラブル対処報告書フォーマットと事例について
- ・ 城西大学水田記念図書館見学

6月例会 6月11日（木） 会場：神田外語大学附属図書館 参加者：3名

- ・ 神田外語大学附属図書館を訪問 質疑応答および案内による見学
- ・ 夏期集中研究会について

7月例会 7月16日(木)

会場：株式会社インソース セミナールーム 参加者：3名

- ・ 株式会社インソース主催のクレーム対応研修に参加
- ・ 他の参加者とグループ別になり、事例ごとにロールプレイングにて実習

夏期集中研究会 8月5日(水) 8月6日(木) 8月7日(金)

図書館を見学し人的災害についての検証と2年間の活動報告の総括

第1日目 8月5日(水)

① 午前 会場：東京都北区立中央図書館 参加者：3名

- ・ 東京都北区立中央図書館を訪問 案内による見学および質疑応答

② 午後 会場：日清食品 食の図書館を見学

第2日目 8月6日(木) 8月7日(金)

会場：国士舘大学 参加者：3名

- ・ 今期見学した図書館の内容のまとめ
- ・ 報告大会に向けての発表内容について

10月例会 10月7日(水) 会場：国士舘大学図書館 参加者：3名

- ・ 報告大会について
- ・ 報告大会の発表原稿の内容と作成担当者決め

11月第1回例会 11月11日(水) 会場：パシフィコ横浜 参加者：3名

- ・ 第11回図書館総合展の展示見学
- ・ 「こんなときどうする？図書館の危機・安全管理」フォーラム参加
- ・ その他のプレゼンテーション、セミナーを聴講

11月第2回例会 11月24日(火) 会場：国士舘大学図書館 参加者：3名

- ・ 報告大会当日までの提出物のスケジュールについて
- ・ ホームページの記載内容と更新について
- ・ 発表原稿およびPPTスライドの確認、修正
- ・ 発表の練習

12月例会 12月7日(月) 会場：国士舘大学図書館

東京理科大学森戸記念館 参加者：3名

- ・ 活動報告書および会計報告書の作成、提出について
- ・ 発表原稿、PPTスライドの最終確認
- ・ 発表会場の東京理科大学にて機器等の確認

1月例会 1月25日(月) 会場：麗澤大学図書館 参加者：3名

- ・ 報告大会発表要旨の内容確認
- ・ 年度末提出の活動報告書、会計報告書について
- ・ 麗澤大学図書館見学

2月休会

3月例会 3月11日（木） 会場：東京農業大学図書館 参加者：3名

- ・ 図書館の現状、クレーム対応等についての質疑応答
- ・ 東京農業大学図書館見学
- ・ 「食と農」の博物館見学

2) 刊行物及び事業

なし

以上

5. レファレンス研究分科会

代表者：井口良子（國學院大學図書館）

会員数：5名

会 員：横田地妙（創価大学図書館）

藤原美佳（駒澤大学図書館）

小幡誉子（大正大学附属図書館）

近藤裕子（専修大学図書館）

年会費：1,000 円

例会開催回数：11 回

延べ参加者数：55 名

活動

1) 基本テーマ

「学習支援」の場としてのラーニングコモンズについて

2) 活動の概要

「学習支援」の場としての図書館環境の整備について意見交換を行った。また、それらに関連した、独自性のある大学図書館の取り組みについての事例調査を行った。

資料

1) 月例会テーマ

4月例会 4月14日（火）／専修大学 生田キャンパス

内容：

1. 今期の例会ローテーションについて
2. 新代表者への業務連絡
3. 今後の研究活動や研究テーマについて
4. 図書館見学

5月例会 5月28日（木）／駒澤大学

内容：

1. 分科会ホームページについて
2. 代表者会議報告
3. 研究テーマについて
4. 今後の見学候補について

6月例会 6月18日（木）／國學院大学 渋谷キャンパス

内容：

1. 夏季研究合宿について
2. 情報リテラシー教育研究分科会との合同会議
3. 神殿・祭式教室見学
4. 図書館見学

7月見学 7月23日（木）／国際基督教大学

内容：

1. 図書館（インフォメーション・コモンズ）見学

夏期集中研究会 9月3日(木)、4日(金)／駒澤大学

内容：

1. 研究分科会報告大会発表資料作成
2. 今後の予定について(鶴見大学図書館見学等)

9月見学 9月30日(水)／鶴見大学

内容：

1. 学習アドバイザーの聞き取り調査
2. 図書館見学

10月例会 10月21日(水)／東京女子大学、創価大学

内容：

1. 東京女子大学「マイライフ・マイライブラリー」の聞き取り調査
2. 東京女子大学図書館見学
3. 研究分科会報告大会発表資料作成

11月例会 11月20日(金)／大正大学

内容：

1. 代表者会議報告
2. 研究分科会報告大会発表資料作成
3. 今後の予定について

12月例会 12月4日(金)／國學院大学 横浜たまプラーザキャンパス

内容：

1. 報告大会会場下見について
2. 当日の配布資料について
3. 研究分科会報告大会発表準備

1月例会 1月22日(金)／立教大学

内容：

1. 今後の報告書等作成について
2. 次回の例会について

3月例会 3月16日(火)／駒澤大学

内容：

1. 事務連絡
2. 報告書送付作業

2) 刊行物及び事業

・ニュースレター発行

掲載内容は、前回例会の記録、次回例会のレジュメ、図書館見学記等
現役会員とOB・OG(購読希望者)向けにメールにて配信

・レファレンス研究分科会報告書 2008－2009

6. 理工学研究分科会

代表者：内山光子（日本大学）＊小林瑞希から変更

会員数：3名（正会員：3名）＊2009年8月より2名（正会員：2名）

会 員：内山光子（日本大学）

平田さくら（明治大学）

小林瑞希（中央大学）＊2009年7月退会

年会費：なし

例会開催回数：2回

延べ参加者数：4名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/rikogaku/>

活動

1) 基本テーマ

理工系資料の研究と探索法

2) 活動の概要

- ・ 電子ジャーナルや各種データベースを中心にした理工系ガイダンスモデルについて、バージョンアップしたデータベースの内容修正を行う。
- ・ 理工学系専門資料別P Pを作成し、ガイダンスモデルに追加する。
- ・ 分科会で作成したP Pを活用して、分科会参加大学でガイダンスを実施する。
- ・ 研究報告大会の発表準備を行った。2006-2007年度では休会で発表を行わなかったため、発表では2006-2009の2期4年の研究報告を行うこととして発表要旨および発表用パワーポイントを作成した。
- ・ 正会員が少数なため、メーリングリスト（以下ML）による活動を中心に行った。なお、代表者が人事異動で退会し、8月以降は2名の会員で活動を行った。

資料

1) 月例会テーマ

10月例会 10月27日(火) 日本大学 (船橋校舎) 参加者2名

研究報告大会に向けての準備作業

パワーポイントの修正と、追加項目などを検討した。

作成済みガイダンスモデルの内容確認と修正について専門資料別のP Pについて、分担を決めた。

次年度の活動内容について検討した。

12月例会 12月14日(月) 東京理科大学森戸記念館 参加者2名

研究報告大会の発表について

当日の発表内容と質問等について検証した。

2) 刊行物及び事業

「理工学文献探索データベース Rikoo!」 <http://www.rikoo.jp/index.php>

7. 西洋古版本研究分科会

代表者：坪谷 卓浩（日本体育大学）

副代表者：泉 浩三（東京薬科大学）

会員数：5名

会員：上田 健一（獨協大学）

齊藤 理香（中央大学）

中島 悠史（文化女子大学）

年会費：1500円

例会開催回数：10回（夏季集中研究会を含む）

延べ参加人数：53名

研究分科会ホームページ URL：http://www.jaspul.org/e-kenkyu/early_p_book/

活動

1) 基本テーマ

- ①西洋古版本に関する書誌学的研究（書誌学的知識の習得をも含む）
- ②資料収集、整理、保存、展示など、図書館で実際に古典資料を扱う際に必要な知識の習得

2) 月例会概要

今年度は、「Descriptive cataloging of rare materials (books)」を日本語に翻訳する作業を通して、西洋古版本を記述するための目録規則を学んだ。夏期合宿では、獨協大学図書館にて、同館所蔵資料の記述書誌を作成し、中央大学図書館では、講師を招き西洋古版本に関する勉強会を開催した。10月からは、報告大会のための準備を行った。また、1月ならびに3月は、2年間の活動を総括できるような施設を見学した。

資料

1) 月例会テーマ

4月例会

4月24日（金） 日本体育大学 参加者5名

- ① 原書講読

5月例会

5月29日（金） 中央大学 参加者5名

- ① 原書講読
- ② 夏期合宿検討

6月例会

6月29日（月） 文化女子大学 参加者4名

- ① 原書講読
- ② 夏期合宿検討

7月例会

7月21日（火） 獨協大学 参加者4名

- ① 原書講読
- ② 夏期合宿検討

9 月夏季集中研究会

9 月 3 日（木）～4 日（金）

獨協大学図書館、中央大学図書館

参加者（延べ人数）：10 名

- ① 獨協大学図書館にて、同館所蔵の「Travels into several remote nations of the world : in four parts / by Lemuel Gulliver [Jonathan Swift], first a surgeon, and then a captain of several ships.」の現物を確認し、その記述書誌を作成した。
- ② 中央大学図書館にて、一橋大学社会科学古典資料センターの床井啓太郎氏を講師として招き、「古版本の目録作成 -17 世紀エルゼビア刊本を通じて-」と題した勉強会を行った。

10 月例会

10 月 20 日（火） 獨協大学 参加者 4 名

- ① 報告大会に向けての資料調査
- ② 報告大会資料作成

11 月例会

11 月 16 日（月） 獨協大学 参加者 4 名

- ① 報告大会に向けての資料調査
- ② 報告大会資料作成

12 月例会

12 月 1 日（火） 文化女子大学 参加者 4 名

- ① 報告大会準備

1 月例会

1 月 21 日（木） 明星大学 参加者 7 名

- ① 大学所蔵貴重書閲覧
- ② 図書館見学

3 月例会

3 月 5 日（金） 一橋大学社会科学古典資料センター 参加者 6 名

- ① 所蔵資料閲覧
- ② センター内見学
- ③ 一橋大学附属図書館見学

2) 刊行物及び事業

なし

8. 和漢古典籍研究分科会

代表者： 井上玲子（中央大学）

会員数： 6校6名 + 講師1名

会 員： 井上玲子（中央大学）

今枝連子（駒澤大学）

白土正子（成城大学）

鶴田香織（大東文化大学）

沼田晃佑（身延山大学）

吉田千登世（鶴見大学）

高橋良政講師（日本大学）

年会費： なし

例会開催回数： 11回（夏の集中研修会期研究合宿を含む）

延べ参加者数： 59名（第8回までで）

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kotenseki/aboutus.html>

活動

1) 基本テーマ

日本・朝鮮・中国で刊行された和漢古典籍についての書誌学的研究を通じて、大学図書館員としての知識を深め、目録作成等の技能の向上を図る。

2) 活動の概要

- ・前年度から引き続き、藤井隆著『日本古典書誌学総説』（和泉書院，1991）を輪読。古籍・書誌学について知識の習得を目指す。
- ・会場校所蔵の古籍について、実際に調書を作成してみる。適宜講師の批評・指導を受けた。
- ・研究報告大会に向けての準備。何を発表するのか、テーマを数度の例会で検討。分科会会員が日頃業務で直面している問題点である、和装本の保存と補修についてと、表紙からみる無刊記本の刊行時期推定をテーマとすることとし、補修の実習を行ったり、多数の和装本の表紙の調査を行ったりした。

資料

1) 月例会テーマ

第1回：平成21年4月17日（金） 於駒澤大学図書館・参加7名

①補修の講習についての検討（会場、依頼する業者、金額等）

②研究報告大会の内容の検討・役割分担割り振り

大まかに、表紙について、補修について、和装本における資料保存について（データ調査）の3つを発表内容とすることを決めた。

③テキスト『日本古典書誌学総説』輪読

④調書作成

会場校所蔵の古籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

第2回：2009年5月29日（金） 於大東文化大学図書館・参加6名

①大東文化大学図書館所蔵の和装本閲覧

②研究報告大会の準備（表紙と刊記の写真撮影）

③研究報告大会の日程等についての事務連絡

④補修実習についての事務連絡

第3回：2009年6月26日（金） 於鶴見大学図書館・参加7名

①研究報告大会の準備（発表時に参考になる資料の写真撮影）

②和装本修補講習会

松本研究室による修補実演（裏打ち、虫損穴埋め、糸綴じ）

虫損穴埋め・糸綴じ・紙縫作成の実習

③下記集中研究会の事務連絡（日程、内容等）

第4回：2009年7月17日（金） 於鶴見大学図書館・参加6名

①研究報告大会の準備（発表の大まかな流れ、資料の候補選定）

夏期集中研究会：2009年8月5日（水）～7日（金）

於成城大学図書館・参加（3日間延べ）21名

①研究報告大会の準備

前回決めた発表の流れを考え、以下の3パートに分かれて作業を行う。

- ・補修保存について
- ・表紙についての文章作成
- ・表紙のデータ作成、写真撮影

最終日にはそれぞれのデータをパワーポイントに組み込んでまとめた。各自、次回の例会までにパワーポイントのチェックを行うことになった。

第5回：2009年9月18日（金） 於駒澤大学図書館・参加7名

①研究報告大会の準備

パワーポイントで作成した発表資料に修正を行った後、全員で確認。また、配布資料の作成も行った。

第6回：2009年10月30日（金） 於中央大学図書館・参加6名

①研究報告大会の準備

パワーポイントの文章を全員で確認しながら修正した。

用語リストを配布資料として追加することとした。

第7回：2009年11月20日（金） 於大東文化大学図書館・参加6名

①研究報告大会の当日の流れについての事務連絡

②募集要項の確認

③研究報告大会の準備

資料及び原稿の確認

第8回：2009年12月4日（金） 於鶴見大学図書館・参加7名

①研究報告大会について事務連絡

②来年の分科会の日程確認

③研究報告大会の準備

発表原稿の確認および予行演習

第9回：2010年1月29日（金） 於中央大学図書館・参加6名

①報告大会発表要旨原稿の校正

②次期分科会の活動内容についての検討

第10回：2010年3月19日（金） 於成城大学図書館・参加7名

①次期会員の確認

②次期分科会活動内容検討

③次期分科会会場・開催時期決定

④版木刷り

2) 刊行物及び事業

なし

9. 情報リテラシー教育研究分科会

代表者：池田 有紀（横浜商科大学）

会員数：3名（2010年3月31日現在）

会員：池田 有紀（横浜商科大学）

樋口 知義（東洋大学）

小海 理恵（和光大学）

年会費：2,000円

例会開催数：9回

延べ参加者数：34人

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/joholite/index.html>

活動

1) 基本テーマ

1年次教育における「情報リテラシー教育」のモデル案を作成する。

2) 活動の概要

1年次教育の一環として図書館員が行う、情報リテラシー教育の講習モデルを作成する。またそのモデルを現在行われている各大学図書館の情報リテラシー教育に活かす。

資料

1) 月例会テーマ

第1回月例会

開催日 2009年4月20日

会場 和光大学附属梅根記念図書・情報館

テーマ

- ・ガイダンスモデル案の検討

第2回月例会

開催日 2009年5月18日

会場 立教大学図書館

テーマ

- ・ガイダンスモデル案の検討

第3回月例会

開催日 2009年6月18日

会場 國學院大学図書館（渋谷キャンパス）

テーマ

- ・ガイダンスモデル案の検討
- ・レファレンス分科会との合同協議

第4回月例会

開催日 2009年7月28日

会場 東洋大学付属図書館川越図書館

テーマ

- ・ガイダンスモデル案の検討
- ・夏季集中研究の準備

夏期集中研究（第5回月例会）

開催日 2009年9月3日

会場 横浜商科大学つるみキャンパス図書館

テーマ

- ・ガイドンスモデル案の検討

第6回月例会

開催日 2009年10月27日

会 場 和光大学附属梅根記念図書・情報館

テーマ

- ・ガイドンスモデル案のデモンストレーション
- ・ガイドンスモデル案の再検討

第7回月例会

開催日 2009年11月19日

会 場 東洋大学付属図書館川越図書館

テーマ

- ・最終発表準備

第8回月例会

開催日 2009年12月15日

会 場 東京理科大学森戸記念館

テーマ

- ・最終打ち合わせ
- ・最終発表

第9回月例会

開催日 2010年3月3日

会 場 和光大学附属梅根記念図書・情報館

テーマ

- ・次年度引継ぎ資料の作成

2) 刊行物及び事業

特になし

10. L-ラーニング学習支援システム研究分科会

代表者：阿部潤也（東京歯科大学）

会員数：5校5名

会 員：阿部潤也（東京歯科大学）

小田切夕子（麻布大学）

金子和代（早稲田大学）

田代陽子（日本女子大学）

南雲彰子（国際大学）

年会費：0円

例会開催回数：6回

延べ参加者数：30名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/11s/>

活動

1) 基本テーマ

大学図書館員の自己点検、自己評価、自己研鑽を目的とした学習支援システムの構築ならびに評価、分析

2) 活動の概要

2008年度に構築した「大学図書館員のためのリポジトリ」のコンテンツ収集のためにウェブアンケートの実施等、様々試みた。また、更なる有効活用のために iGoogle を使用したトップページの構築を行った。図書館見学を通じて得られたことを基にエルラー的 PBL 構築の足がかりとした。

資料

1) 月例会テーマ

第1回例会

2009年05月12日（火）13:00-17:50 東京歯科大学（水道橋キャンパス）

1. 事務連絡 2. アンケートについて 3. 学習支援システムについて

第2回例会

2009年06月19日（金）13:00-18:20 早稲田大学（早稲田キャンパス）

1. 事務連絡 2. アンケート実施について 3. 学習支援システムについて 4. 課題と次回について

第3回例会

2009年09月10日（木）13:00-17:20 埼玉大学（東京ステーションカレッジ）

1. 事務連絡 2. 学習支援システムについて 3. 発表について 4. その他

第4回例会

2009年10月27日（火）13:00-17:00 埼玉大学（東京ステーションカレッジ）

1. 事務連絡 2. 発表について

第5回例会

2009年12月10日（木）14:00-17:10 早稲田大学（早稲田キャンパス）

1. 事務連絡 2. 報告大会発表リハーサル

第 6 回例会

2010 年 01 月 29 日（金）14：00-17：00 IAAL（大塚事務所）

1. 事務連絡 2. 発表反省 3. PBL について 4. 学習支援システムについて 5. 次期分科会活動の計画

2) 刊行物及び事業

【TakaQ による L ラーニング】

<http://www.l-learning.jp/takaq/>

【Xoops による L ラーニング】

<http://www.l-learning.jp/xoops/>

【Moodle による L ラーニング】

<http://www.l-learning.jp/moodle/>

【携帯電話による L ラーニング】

<http://www.l-learning.jp/i/>

【大学図書館のためのリポジトリ】

<http://www.l-learning.jp/xoonips/>

阿部潤也. L-ラーニング「大学図書館員のためのリポジトリ」. 医学図書館 2009;56(1):33-38.

【L-ラーニングとは】

図書館員のリテラシーやスキルアップのための自己学習を” L-ラーニング” と命名した。これは、e-ラーニング（WBT=Web-Based Training）を利用したオンライン教育の手法をヒントに考え出した造語である。L-ラーニングの L は Library Librarian Literacy をイメージしている。

1 1. 研修分科会（2009 年度新設）

代表者：宮川良男（研究部担当理事校：東京理科大学）

会員数：27 名

会 員：佐藤 飛鳥（学習院大学） 小山 信弥（関東学院大学）
浜田 一浩（共立女子大学） 撰 正弘（国立音楽大学）
清水 道太（国際基督教大学） 志間 陽子（国士舘大学）
古越 奈央（相模女子大学） 神山 裕美（作新学院大学・女子短期大学）
松濱 純美（昭和音楽大学） 矢沢 公智（昭和女子大学）
高木 彩（白百合女子大学） 山丸 菜々子（聖学院大学）
高木 直子（清泉女子大学） 山田 和宏（創価大学）
小谷 美穂子（高千穂大学） 小泉 誠（玉川大学）
金井 裕之（東海大学） 森 加奈子（東京経済大学）
天野 久栄（東京情報大学） 橋本 郷史（東邦大学）
橋本 香織（日本女子大学） 深瀬 史穂（武蔵大学）
千葉 久仁子（明治学院大学） 杉本 裕子（山梨英和大学）
宮尾 香奈子（立教大学） 島田 貴司（立正大学）
道祖尾 京子（和洋女子大学）

※ 登録会員の参加が困難な場合は、所属機関より各回、別の者が受講することも可能。

年会費：5,000 円

開催回数：4 回

延べ参加者数：99 名

研究分科会ホームページURL：なし

活動

1) 基本テーマ

発展し続ける情報化社会の中で大学図書館職員にとって必須の基本的知識を実態に即した技術として習得することをテーマに、既存の研究分科会参加の準備機能を持つ場として 2009 年度に新設された。

研修内容と目的概略

- ① 大学の中で、図書館員の役割を理解できるようにする。
- ② 利用者に必要な情報を組織的かつ迅速に対応できるようにする。
- ③ 情報化社会の最新情報に到達し実務に反映できるようにする。

2) 活動の概要

研修は NPO 法人大学図書館支援機構の企画・運営で行い、研究部担当理事校が運営を管理する。各回とも、テーマに基づいた、事前学習・講演・グループ討議等を実施する。

会場は、各回とも埼玉大学東京ステーションカレッジ（JR サピアタワー9 階）を利用する。

資料

1) 月例会テーマ

第 1 回 2009 年 5 月 22 日（金）

テーマ：収集

講演：①国公立大学図書館コンソーシアムの現状

- (植草学園大学 図書館：森 生也氏)
②外部資金獲得と図書館マネジメント
(明治大学 学術・社会連携部 図書館総務事務室：中林 雅士氏)

第2回 2009年7月10日(金)

テーマ：大学図書館サービスの新たな展開

- 講演：①次世代図書館員のための自己アピール講座
ー存在感訴求力をどう身に着けるかー
(帝京大学総合教育センター 准教授：仁上 幸治氏)
②大学図書館における「ブランド構築」と「広報戦略」
ー「大学図書館だから」を理解する人を、一人でも多く増やすためにー
(広報制作ディレクター・コピーライター：渡邊 崇氏)

第3回 2009年10月16日(金)

テーマ：目録世界の新たな動向

- 講演：①「次世代目録所在情報サービスの在り方について」と最近の目録の動向について
(国立情報学研究所 学術基盤部 学術コンテンツ課：平田 義郎氏)
②インターネット時代のエンドユーザサーチとこれからの OPAC のあり方
(農林水産研究情報総合センター：林 賢紀氏)

第4回 2009年12月4日(金)

テーマ：「ラーニング・コモンズ」の概要

- 講演： 学習支援の場としてのラーニング・コモンズ
ー日米大学図書館におけるライティング・サポート取組み事例紹介ー
(立教大学図書館 小坪 守氏)
実習： 分かりやすいパブリック・スピーチのポイント
(NPO 法人大学図書館支援機構：高野 真理子氏)

研究分科会報告大会での活動報告

- 日時等： 2009年12月15日(火) 東京理科大学 森戸記念館
報告者： 高木 彩(白百合女子大学)
松濱 純美(昭和音楽大学)
古越 奈央(相模女子大学)
島田 貴司(立正大学)

2) 刊行物及び事業

なし

《研究分科会刊行物一覧》

分科会名	逐次刊行物研究分科会	レファレンス研究分科会	
書名 又は 誌名	逐次刊行物研究分科会報告	レファレンス研究 分科会ニュース	レファレンス研究 分科会報告
刊行頻度	隔年1回（各期で1回） *2008/2009年度は未刊行	月1回	隔年1回（各期で1回）
価格	2,000円	無料	無料
発行部数	200部		100部
配布対象 頒布方法 在庫	継続購読（大学図書館等）約100部。 （代金支払は銀行口座振込） 会員や当該号執筆者へは無料で頒布。 在庫は数十部。 57号より一部について分科会HP上で公開。 バックナンバーを、DVDにて継続購読先に 配布予定。	分科会会員、OB・OG会 員（購読希望者）宛 てに、メール添付文 書にて配信。	分科会会員、分科会 会員所属機関、途中 退会した会員、OB・OG 会員、国会図書館、 専門機関探訪で訪問 した機関などに配 布。 在庫は数十部。
発行目的 主な内容	逐次刊行物にかかわる研究の公表および 分科会の活動報告。 会員の研究発表や講演録、分科会活動の 概要報告等。	事務連絡、前回例会 の記録、次回例会の レジュメ、図書館見 学記等。	共同研究、大学図書 館見学記、講演記録 等。
コメント 今後の 刊行予定	逐次刊行物研究分科会HPにて、第57号より 一部公開、第59号（最新号）は全文公開。 第60号以降の刊行およびHPでの公開につい ては検討中。		

※ 以下の研究分科会は刊行物なし

分類研究分科会
パブリック・サービス研究分科会
図書館運営戦略研究分科会
理工学研究分科会
西洋古版本研究分科会
和漢古典籍研究分科会
情報リテラシー教育研究分科会
Ｌ－ラーニング学習支援システム研究分科会
研修分科会

《2009 年度研究分科会月例会について（報告）》

研究部担当理事校 東京理科大学図書館
月例会担当理事校 関東学院大学図書館

【2009 年度 4 月から担当】

【2009 年度 4 月から担当】

1. 月例会・夏期研究合宿開催状況

研究分科会名称	月例会 開催数	夏期合宿（集中研究会） 開催期間
分類研究分科会	10	9 月 9 日～9 月 11 日
逐次刊行物研究分科会	9	7 月 25 日、8 月 31 日
パブリック・サービス研究分科会	9	8 月 24 日～8 月 26 日
図書館運営戦略研究分科会	10	8 月 5 日～8 月 7 日
レファレンス研究分科会	10	9 月 3 日～9 月 4 日
理工学研究分科会	2	実施せず
西洋古版本研究分科会	9	9 月 3 日～9 月 4 日
和漢古典籍研究分科会	10	8 月 5 日～8 月 7 日
情報リテラシー教育研究分科会	8	9 月 3 日
L-ラーニング学習支援システム 研究分科会	5	9 月 8 日、9 月 10 日

2. 2009 年度中の動き

2008 年度末に企画広報研究分科会で代表者の退会があり、会員数が 2 名となったため、活動の継続が難しいとして休会となった、また、休会中の北海道地区研究分科会は、5 月に代表者より申し出があり廃会となった。理工学研究分科会でも 7 月に世話人の退会があり、会員数が 2 名となったが、年度内の活動は 2 名で継続された。2009 年 4 月以降に連絡のあった入会者は 1 名、退会者は 5 名に及んだ他、会員区分変更により、2 名が正会員から個人会員に区分変更された。

2 年単位の活動の途中であるにもかかわらず、会員の減少が続いた。

今期より活動期間を 1 年に限定して発足した研修分科会については、27 名で開始され、参加率等も高く、研究部活動を充実させる上で一定の成果があったと考えられる。

3. 今後の課題

2008 年度から 2009 年度の 2 年間の活動期間中に、中途入会者 2 名に対して、退会者が 13 名、正会員から個人会員への会員区分変更が 2 名と、計 15 名が正会員ではなくなっている。特に、会員異動の多くが 2009 年 3 月から 4 月に集中しており、理由としても学内での異動によるものが多い。各分科会とも会員数が少なくなっている中で、大学図書館職員の異動は以前よりも頻繁に行われる傾向にあることから、2 年目に異動による退会が重なると、中途入会も期待できず、状況によっては、2008 年度末の企画広報研究分科会のように休会となる可能性が高い。

十分な研究成果を期待しての 2 年という活動期間が、会員の活動期間中の異動等に対応できない要因となっているという点について、今後検討が必要になると思われる。

また、活動期間を 1 年とする研修分科会の会員が、活動終了後改めて研究分科会に参加するようなサイクルが生まれることにより研究分科会活動が活性化することを期待したい。

《2010／2011 年度研究分科会会員の更新結果（報告）》

研究部担当理事校 東京理科大学図書館
研究分科会更新担当理事校 跡見学園女子大学図書館

1. 更新状況 (2010 年 4 月 20 日現在)

	分科会名	更新前(2010年3月)		更新後(2010年4月)		差異	備考
1	分類研究分科会	6 校	7 名	4 校	6 (5) 名	-1	
2	逐次刊行物研究分科会	3 校	4 名	8 校	9 (1) 名	+5	
3	パブリック・サービス研究分科会	12 校	16 名	12 校	12 (1) 名	-4	
4	図書館運営戦略研究分科会 (2010/2011年度～休)	3 校	3 名	3 校	3 名	-3	休会
5	レファレンス研究分科会	5 校	5 名	7 校	7 (1) 名	+2	
6	理工学研究分科会	2 校	2 名	3 校	3 (2) 名	+1	
7	相互協力研究分科会 (2008/2009年度～休会)						廃止予定
8	西洋古版本研究分科会	5 校	5 名	3 校	3 (0) 名	-2	
9	企画広報研究分科会 (2009年4月～休会)	2 校	2 名			-2	休会予定
10	和漢古典籍研究分科会	5 校	6 名	8 校	8 (1) 名	+2	
11	情報リテラシー教育研究分科会	3 校	3 名	4 校	4 (0) 名	+1	
12	eラーニング学習システム研究分科会	4 校	5 名	2 校	2 (2) 名	-3	
13	研修分科会 (単年度)	27 校	27 名	17 校	19 (0) 名	-8	

①43 校 73 名参加 (2010 年 4 月 20 日現在) 上記参加校は延数

②()内は、前年度からの継続会員数

③企画広報研究分科会は、2009 年 4 月から 2010 年 3 月まで休会

(2009 年 4 月 14 日第 1 回研究部運営委員会承認)

④北海道地区研究分科会は廃止

(2009 年 5 月 15 日第 2 回研究部運営委員会承認)

⑤図書館運営戦略研究分科会は参加希望者が成立可能数に満たないため、2010/2011 年度休会予定。

他の分科会においても参加申込辞退により成立可能数に満たないため、2010/2011 年度休会予定となる可能性がある。

(2010 年 3 月 12 日第 8 回運営委員会承認)

2. 研究分科会会員更新経過

[更新スケジュール]

2009 年 9 月 18 日(金)

研究分科会代表者宛 「2010／2011 年度研究分科会会員募集要項の原稿提出について(依頼)」

加盟大学図書館長宛 「新規研究分科会受付募集の案内について(お願い)」

東地区部会HPに「会員募集要項」および「新規研究分科会受付募集の案内について」を掲載

2010 年 1 月 15 日(金)

加盟大学図書館長宛 「研究分科会会員の更新について (お願い)」

東地区部会HPに「2010／2011 年度研究分科会会員の更新について」のお知らせと「研究分科会会員募集に関する手引き」を掲載

2010 年 3 月 1 日(月)

研究分科会代表者宛 「研究分科会参加希望者承認の諾否、及びその通知について」(参加希望名簿)を郵送

2010 年 3 月 29 日(月)

参加申込みのあった加盟大学図書館長宛「2010／2011 年度研究分科会会員の決定について(通知)」を郵送

[更新期間中の経緯]

2009 年

- 5 月 15 日(金) 第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議において、会員更新スケジュールの説明及び会員募集要項の原稿依頼
- 11 月 13 日(金) 第 2 回運営委員・研究分科会代表者合同会議において、会員募集要項の原稿提出を依頼
- 12 月 11 日(金) 研究分科会会員募集要項、統廃合届、名称変更届、新規届の締切
- 12 月 14 日(月) 第 7 回運営委員会にて、1 月以降の会員更新スケジュールの説明及び 1 月送付予定の文書「2010／2011 年度研究分科会会員の更新について (お願い)」の一部変更 (正会員以外の会員区分明示) についての確認

2010 年

- 2 月 15 日(月) 研究分科会参加応募を締切 (36 校 65 名)
 - 3 月 1 日(月) 各分科会代表者宛「研究分科会参加希望者承認の諾否、及びその通知について」と参加者名簿、申込書 (個人票) を付けた諾否書 (文書) を郵送、メールで詳細連絡
 - 3 月 10 日(水) 代表者からのメール、郵送による諾否回答締切
 - 3 月 29 日(月) 参加申込みのあった加盟大学図書館宛及び各分科会代表者宛に「2010／2011 年度研分科会会員の決定について (通知)」を郵送、個人会員宛にメール連絡
 - 4 月 2 日(金) 東地区部会 HP に「研修分科会会員追加募集」案内を掲載 (4 月 19 日締切)
- 2010 年 4 月 20 日現在参加者集計 43 校 73 名 含個人会員 3 名

3. 今後の課題

研究分科会参加会員数は前期 (2008/2009 年度) に比べ一割程減少した。正会員参加者減少の要因として職員の雇用形態多様化による職員構成の変化が考えられる。今期募集に際して正会員以外の会員区分を明示して参加募集を行なったが参加には結びつかなかった。休会により今期の活動を実施できない分科会も複数におよんでいる。活動予定の分科会であっても会員数の減少、継続会員の不在で運営自体が困難な分科会も少なくない。今後は休会になりそうな分科会と類似の研究内容を持つ分科会の統合を進め、1 分科会あたりの参加者数を増やす工夫が必要である。

2009 年度に新設された研修分科会 (単年度) は既成の研究主体の研究分科会と異なり、主に図書館初任者を対象に大学図書館員としての基本的知識の習得を目指す学習的機能を持った分科会である。今期研究分科会には 2009 年度研究分科会会員であった参加者が少なからずいる。今後、研修分科会から研究分科会の参加を促していくには、研修分科会は研究分科会参加につなぐ準備機能を持ち、研究分科会は研修分科会参加者の研究心を呼び起こす受け皿として役割を果たすことが重要となる。

研究部は双方の分科会の共生を考えつつ、さらに研究分科会が継続的な研究活動を行なえる体制を整備すべく柔軟に対応していくことが必要である。

《研究講演会》

私立大学図書館協会 2009 年度東地区部会研究講演会

日 時：2009 年 6 月 12 日（金） 13：45～16：45

会 場：獨協大学 天野貞祐記念館 大講堂

参加者：183 名

受 付 13：00～

1. 開会の辞 13：45～

司会者（研究部運営委員）跡見学園女子大学 菊地 秀明

2. 挨拶

研究部担当理事校 東京理科大学図書館長 宮本 岩男

3. テーマ

図書館の評価について－図書館における新たな指標 LibQUAL+®の概要とその実例－

（1）講演 「LibQUAL+と大学図書館のサービス評価」 14：00～15：00

東北学院大学文学部教授 佐藤 義則

質疑応答 15：00～15：15

<休 憩> 15：15～15：30

（2）講演 「慶應義塾大学における LibQUAL+®（ライQUAL）の実施とその評価」

15：30～16：30

慶應義塾大学理工学メディアセンター事務長 市古 みどり

質疑応答 16：30～16：45

4. 閉 会

※講演のレジメは、「私立大学図書館協会会報」134号に掲載予定。

《研修会》

2009年度研修会

日 程： 2009年10月22日（木）～10月23日（金）
会 場： 東京農業大学 図書館
参加者： 107大学 112名（いずれも延数）
テーマ： 行きたくなる図書館、利用したくなる図書館
－Library2.0に向けて－

《開催趣旨》

今回の研修会では、前年度「図書館評価」をテーマに、とりわけ利用者の視点を重視した図書館サービス評価の方法をご紹介する機会を持ったことをうけて、評価の結果、ユーザーからのインプットを活用することにより実現される図書館サービスとは何か、ティム・オライリーらによって提唱されたウェブの新しい利用法である Web 2.0 の概念から派生した「Library 2.0」をキーワードに、大学図書館の諸施策を考察することを目的とします。

テーマに掲げた「行きたくなる図書館」はユーザーが自ら進んで足を運びたくなる快適な場所としての図書館を、「利用したくなる図書館」は必要なときにいつでも必要なサービスを提供してくれる利便性に優れた手段としての図書館をそれぞれ意味します。

Web2.0 のテクノロジーを活用することにより構築される「次世代型図書館=Library 2.0」の姿を、サービススペースを意識した図書館建築、ユーザー参加型図書館作りなど多岐にわたる視点から、最近の動向を交えつつ考えていきたいと思います。

今後の図書館サービスを検討する一助となれば幸いです。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

《プログラム》

第1日（10月22日）

- * 受 付 9:45～10:15
- * 挨拶・オリエンテーション 10:15～10:30
会場担当校挨拶 東京農業大学図書館館長 鈴木 和春 氏
研修委員長挨拶 早稲田大学図書館調査役 今村 昭一
- * 基調講演：「大学図書館の21世紀：大学図書館員は何をしなければならないか」 10:30～12:00
千葉大学 文学部 教授 竹内 比呂也
- * 講 演：「関係性マネジメントのための利用者調査を目指して」 13:30～14:30
慶應義塾大学 理工学メディアセンター 上岡 真紀子
- * 事例報告：「図書館員が図書館建設に関わった！」 15:00～15:30
獨協大学 総務課 萬谷 衣加
- * 事例報告：「ボランティアは図書館を変えたか？－導入から14年－」 15:30～16:00
筑波大学附属図書館 情報管理課 仲川 敦子
- * 事例報告：「図書館ツアービデオを活用した利用者教育について」 16:00～16:30
亜細亜大学 学術情報部学術情報課 藤懸 徳仁

- * 懇親会：会場：東京農業大学世田谷キャンパス 17:15～19:15
「プチ・ラディッシュ」（「食と農」の博物館内）

第2日（10月23日）

- * 講演：「Library2.0 と次世代 OPAC」 10:00～11:30
慶應義塾大学 文学部 准教授 原田 隆史
- * 講演：「図書館 Web サービスの連携」 11:40～12:20
九州工業大学大学院工学研究院 准教授 井上 創造
- * 講演：「ポッドキャスト@千葉大図書館」 13:50～14:30
千葉大学附属図書館 情報サービス課 岩井 愛子
- * 講演：「ネットワーク時代のレファレンスサービス」 15:00～16:30
明治大学 文学部 教授 齋藤 泰則
- * まとめとアンケート 16:30～17:00
- * 特別企画：ポスター展示
- * 見学：東京農業大学図書館（自由見学）

大学図書館の21世紀

—大学図書館員は何をしなければならないか—

竹内 比呂也

千葉大学文学部／

附属図書館ライブラリー・イノベーション・センター

本日の筋書き

- * まずは「反省」
- * 大学をとりまく環境の変化
- * 図書館をとりまく環境の変化
- * 「研究」「教育」に図書館はどのように関わるべきか
- * まとめ

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

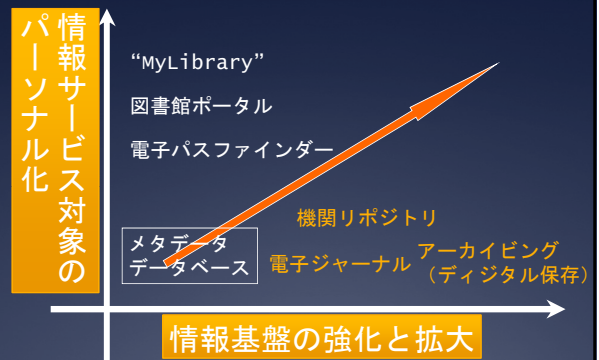
2

まずは「反省」： 2005年に考えたことは正しかった

- * メタデータデータベースが基盤である
- * メタデータデータベースをよりどころとして情報基盤の強化と拡大に向う
- * メタデータデータベースをよりどころとして情報サービス対象のパーソナル化が進む

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

3



私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

4

検証

- * メタデータデータベース
 - * 基盤として ⇒ ○?△?×?
- * NACSIS-CAT
 - * 所蔵一億件を突破
 - * 順調に推移してきたように見えるが、...いくつかの問題が出現
 - * 『次世代目録所在情報サービスの在り方について』(2009.3)
 - * 電子情報資源への対応
 - * サービス提供の在り方
 - * 目録作業負担の偏り
 - * 目録の質

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

5

検証

- * 情報サービス対象のパーソナル化
 - * MyLibrary ⇒ △?
 - * 図書館ポータル ⇒ △?
 - * 電子パスファインダー ⇒ △?
- * 情報基盤の強化と拡大
 - * 機関リポジトリ ⇒ ◎
 - * 電子ジャーナル ⇒ ◎
 - * アーカイビング ⇒ ×

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

6

反省すべき点

- * 図書館が大学の中で何をすべきかという視点の欠如
 - * 従来やってきたことの延長でしか考えなかったがそれは間違っていた。
- * そのために「図書館員」がどのような役割を果たすべきかという視点の欠如
 - * 図書館員の役割をもっと重視すべきであった。
- * 利用者理解の欠如
 - * これは今でも欠けている。。。かもしれない。

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

7

議論の出発点

- * 大学図書館は、大学における学生の学習や大学が行う高等教育と学術研究活動全般を支える重要な学術情報基盤であり、大学にとって不可欠な機能を有する大学の中核を成す施設として、大学の教育研究に関わる学術情報の体系的な収集、蓄積、公開や教育研究に対する支援などの役割・機能を担っている。しかしながら、現在、我が国の大学図書館は、大学を取り巻く社会の高度情報化の中で、大学における教育目的の多様化と研究活動に対する社会的要請の変化と高度化に対するため、その機能を拡充し、高機能化、効率化を図る必要に迫られている。また、大学全体の管理運営費が削減される状況の中で、人件費も含めた大学図書館運営費も例外ではなく、非常に厳しい状況にある。

(科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会「大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について(審議のまとめ)」(2007年7月))

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

8

大学をとりまく環境の変化

- * 教育をめぐる変化
- * 研究をめぐる変化
- * 学術情報流通をめぐる変化

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

9

教育をめぐる変化

- * 学生の変化
 - * 大学全入時代
 - * グーグル世代
 - * 従来とは異なる情報行動?
 - * 留学生の増加
 - * 「グローバル30」
 - * 学生10人に一人は留学生という時代がくるか?

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

10

教育をめぐる変化

- * 大学教育に対する考え方の変化
 - * 中教審答申『学士課程教育の構築に向けて』(2008.12)
 - * 「学士力」:課題解決能力の重視
 - * 「単位制度の実質化」:事前、事後学習の重視
 - * 「教育方法の改善」
 - * 「初年次における教育の配慮」

学部教育はどのように変わっていくのか?

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

11

教育をめぐる変化

- * 大学院の変質
 - * 大学院が研究職のみを養成する場では完全になくなった
 - * 専門職大学院
 - * 通常の大学院における高度職業人の養成の方向
 - * 大学院定員の削減など従来の大学院重視の流れの修正

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

12

教育をめぐる変化

- * 大学経営環境の変化
 - * 国立大学の法人化
 - * 大学間格差の拡大(財政基盤も含む)
 - * 公立大学の法人化
 - * 国立大学と同じような道をたどるのか?
 - * 一部私立大学に見られる「経営合理化」
 - * アウトソーシングの増加
 - * 大学間格差の拡大

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

13

教育をめぐる変化

- * 教室は相変わらず唯一の教育の場か?
- * 遠隔教育(e-learning)

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

14

研究をめぐる変化

- * 競争的資金の増大
 - * このことは、研究基盤整備の進捗を意味しない
- * 国際動向
 - * 学術研究における日本の国際的地位は不動か?
 - * 中国、インドの台頭
- * 電子ジャーナル利用の定着
 - * SCREAL調査(2007)

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

15

学術情報流通をめぐる変化

- * 電子化がもたらした学術情報流通モデルの変化
 - * 流通プロセスの電子化
 - * ビジネスモデルの変化
 - * 包括的アクセス契約(ビッグディール)
 - * オープンアクセスの推進

(日本語の図書についてはあまり目立った動きがない。)

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

16

図書館をとりまく環境の変化

- * 個々の大学図書館の活動範囲を超えたところで起こっている情報資源の電子化の動向
- * 電子ジャーナルの定着
- * 図書館自身が積極的に関与している電子化:機関リポジトリの進展

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

17

Google scholar

- * β版公開からすでに5年
- * 「著者名」「掲載誌名」「出版年」検索が可能
- * 検索対象は、web上の論文、書籍、プレプリント、抄録、技術レポートなど
- * 引用として出現するものも拾う
- * 引用されている回数のカウントも表示

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

18

Google Book Search

- * 書籍の内容をスキャンし、検索可能とする。
- * 全文を見ることができるかどうかは、著作権の状態、出版社との合意による。
- * 書店サイトや所蔵館を探すためのリンク付き
- * 北米や日本の主要な図書館も協力

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

19

国立国会図書館による電子化

- * 2008年度補正予算127億円(従来の規模の100倍)
- * これにより90万冊が電子化される。かなりの数の雑誌も電子化される。
- * これを公共図書館に提供できるようにするをめざしている。(大学図書館は?)

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

20

電子ジャーナルの定着

- * SCREAL2007年調査によれば「電子ジャーナルなしではもはや研究は成り立たない」
- * 特にSTM分野の研究者は図書館に足を運ばなくなった

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

21

SCREAL調査(2007)の結果

- * 化学、生物学、医歯薬学の分野では、半数以上が電子ジャーナルを「ほぼ毎日」使っている
- * 人文社会系でも電子ジャーナルの利用者は2001年調査の4倍以上
- * 利用は年齢による差がほとんどない
- * 電子的な文献は、電子的に発見される
- * e-bookの利用も今後期待される

Source: SCREAL press release

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

22

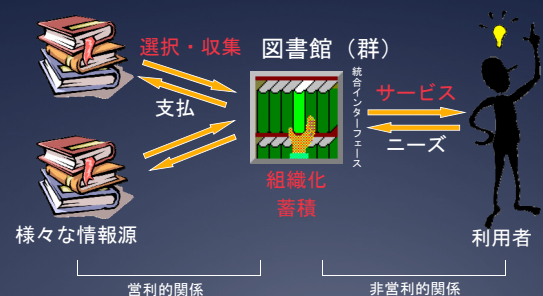
機関リポジトリの進展

- * 128機関の機関リポジトリ、724,143件(2009.9.26現在、JAIROによる)
- * 「大学ランキング」(朝日新聞社)でも機関リポジトリが指標の一つとして取り上げられる。

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

23

図書館を中心にした 情報サービス理解の枠組み



私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

24

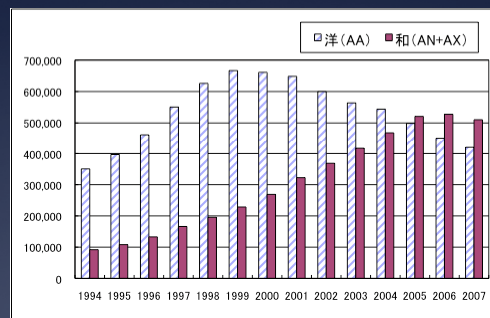
このモデルを支えた大学図書館政策

- * 少なくとも国立大学附属図書館は学術情報政策の中で発展してきた
- * 1970年代に本格的に始まる学術情報政策
- * 外国雑誌を中心とする研究資源「分散共有」モデル
 - * 外国雑誌センター館／文部省による予算措置
 - * NACSIS-CATとILL(とはいうものの外国雑誌の総合目録の思想はかなり古い)

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

25

ILLの変容



私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

Source: Koyama, et. al(2009)

「研究」との関わりにおいてこのサービスモデルはまだ有効だろうか？

- * 研究者から見た場合、アクセスする情報のうち図書館が購入し、蓄積しているものの割合の低下
 - * 特に電子ジャーナルの普及
 - * 電子ジャーナルに関しては、学外からも利用したいという要望は多い。
- ・ このモデルを電子情報環境下で考えれば、シボレスに代表される認証システムの導入は不可欠
- ・ 発見のためのツールが十分かどうかの検証の必要性

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

27

「研究支援」としての図書館

- * ILLの劇的な減少など、学術雑誌の電子化は図書館の「コレクション」に依存しなくても情報ニーズが満たされるようになってきたことを示している。
 - * ただし、大学間格差が広がるという新たな問題
 - * 雑誌の価格上昇の問題について抜本的な解決策を我々はまだ見出していない
- * 今後図書の電子化が進めば同じ道を辿ることは想像に難くない
- * 研究支援という観点から見れば、研究者への直接的サービスはかなりニッチな領域にならざるを得ないのではないか。

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

28

しかし機関リポジトリがある

- * 伝統的な図書館サービスをベースとした研究支援が弱まる一方、機関リポジトリによる情報発信の担い手としての図書館の役割が増大。

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

29

「機関リポジトリ」モデル 「大学から学外への情報発信の窓口」



私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

30

「学習」との関わりにおいてこのサービスモデルはまだ有効だろうか？

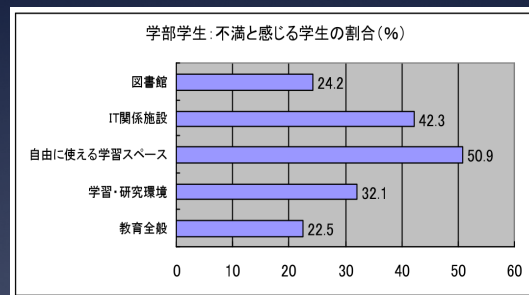
- * 今の学生は、図書館を発見しているか？
- * 今の学生は、図書館で何ができるかを知っているか？
- * 今の学生は、図書館員に質問するということを知っているか？
- * 今の学生は、図書館に満足しているか？

従来のモデルは有効であるように思われるが、新たなアプローチが必要。そもそも、このモデルにあてはまるようなサービスだけでよいのかという問題。

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

31

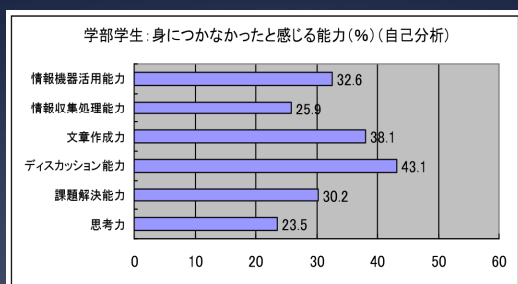
学生は満足しているか？



私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

Source:「千葉大学の教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書(平成19年9月)より平成18年度卒業生調査

学生は在学中にスキルを身につけているか？



私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

Source:「千葉大学の教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書(平成19年9月)より平成18年度卒業生調査

この結果から見ると

- * 図書館はがんばっている
- * 図書館には不満がないと言いながら、「自由に使える学習スペース」に不満が多いのはどう考えればよいのか？
- * 情報リテラシー能力の涵養という観点から見れば、「文章作成能力」「情報機器活用能力」などが今後の課題であることがわかる

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

34

学習を支援する図書館

- * 学習支援はこれまでも行われてこなかった訳ではない
- * 1960年代の岸本改革(東京大学附属図書館)
 - * レファレンスルームの設置
 - * リザーブ図書制度の導入
 - * これらは成功したと言えるのだろうか？

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

35

George Mason大学の取り組み

- * Johnson Center内にBeginning Libraryの設置
- * Reference à la Carte™: 図書館サービスのマーケティング
- * リエゾン・ライブラリアン: 教員との連携強化

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

36



私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

37

Reference à la Carte™

- * 図書館員が図書館の外に出てレファレンスサービスを行う
- * もともとブックトラックを改造
- * ラップトップコンピュータ(無線LAN接続)
- * 様々なグッズを準備
- * キャンパス・マップ
- * リエゾン・ライブラリアンの案内

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

38

Reference à la Carte™

- * 実施状況
 - * 人通りの多い時間帯をねらう(午前中の遅い時間、午後の早い時間)
 - * 人通りの多い場所、バス停
 - * 秋に6~8週間、春に6~8週間、夏に2~4週間
 - * 大学のイベントなどの機会に

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

39

Reference à la Carte™

- * 成果
 - * 125時間の実施
 - * 203件のレファレンス質問
 - * 299件の "Directional questions"
 - * 43件のリサーチに関するコンサルテーション
 - * 教職員、学生からの非常にポジティブな反応
 - * 図書館のヴィジビリティの向上に役立つ
 - * 学生が感じる図書館利用上の心理的障壁をなくす

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

40

リエゾン・ライブラリアン

- * George Mason Universityの場合17名のリエゾン・ライブラリアンが存在している
- * それぞれの担当領域はかなり広い
 - * 数学、物理学、心理学
 - * 社会科学
 - * 生命科学
- 各学部/学科(Department)に対応

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

41

リエゾン・ライブラリアンの仕事

- * 学生のリサーチを支援
 - * サービスデスクで
 - * 事前にアポイントメントをとって
 - * 電話、インスタントメッセージ、電子メールで
- * リサーチプロジェクトについてのコンサルテーション
- * 選書
- * 利用教育

私立大学図書館協会東地区2009年度研修会基調講演

42

情報基盤整備の方向性

- * 「図書館にしかない」情報の減少
⇒「図書館にしかない」コンテンツを「図書館にしかない」スキルを使って整備・発信
機関リポジトリ

情報基盤整備の方向性

- * ライセンシングで利用できる情報源の増大
⇒なるべく多くの図書館で、それらを利用できるようにする契約形態の追求
コンソーシアムに基づく契約—おそらく個々の資料の選択的契約ではないはず。
* これは必然的に図書館システムの在り方も変えるだろう。
⇒利用者にとって使いやすい環境の整備
認証システムによるシームレスなアクセス

情報基盤整備の方向性

- * 図書館という「場所」
 - * ラーニング・コモンズ: 単に情報機器が並んでさえいればいいという発想は問題外であるが、図書館に十分なコンピュータ資源がないことはそれ以上の問題。
- * 「図書館は蜂の巣のような場所」--Sarah Thomas
 - * 人の活動を見る。自分の活動を見せる。それによって刺激を受ける。

情報サービスの方向性

- * 「学生に望まれる学習支援」はどのような方向にあるのか？
 - * 授業との密接な連携
 - * 「授業資料ナビ」(千葉大学): 授業単位のパスファインダーの作成、教員と図書館の連携の基づくもの。
 - * 「一対多」ではなく「一対一」になるようなサービスの提供
 - * 例えば論文執筆を支援するライティング・センター
- これらの前提として、図書館員は匿名であってはいけないのではないかな？

まとめ

ご静聴ありがとうございました

関係性マネジメントのための 利用者調査を目指して

2009年度 私立大学図書館協会東地区部会研修会
2009年10月22日
慶應義塾大学理工学メディアセンター
上岡 真紀子
makiko@lib.keio.ac.jp



サービスは利用者のためにある

- 利用者のニーズに合ったサービスを提供し、
変化する利用者のニーズに合わせてサービスを改善していくことが必要

サービス対象を知ることなしに、
適切なサービスを提供することはできない



利用者調査

- 目的
サービス対象である利用者の行動・考え方・感じ方を知り、その結果をサービスの開発や改善に活かす



慶應義塾大学利用者調査WG

- 目的
中期計画策定のためのデータを提供すること
- 実績
 - 2007年度 フォーカス・グループ・インタビュー
 - 2008年度 LibQUAL



利用者を知るための 心躍る！利用者調査



利用者調査の手法① アンケート

- 「～な人が〇〇%」のように、量的に把握することができる
- 数値で表現されるため、グラフ化などで視覚にも訴えやすい



利用者調査の手法① アンケート 自由回答欄

- 「非常に不満」なのはなぜなのかなど、具体的な内容を把握するために設けられる。
- 現在、利用者が困っていることや不満に感じていることなど、顕在化したニーズを知ることができる



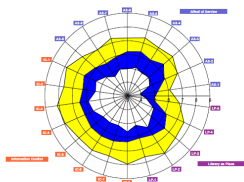
利用者調査の手法② インタビュー

- 具体的、詳細な内容について、利用者と直接やりとりしながら調べることができる。
- とくに、グループインタビューは潜在的ニーズを探るのに適している。
- 学習支援のために必要な
 - モノ
 - 場所
 - 人的支援



利用者調査の手法③ LibQUAL

- 利用者が期待することを知ることにより、今後のサービスの重点項目や方向性を確認することができる。経営レベルでの意思決定に役立つ。
- 利用者の期待が高い
 - 教員
 - 大学院生
 - 学部生



利用者調査の手法③ LibQUAL コメント

- 利用者が現在認識している顕在的な不満、要望などを知ることができる。ローカルで具体的に。
- 現在分析中！

建築の専門書が少ない。新建築、a+u、GA、住宅特集、建築文化この雑誌は建築の必須雑誌なので、それくらいはバックナンバーをそろえてほしい。(特に上位3つ) また、スキヤンをしたい場合、6時以降にならないと貸し出しができないのも不便。それなら藤沢の図書館のように館内にスキヤナを設置するなど配慮してほしい。

先日のホームページ改定によって、電子ジャーナル一覧が使いにくくなったように感じております。例えばアルファベットのAのページでしたら48ページもあり目的のジャーナルにたどり着くまで一苦労です。だからといって検索は略称ではかからないし、曖昧探索もできないし...検索のレベルを上げていただくか、1ページでそのアルファベットのジャーナルは一括で表示していただけるようになるとありがたいです。



利用者調査の手法④ 観察

- 本人も気づいていない、言葉にすることもできない無意識レベルの行動からニーズを知る



理工学メディアセンターにおける 調査結果の活用

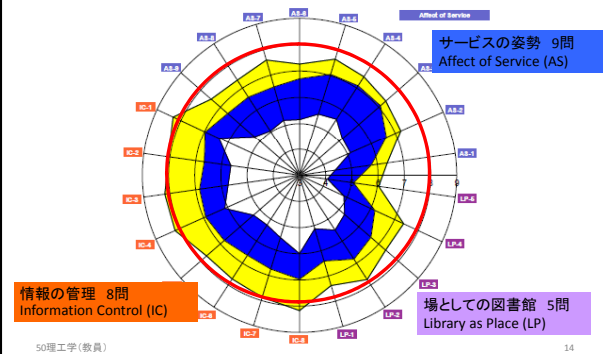


サービス改善を実現するために Step 1 重点項目の特定

- 3つの調査結果をもとに、サービスを改善する
- ↓
- 改善すべき点を明確にする
- ↓
- 重点項目を特定する



LibQUAL結果(教員)



期待度の高いサービス(教員)

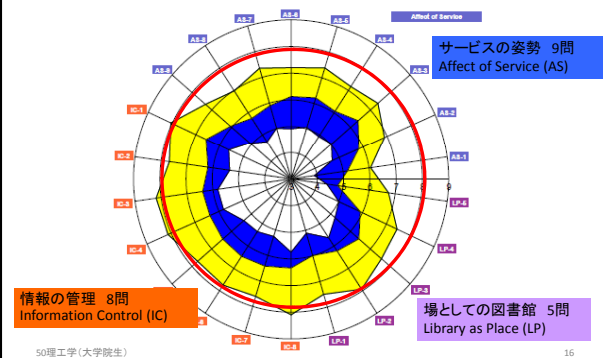
側面	設問	望スコア
IC-1	自宅または研究室からデータベースや電子ジャーナルなどの電子資源にアクセスできる	8.33
IC-3	私の学習・研究のために必要な本や雑誌(紙)の資料が揃っている	8.20
IC-4	私が必要とする電子情報資源(電子ジャーナル)が揃っている	8.20
IC-8	私の研究に必要な雑誌が、印刷または電子ジャーナルとして収集されている	8.17
IC-2	図書館のウェブサイトは、利用者が自力で情報をみつけられるように作られている	8.05

50理工学(教員)

⇒ICxx件>LPxx件

15

LibQUAL結果(大学院生)



期待度の高いサービス (大学院生)

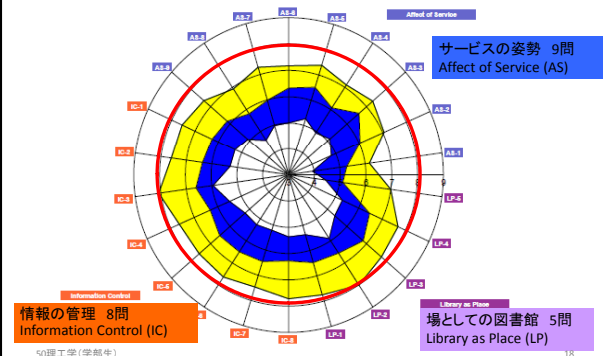
側面	設問	望スコア
IC-3	私の学習・研究のために必要な本や雑誌(紙)の資料が揃っている	8.19
IC-4	私が必要とする電子情報資源(電子ジャーナル)が揃っている	8.13
IC-8	私の研究に必要な雑誌が、印刷または電子ジャーナルとして収集されている	8.10
IC-1	自宅または研究室からデータベースや電子ジャーナルなどの電子資源にアクセスできる	8.05
LP-2	ひとりで学習・研究するための、静かな空間がある	7.93

50理工学(大学院生)

⇒ICxx件>LPxx件

17

LibQUAL結果(学部生)



期待度の高いサービス(学部生)

側面	設問	望スコア
IC-3	私の学習・研究のために必要な本や雑誌(紙)の資料が揃っている	8.08
LP-2	ひとりで学習・研究するための、静かな空間がある	8.01
LP-3	快適で、また行きたくなるような場所である	7.77
LP-1	図書館は学習・研究意欲を掻き立てられるような場所である	7.76
IC-8	私の研究に必要な雑誌が、印刷または電子ジャーナルとして収集されている	7.72

50理工学(学部生)

⇒LP3件>IC2件

19

LibQUALの結果まとめ

■今後目指すべき、重点を置くべき方向の確認

- ・教員... 研究のための資料とDBなどのさらなる充実とアクセスの向上
- ・院生... 研究のための資料に加えて、学習のための静かな空間にも期待
- ・学部生は... 学習のための資料と学習場所としての静かな空間に期待。特に空間には、「快適さ」など、学習の場としての質的な部分への期待も高い



Step 2 具体的な目標を決める

今後の方向性

- ・ 研究・学習のための資料の充実とアクセス向上(継続)
- ・ 学習の場としての質の向上



具体的に何を行うのか？
具体的な目標を決める



LibQUAL:コメントから

■ローカルで顕在化した不満、要望の把握

「1人で勉強するための環境としてパソコンおよび机が十分に揃っていない」

「個人で学習するスペースが少ない」

「2階の図書の配置がわかりづらいです...」

「トイレがきれいになって嬉しい...」

「優しくて丁寧な職員の方にいつも満足しています。しかし！最近パソコンが3台ずつあるスペースの椅子の真下に穴があいていて、異常に危険で、職員の方にいいましたが、ああ、あれねといって即座な対応はなく、危険という張り紙もなかったのが記憶に新しく残念です。」



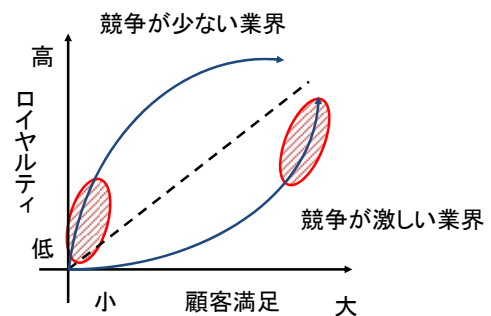
Step2 具体的な目標の決定

1. 顕在化している不満に、最優先で対応
2. すぐに対応できるものが最優先
2. 長期的に改善をはからなければならないものは、プロジェクトを立ち上げて対応

- 個人用の学習スペースの充実
- グループ学習室の設置
- 館内資料のわかりやすい再配置
- 開館時間の延長、休日開館



ロイヤルティと満足



Step3 優先順位の決定

• 優先順位を決定する

基本:

- 顕在化した不満に最優先で対応
- 要望の高かったものに順次対応

組織内の個別要因:

- 活動の規模と、必要な財源と人員の確保を検討し、最終的な実施順位を決定



実施順位

1. 個人用の学習スペースの新設

1年目

2. 館内のレイアウト見直し

2年目

- 資料再配置
- グループ学習室の新設
- 学習支援のための新コーナー設置
- サイン計画



⇒理工学メディアセンター3年計画策定へ

Step4 サービスのコンセプトを明確にする

「個人用の学習スペースの新設」

- 満たすべきニーズを確認し、それらをどのように満たすのかを検討する

↓

- 提供する便益の束を明確にする
= コンセプトを明確にする

ブレない
ために

神は細部に
宿る



フォーカスグループインタビューから

• 学習に必要な場所の要件

- 1人で勉強するための静かで集中できる場所
- 友達と相談したり教えあったりして勉強するための仕切られた空間
- 個人席でもグループ席でも、お互いに干渉しないよう適度な距離が空いていることが必要
- 個人席とグループ席は、ゾーニングされている必要



観察から 広い机が欲しい！①



観察から 広い机が欲しい！②



コンセプトの決定

「図書館内で一番の勉強場所」

「学習に必要なPCと電源があり、LANに対応し、資料もノートも図書も広げられる1人用の広い机があり、それらがお互いに気を遣わなくてよいように十分な間隔をあけて配置された静かで集中できる快適な学習スペース」



Step5 具現化する 1. 「静かエリア」の新設5



期待通りの利用をしてくれている 学生たち

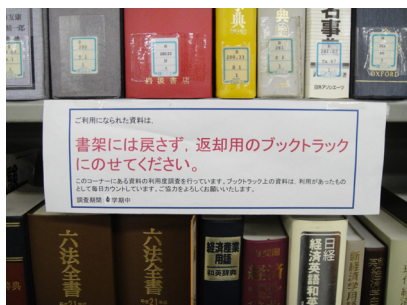


2. 資料再配置プロジェクト

- ・ 館内全体のレイアウトの最適化
- ・ 学習支援・研究支援のための資料購入（蔵書評価と同時進行）による学習支援コーナーの新設
- ・ 再レイアウト完了後のサイン設置までの5年計画



3. 蔵書評価プロジェクト



4. 学習相談カウンターの設置

- ・ ポスドクによる学習相談カウンターの設置
- ・ 学内の競争的資金獲得を申請中



利用者と双方向であるために

- 利用者調査は、利用者とコミュニケーションする方法の一つ。
- 図書館（組織）と利用者との関係では、
単なる双方向（⇄）でなく、
利用者に対話する「ダイアログ」
- 意見を主張し合う、ディスカッションではない



循環と継続

組織内部では、

- PDCAサイクルをまわす
- 継続することで、「**サービスを育成していく**」
という視点の獲得



対話から協働へ

- **関係性マネジメント**
「利用者とのコミュニケーションをデザインする」
- 慶應全体では...
 - 日吉
大学院生によるレポートの書き方相談カウンターを設置
 - SFC
学生による図書館ツアー、
DB説明会、就職のための
情報収集講座などの
企画と実施



ありがとうございました。



図書館員が 図書館建設に関わった！

獨協大学 萬谷衣加

1

目次

1. 獨協大学の概要
2. 図書館の基礎データ
3. 新図書館開館経緯
4. 新図書館の特徴
5. 利用状況
6. まとめ

2

1 獨協大学の概要

キャンパス・・・埼玉県草加市のみ

学部構成

外国語学部(ドイツ語学科、英語学科、
フランス語学科、交流文化学科)

国際教養学部(言語文化学科)

経済学部(経済学科、経営学科)

法学部(法律学科、国際関係法学科、総合政策学科)

大学院

法学研究科、外国語学研究科、経済学研究科、
法科大学院

構成員＝利用対象者

学部学生 約9000名、大学院学生 約200名、教職員 約750名
オープンカレッジ受講生など あわせて、約12,000名

3

2 図書館の基礎データ

4

2.1 歴史

1964年4月獨協大学開学

1964年9月開館(本部棟(当時)1・2階内)

1968年9月 図書館開館(独立棟として)

1989年 7月図書館システムDOBIS/E 導入

1998年 11月図書館システムCILIOUS導入
→現在NeoCILIOUS

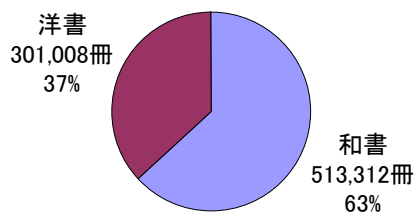
2007年 7月25日 旧図書館閉館

2007年9月18日 新図書館開館

＜学習図書館、研究図書館、学部図書館を集中＞

5

2.2 蔵書構成



蔵書	約81万4000冊
年間受入冊数	約1万5,000冊
雑誌	約1万2,500タイトル
継続雑誌	3,200タイトル

6

2.3 開館時間、開館日数、貸出冊数

開館時間 授業期間 月曜日—金曜日 8:45-22:00
土曜日 8:45-20:00

日曜・祝日は休館

年間開館日数 290日(2009年度見込み)

資料の貸出

学部学生 20冊 14日間
大学院学生 30冊 30日間

一日平均入館者数 約3,300名
(2009年度春学期授業期間平均)

一日平均貸出冊数 616冊
(2009年度春学期授業期間平均)

7

3 新図書館開館経緯

8

3.1 新旧比較:キャンパス内の位置



9

3.2 新旧比較:フロア構成

各階が異なるフロア配置
ガイダンスに使いにくい教室
分断された動線
カウンターと事務室が遠い



各階共通のフロア配置
ガイダンス優先の教室
スタッフ動線の考慮

10

3.3 新旧比較:資料収容力

開架率が1割
学生が入庫できない書庫
書庫の狭隘化



開架率が約5割
自動書庫の採用
収容力は143万冊

11

3.4 新旧比較:閲覧席

情報源の多様化と
学生の学習・研究スタイルの変化に未対応

- ・本を広げるスペースのないPC閲覧席
- ・1台のPCでグループ作業する学生
- ・飲食場所がない
- ・共同研究室でAV機器・PCが使えない

解決

12

3.5 新旧比較:サポート体制

レファレンスを充実させたい
 ・・・・主題別レファレンスなど
 ガイダンスを必要に応じて開催できない
 PCトラブル対応に追われるカウンター



解決

13

3.6 館内検討経緯

- ・ 20年前から館内で検討
- ・ 他図書館の見学
2002年USA, 国内約30箇所
- ・ 2005年3月
創立40周年記念館(仮称)図書館仕様要望案
- ・ 2005年春から
建築工事の進捗にあわせ検討

「こう使ってほしい」の体现



14

3.7 学内検討経緯

- 1988.11 新図書館の基本構想(答申)
 1996 教育・学術情報システム検討委員会答申
 2001.3 21世紀委員会 答申
 2002.3 総合学術情報推進委員会 図書館機能
 2003.5 総合学術情報センター(仮称)基本計画書
 基本計画作業プロジェクトチーム
 2004.10- 創立40周年記念館(仮称)建設実行委員会
 2005.11.15 名称決定 天野貞祐記念館

15

3.8 天野貞祐記念館建築経緯

- 創立40周年記念館(仮称)建設実行委員会
 2004.12.24 設計業者の決定
 プロポーザル方式
 2005.9.20 施工業者の決定
 技術提案総合評価方式
 2005.12 着工(地鎮祭)
 2007.3 竣工
 2007.4 教室ゾーン、ICZオープン
 2007.9.18 図書館ゾーンオープン

16

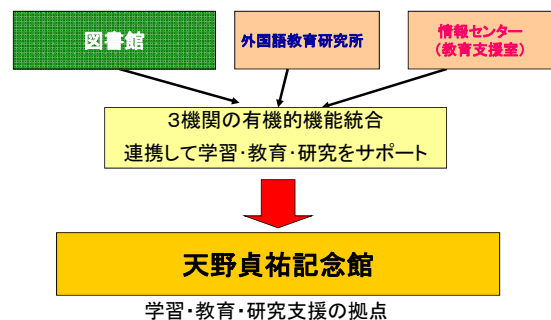
4 新図書館の特徴

1. 天野貞祐記念館にある図書館
2. 各階共通のフロア配置の図書館
3. 情報利用を促進する図書館
4. 長時間滞在型の「居場所」としての図書館
5. サポートする図書館・連携する図書館

17

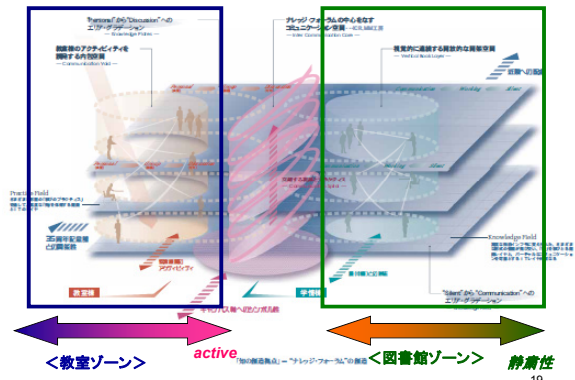
4.1 天野貞祐記念館にある図書館

4.1.1 機能統合から生まれた天野貞祐記念館



18

4.1.2 設計コンセプト



4.1.3 天野貞祐記念館の構成

<図書館>		教室
4F 自動書庫収蔵庫	International Communication Room	教室 大講堂
3F 芸術 言語 文学 AVコーナー 図書館情報セミナールーム		教室 大講堂
2F 社会科学 自然科学 工学 産業	教育支援室 MM工房	教室
1F 総記 哲学 歴史 総合レファレンスカウンター	エントランス	キャリアセンター、 国際交流センター他 獨協歴史ギャラリー カフェ

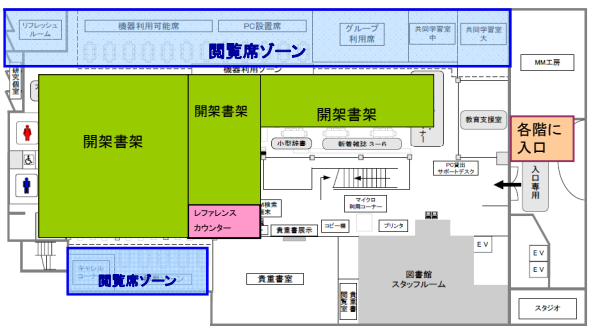
図書館のみ免震構造

Inter-Communication Zone

20

4.2 各階共通のフロア配置の図書館

図書館【2F:社会科学・自然科学・工学・産業のフロア】



21

4.3 情報利用を促進する図書館

4.3.1 資料配置(収容力は143万冊)

開架書架 (38万冊)	図書	主題別フロアの開架書架 就職活動関連資料コーナー など
	参考図書	主題別フロアの開架書架(低書架)
	雑誌	主題別フロアの新着雑誌架 主題別フロアの開架書架
	新聞	新聞コーナー
	視聴覚資料	AV映像資料コーナー AV音声資料コーナー (図書などの附録は開架書架)
閉架書庫	自動書庫	(100万冊)
	4F閉架書庫	(2万冊)
	貴重書室	(3万冊)

22

4.3.2 開架資料配置:主題別フロア

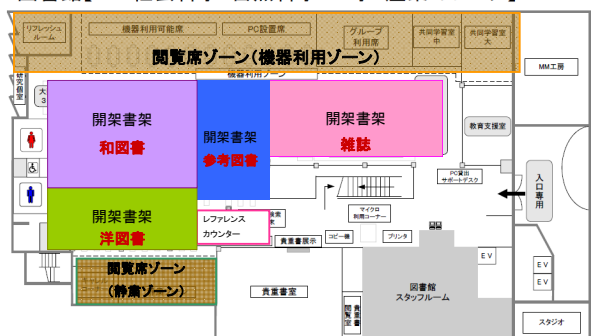
ワンフロアでその分野の図書、雑誌、参考図書がそろって
各階にレファレンスカウンター(そのフロアの資料相談)

3F	700	芸術(美術、音楽、演劇、映画、スポーツなど)
	800	言語・語学
	900	文学
2F	300	社会科学(政治、法律、経済、コンピュータ、教育など)
	400	自然科学(数学、生物学、医学など)
	500	工学(技術、建築、環境、家事など)
	600	産業(農林水産業、商業、貿易、観光など)
1F	000	総記(図書館・書誌学、ジャーナリズムなど)
	100	哲学(哲学、心理学、宗教など)
	200	歴史(歴史、伝記、地理など)

23

4.3.3 開架資料配置:各階共通の配置

図書館【2F:社会科学・自然科学・工学・産業のフロア】



24

収蔵庫	搬送装置	出納ステーション	業務用	<取出冊数> 1日平均 約60冊
		出納ステーション		
		出納ステーション		
		1階フロア	利用者用	

OPACから
出庫請求した資料

[illegible][illegible]

図書館【1F：総記・哲学・歴史のフロア】

ブックポスト →

資料相談
フロアの主題
総合的な質問

ガイダンス申込み
授業セミナー申込み

資料取り寄せ

総合・フランス
カウンター

指導用PC
CD-ROM専用PC

参考係
読書相談
グループーム

図書館【1F:総記・哲学・歴史のフロア】

入館システム BDS

貸出・返却
自動書庫資料の受取・返却
利用案内・問合せ
研究個室の利用受付

自動貸出機

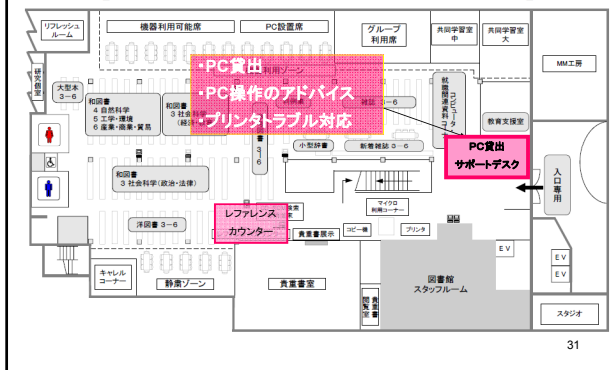
メインカウンター

閲覧係 入館対応

60

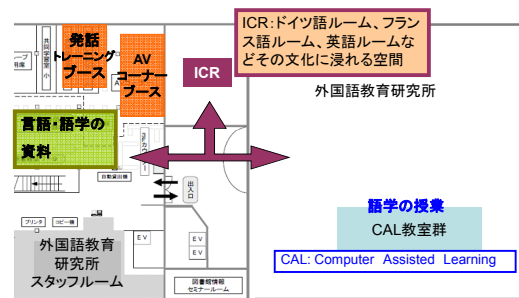
4.5.4 PC貸出・サポートデスク:教育支援室との連携 ★

図書館【2F:社会科学・自然科学・工学・産業のフロア】



31

4.5.5 外国語教育研究所との連携: 言語・語学(8部門)資料、AVコーナー



32

5 利用状況

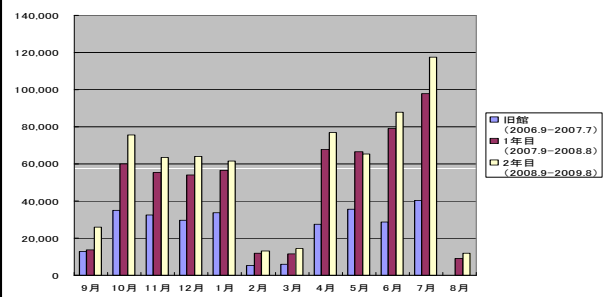
入館者数(月別)

入館者数(平日1日平均)

貸出冊数(1日平均)

33

6.1 入館者数(月別)

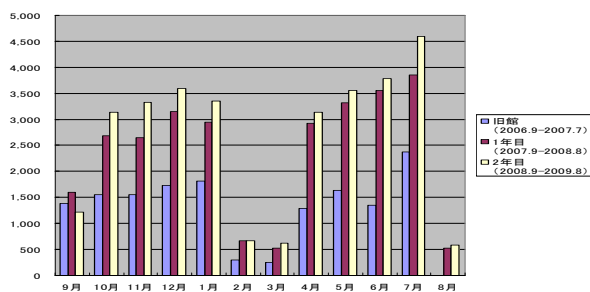


2008年度は月平均7万2000名(授業期間:4月-7月、10月-1月)

新図書館開館からの累計 126万名

34

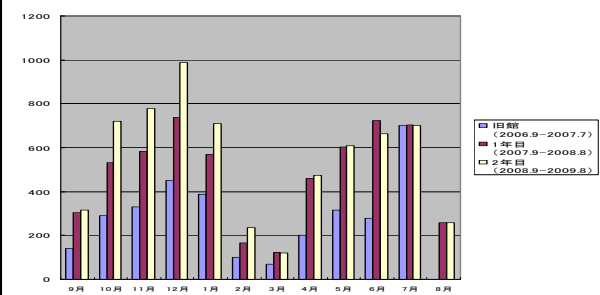
6.2 入館者数(平日1日平均)



入館者数(授業期間の平日1日平均) 2008年度 約3400名
2009年4-7月 約3700名
最大6,816名(2009.7.22)

35

6.3 貸出冊数(1日平均)



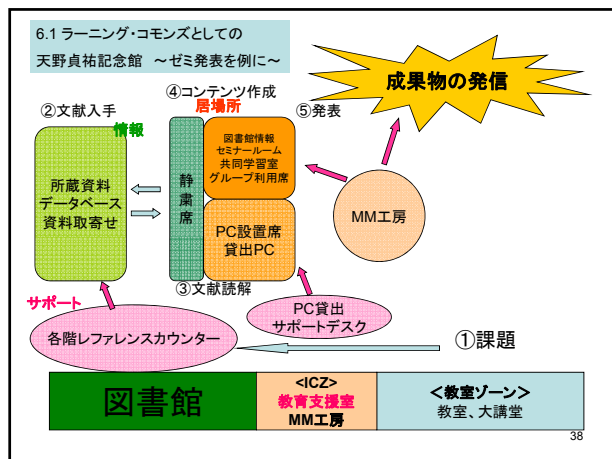
2008年度は1日平均 約710冊(授業期間:4月-7月、10月-1月)

36

6 まとめ

ラーニング・コモンズ
評価

37



6.2 評価:課題

- 他機関との協働
- 関係部署との調整
- 導入したシステムの妥当性

39

6.3 評価:よかった点

- 図書館の認知度が上がった
- 他機関間の相互理解と協力体制がスタート
- 検討当初から現場の声を届けた
- 自分たちが作った図書館という自負で、モチベーションが上がった
- 図書館としては、
一貫したコンセプトを追求し実現

40

私立大学図書館協会東地区部会
2009年度研修会

図書館員が
図書館建設に関わった！

41

事例報告:「図書館員が図書館建設に関わった！」

獨協大学 萬谷衣加

1	獨協大学の概要
2	図書館の基礎データ
2.1	歴史
2.2	蔵書構成
2.3	開館時間、開館日数、貸出冊数
3	新図書館開館経緯
3.1	新旧比較:キャンパス内の位置
3.2	新旧比較:フロア構成
3.3	新旧比較:資料収容力
3.4	新旧比較:閲覧席
3.5	新旧比較:サポート体制
3.6	館内検討経緯
3.7	学内検討経緯
3.8	天野貞祐記念館建築経緯
4	新図書館の特徴
4.1	天野貞祐記念館にある図書館
4.1.1	機能統合から生まれた天野貞祐記念館
4.1.2	設計コンセプト
4.1.3	天野貞祐記念館の構成
4.2	各階共通のフロア配置の図書館
4.3	情報利用を促進する図書館
4.3.1	資料配置
4.3.2	開架資料配置:主題別フロア
4.3.3	開架資料配置:各階共通の配置
4.3.4	自動書庫
4.4	長時間滞在型の「居場所」としての図書館
4.4.1	閲覧席の配置
4.4.2	多様な閲覧席
4.5	サポートする図書館・連携する図書館
4.5.1	主題別レファレンスカウンター
4.5.2	図書館での情報リテラシー教育
4.5.3	閲覧系カウンター:メインカウンター
4.5.4	PC貸出・サポートデスク:教育支援室との連携
4.5.5	外国語教育研究所との連携:言語・語学分野の資料、AVコーナー
5	利用状況
5.1	入館者数(月別)
5.2	入館者数(平日1日平均)
5.3	貸出冊数(1日平均)
6	まとめ
6.1	ラーニング・コモンズ
6.2	評価:課題
6.3	評価:よかった点

資料1 蔵書数

【蔵書数】 2009年3月現在

	冊数	割合
和書	513,312	63%
洋書	301,008	37%
計	814,320	

【開架資料数】 2009年2月現在

	冊数	割合
和書	254,427	73%
洋書	95,549	27%
計	349,976	

【所蔵雑誌タイトル数】 2009年3月現在

	冊数	割合
和書	7,886	63%
洋書	4,691	38%
計	12,467	

【継続受入中雑誌タイトル数】 2009年2月現在

	冊数	割合
和書	2,100	66%
洋書	1,100	34%
計	3,200	

【その他の資料タイトル数】 2009年2月現在

新聞	55
契約データベース	30
レコード	11,000
CD(付録は除く)	4,300
DVD	1,300
LD	2,850
ビデオテープ	2,050
マイクロ資料	400

資料2 面積・閲覧席数等

【新旧図書館の規模比較】

			新館	旧館
総延面積 (㎡)			11,555	8,092
用途別	サービス・スペース	閲覧スペース (㎡)	5,025	2,570
		視聴覚スペース (㎡)	354	170
		その他 (㎡)	2,432	120
	管理スペース	書庫 (㎡)	1,368	3,613
		事務スペース (㎡)	1,048	444
	その他 (㎡)		1,325	1,175

閲覧席数	総閲覧席数(席)	1,130	843
	うち PC設置数(席)	114	62

蔵書数	全蔵書数(冊)		777,821	777,821
	うち	開架冊数(冊)	340,000	126,260
		開架率	44%	16%

※蔵書数は新館移転時(2007年)の冊数

【閲覧席数の主な内訳】

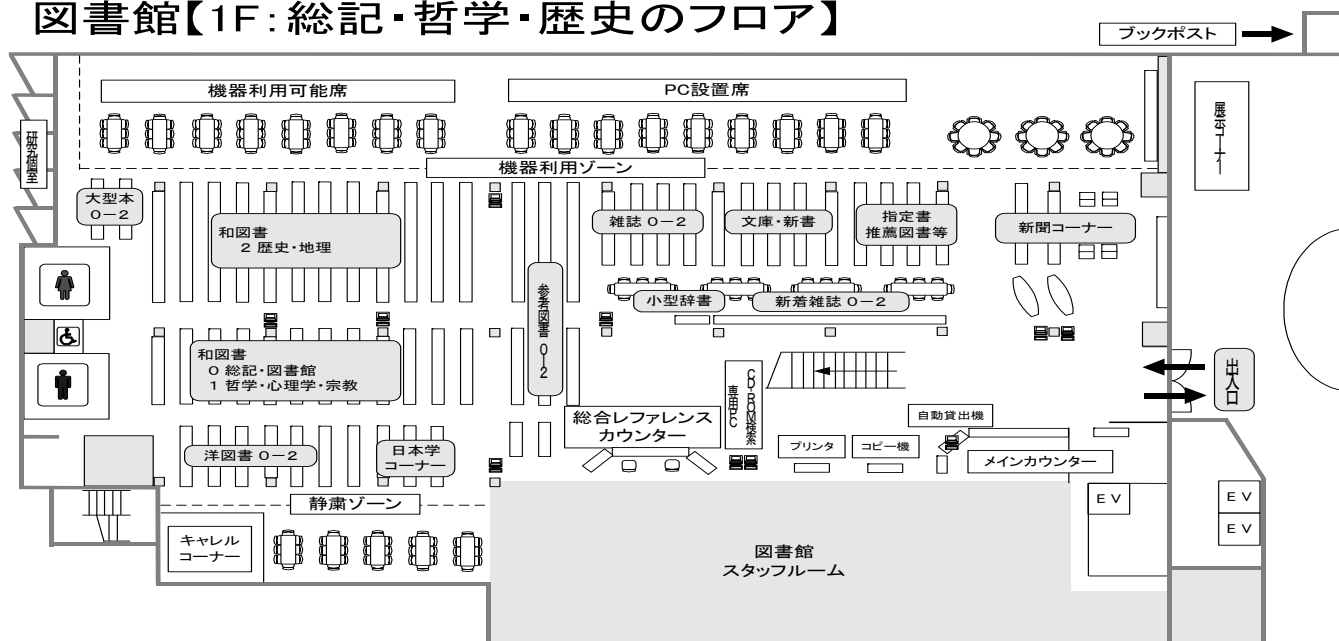
			席
機器利用 ゾーン	1人	PC設置席	114
		機器利用可能席	330
		研究個室	13
	複数	グループ利用席	54
		共同学習室	60
	AV	AVコーナーブース	28
		発話トレーニングブース	8
静粛ゾーン	1人	静粛席	240
		キャレルコーナー	44
その他	新着雑誌架前		108
	貴重書閲覧室		8
	図書館情報セミナールーム		60
	ソファ		
	リフレッシュルーム		
	カフェテリア(館外)		
計			1,130

【PC利用可能台数】

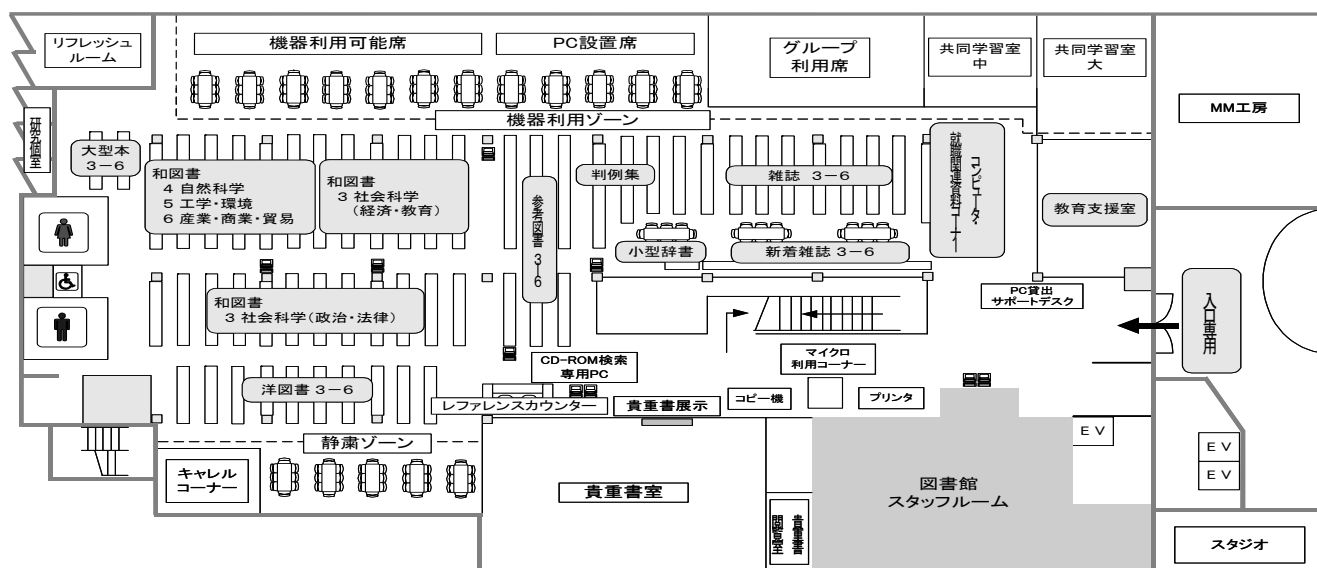
蔵書検索(OPAC)専用PC	21
PC設置席ノートPC(インターネット接続可能)	114
図書館情報セミナールーム	60
CD-ROM専用PC	2
指導用PC	3
計	200

資料3 フロアマップ

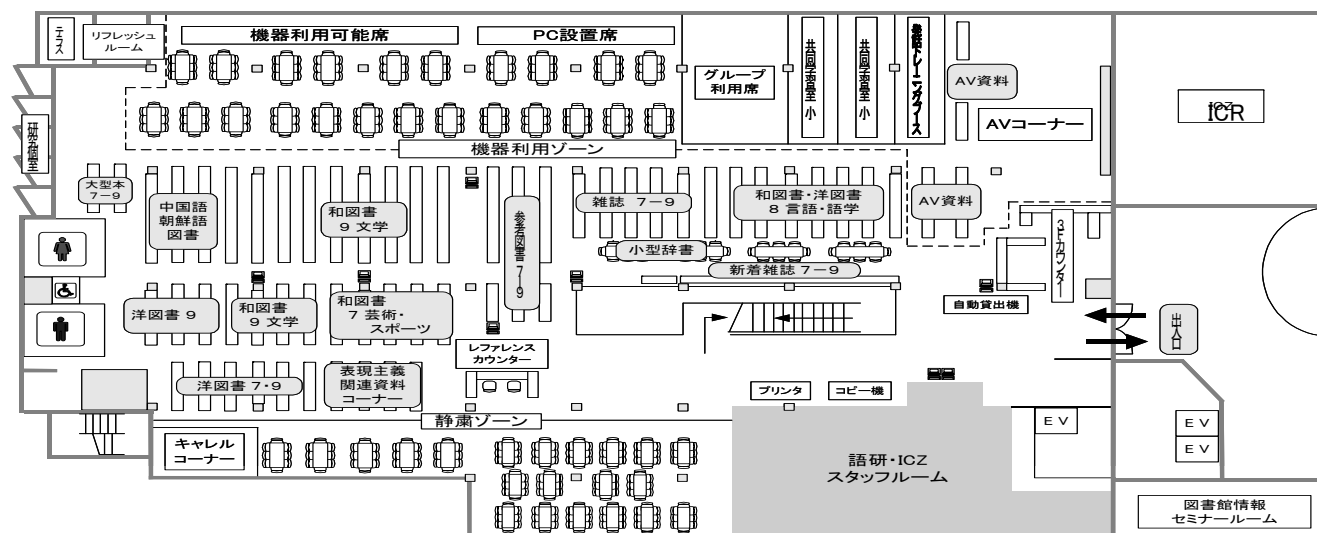
図書館【1F:総記・哲学・歴史のフロア】



図書館【2F:社会科学・自然科学・工学・産業のフロア】



図書館【3F:芸術・言語・語学・文学のフロア】



ボランティアは図書館を変えたか？

～ 導入から14年 ～



筑波大学附属図書館情報管理課専門職員
見学・ボランティア担当 仲川 敦子

2009.10.22

1

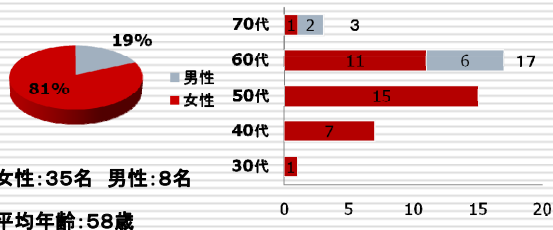
導入の目的：開かれた大学図書館

- ・平成4年 生涯学習審議会答申を受け導入を決定
- ・平成7年6月 活動開始、7月「図・ボラの会」発足
- ☐ 生涯学習に対応した大学図書館サービス
地域住民にボランティア活動の機会を提供

2

ボランティアの構成 平成21年度

登録者数:43名



3

ボランティアの活動概要

1 必須選択

2 自由選択

4

1 必須選択

- ☐ 図書館総合案内
- ☐ 利用環境整備
- ☐ 特殊資料整理

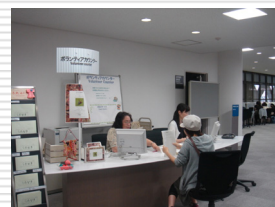
○週1回 3時間 指定曜日で活動

10:00～13:00 13:00～16:00

5

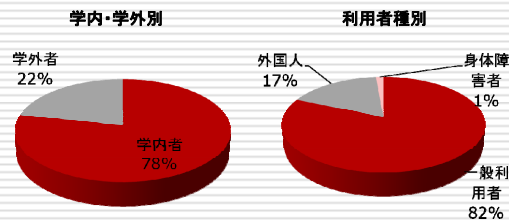
図書館総合案内

- ☐ 図書館の利用方法
- ☐ 資料配置、探索案内
同行サービス
- ☐ 端末操作案内
- ☐ 障害者に対する利用
支援



6

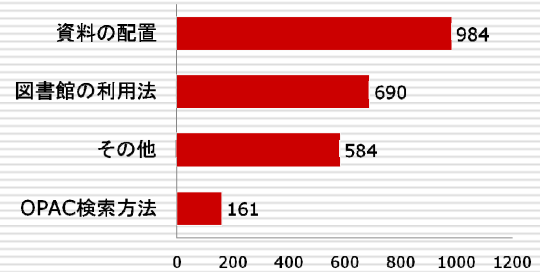
総合案内利用者内訳 平成19年度



利用者総数 2,358人

7

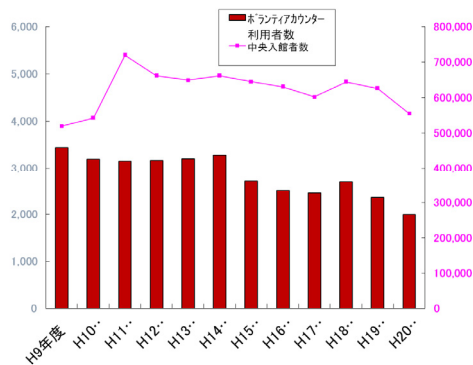
質問内容別統計 平成19年度



質問総件数: 2419件

8

ボランティアカウンター利用者数と中央図書館入館者数



利用環境整備

* 平成11年から活動開始

- ☐ 書架整備
- ☐ 不明図書の探索
- ☐ 図書修理
- ☐ 館内巡回

10

特殊資料整理

- ☐ 体育・芸術図書館でのポスターの整理

・平成11年から活動開始

・平成18年からデータベース構築開始



<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/taigei/poster/welcome.shtml>

11

2 自由選択

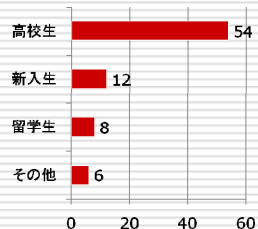
- ☐ 図書館見学案内
- ☐ 対面朗読
- ☐ 外国人のための日本文化紹介
- ☐ ボランティア広報紙「うたがき」の発行
- ☐ 図書館公開事業への協力
- ☐ 利用案内等の翻訳の協力

12

図書館見学案内

平成19年度

- 新入生
- 留学生
- 高校生



13

対面朗読

平成20年度

- レギュラー利用者
 - 教員 1名
 - 職員 1名
 - 院生 1名
- スポット利用者
 - 学群生 3名



対面朗読時間総計 : 209時間

14

外国人のための日本文化紹介



おりがみ講習会

15

図書館のサポート体制

ボランティア専門委員会

教員2名+職員3名
「ボランティアに関する細則」の検討・承認

ボランティア教育

- ・事前研修(新規登録予定者)
- ・フォローアップ研修
- 図書館の変化に対応した知識の習得

生涯学習への支援

- ・ボランティア講演会
- ・施設見学(学内・学外)



成蹊大学附属図書館の見学(H19)

16

図書館とのコミュニケーション

図・ボラの会

世話人会: 月1回



打ち合わせ: 月1回

意見交換会: 年2回

*ボランティア懇談会
: 年1回

図書館

専門職員
(見学・ボランティア担当)

図書サービス係
利用環境整備

レファレンス係
図書館総合案内

17

ボランティア懇談会

- 図書館長主催
 - ・係長以上の関係職員
 - ・教員(専門委員会)
- 年間活動報告
- 図書館現況報告
- 意見交換



平成20年ボランティア懇談会

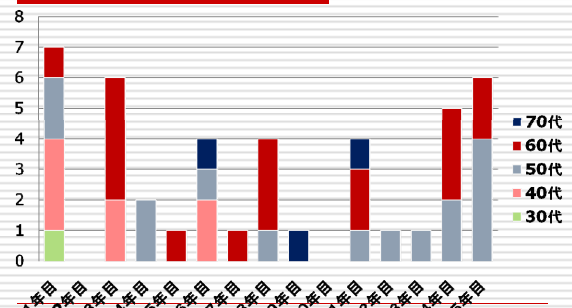
18

永遠のテーマ

- 見えない壁とおつきあい
 - ～ ボランティアと図書館職員 ～
 - ・ 利用者の目、利用者の代弁者
 - ・ 異質ゆえのメリットを活かす

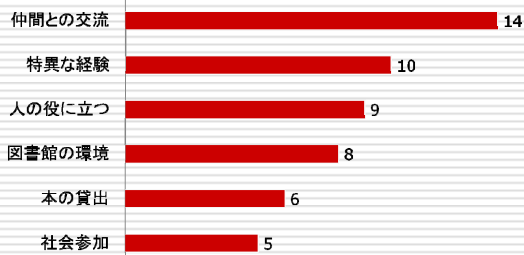
19

活動年数と年代 平成21年度現在



20

ボランティアさんに聞きました ボランティアを続ける理由



21

ボランティアさんに聞きました 印象に残っていることは

- 対面朗読利用者が教員採用試験に合格
- 留学生に「お悔やみの手紙の書き方」を聞かれた
- 生活の中にPCが加わった
- カウンター活動研究会 (複数回答)
- 全国図書館大会での発表 (複数回答)
- ボランティア10周年記念式典 (複数回答)
- スターバックスの出現 (複数回答)

22

ボランティア10周年の風景

ボランティア10周年記念式典



学長から感謝状を授与

全国図書館大会 (茨城県大会)



大学図書館ボランティアの事例発表

23

意識の変化

- 平成17年附属図書館ボランティア10周年記念式典
 - ・ 自信 誇り 自己実現
- 『開かれた大学図書館』 → 『来館したくなる図書館』
『頼られる図書館』
- ボランティア許可証 → ボランティア証(平成21年)
 - ・ 図書館活動を支える一員として定着・信頼

24

ボランティアは図書館を変えたか？

- とにかく図書館に行ってみよう
～ 利用初心者・留学生・学外者・障害者に対する
やさしい図書館 — 頼られる図書館 ～
- 平成20年3月
館内にコーヒーショップ誕生

25

スターバックス風景

このコーヒーショップは図書館ボランティアの発言
がきっかけとなり平成20年3月に開店しました。



26

筑波大学附属図書館ボランティア情報

[https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/portal/volunteer
.php](https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/portal/volunteer.php)

27

{参考資料}

○ 筑波大学附属図書館ボランティアに関する細則

平成18年9月22日
附属図書館部局細則第3号

改正 平成21年3月3日

筑波大学附属図書館ボランティアに関する細則

(趣旨)

第1条 この部局細則は、国立大学法人筑波大学附属図書館規則（平成16年法人規則第22号）第8条の規定に基づき、附属図書館におけるボランティアに関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この部局細則において「ボランティア」とは、附属図書館の利用者の援助を目的とし、生涯学習の一環として、自らの自由意思により、その知識・技能を無償で提供する者をいう。

(活動内容)

第3条 ボランティアの活動内容は、次の各号に掲げるもののうち、附属図書館長が適当と認めた範囲とする。

- (1) 利用案内
- (2) 身体障害者支援
- (3) 利用環境整備
- (4) その他附属図書館長が認めた事業

(申し込み、承認等)

第4条 附属図書館において、ボランティア活動（以下「活動」という。）を希望する者は、別に定める募集要項に基づき、附属図書館長に申し込むものとする。

- 2 附属図書館長は、前項の申し込みがあった場合は、書類審査及び面接によりボランティアの候補者を選考する。
- 3 附属図書館長は、前項の候補者に対し事前研修を行い、研修を修了した者に活動を認めるものとする。
- 4 附属図書館長は、活動を認めた者をボランティアとして登録し、当該ボランティアに別記様式第1のボランティア証を交付する。
- 5 ボランティアの活動期間は、活動を認められた年度内とする。ただし、ボランティアが活動期間の延長を希望し、附属図書館長が活動実績等に照らして適当と認めた場合は活動期間の延長を承認することができる。

(承認の取り消し)

第5条 附属図書館長は、ボランティアが第7条第1項若しくは第2項の規定に違反し、又は附

属図書館の業務に支障がある行為を行ったと認めるときは、活動の承認を取り消すことができる。

(辞退)

第6条 ボランティアは、自己の都合によりボランティアを辞退しようとするときは、附属図書館長に別記様式第2により届け出るものとする。

(遵守事項)

第7条 ボランティアは、法人規則等を遵守するとともに、職員の指示に従わなければならない。

2 ボランティアは、職務上知ることのできた秘密を漏らしてはならない。ボランティアを退いた後も、同様とする。

3 ボランティアは、活動に際し、ボランティア証を携帯しなければならない。

(附属図書館の利用)

第8条 ボランティアは、附属図書館を利用することができる。

(ボランティア保険の加入)

第9条 ボランティアは、ボランティア保険に加入しなければならない。

(損害賠償)

第10条 ボランティアは、故意又は重大な過失により、図書館資料等を亡失等し、国立大学法人筑波大学に損害を与えた場合は、その損害を弁償するものとする。

(事務)

第11条 ボランティアに関する事務は、情報管理課が行う。

(その他)

第12条 この部局細則に定めるもののほか、ボランティアに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この部局細則は、平成18年9月22日から施行する。

附 則

この部局細則は、平成21年3月3日から施行し、改正後の筑波大学附属図書館ボランティアに関する細則の規定は、平成21年度のボランティアから適用する。

<h2 style="margin: 0;">筑波大学附属図書館ボランティア証</h2>	
登録番号 _____	氏 名 _____
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="flex: 1; border: 1px dashed black; min-height: 150px; position: relative;"> 写 真 </div> <div style="flex: 1; padding-left: 20px;"> <p style="font-size: 1.2em; margin-bottom: 20px;">上記の者は、本学附属図書館においてボランティアとして活動を認められた者であることを証明する。</p> <p style="font-size: 1.2em; margin-bottom: 20px;">発 行 年 月 日</p> <p style="font-size: 1.2em; margin-bottom: 20px;">筑波大学附属図書館長</p> <p style="font-size: 1.2em; margin-bottom: 20px;">印</p> </div> </div>	

(表)

注 意

- 1 このボランティア証は、ボランティアとして活動する際に必ず携帯すること。
- 2 このボランティア証は、他人に譲渡又は貸与してはならない。
- 3 このボランティア証を紛失したときは、速やかに発行者に届け出なければならない。
- 4 このボランティア証は、活動期間を満了したとき又は記載事項に変更があったときは、発行者に返還しなければならない。

バーコードラベル

(裏)

備考 規格： 縦5.4 cm×横8.6 cm

別記様式第2（第6条関係）

辞 退 届

平成 年 月 日

筑波大学附属図書館長 殿

平成 年度附属図書館ボランティア

氏 名

私は平成 年 月 日をもって、附属図書館ボランティアを辞退したいので、お届けします。

「図書館ツアービデオを活用した 利用者教育について」 ～ 亜細亜大学図書館の事例報告 ～



本日のメニュー

- I. 亜細亜大学図書館の紹介
- II. オリエンテーション・ガイダンスの種類
- III. ツアービデオの紹介
- IV. 図書館ツアービデオ導入のメリット
- V. 今後の実施予定・取組み



I. 亜細亜大学図書館の紹介

亜細亜大学（学生数6,915名）

- ・4学部 1短期大学部
- ・大学院・留学別科生 平成21年5月1日現在

太田耕造記念館（図書館）

- ・竣工 平成6年
- ・蔵書数 約63万冊
- ・開館日数 257日
- ・総館外貸出冊数 50,218冊
- ・総入館者数(延数) 337,650人
(平成20年度実績)



II. 図書館利用指導サービスの概要

< 指導のステップアップ >

- 第一ステップ：図書館活用術の指導（全学生共通）
- 第二ステップ：一般的な文献探索法の指導（全学生共通）
- 第三ステップ：主題別文献探索法の指導（学部・学科・科目別対応）
- 第四ステップ：実践演習



II. 図書館利用指導サービスの概要

ー① 図書館オリエンテーション(2009年度実績)

・ツアービデオ上映

- … 始業前のオリエンテーション時
- 場所：各教室 時間：45分
- 対象学部：経営学部 国際関係学部 短期大学部
経済学部(別プログラムで実施)

・ツアー案内

- … 始業前にて
- 場所：図書館内 時間：対象者に応じて
- 対象者：新任教職員 留学生別科 大学院



II. 図書館利用指導サービスの概要

ー② 図書館ガイダンス(2009年度実績)

・経営学部 経済学部（1年生前期）

- … 内容：OPAC(亜大・NDL)の紹介と演習「紹介状」の紹介
MAGAZINEPLUSE 新聞オンラインDB
- 場所：図書館3階プレゼンテーションルーム
- 時間：ビジネスリテラシー(経営)・入門演習(経済)の各授業内

・法学部（1年生前期）

- … 内容：ツアービデオ上映 マナーについて
OPAC(亜大・NDL)の検索方法と結果の見方
- 場所：図書館3階プレゼンテーションルーム
- 時間：オリジナルゼミの授業内



Ⅱ. 図書館利用指導サービスの概要

一② 図書館ガイダンス(2009年度実績)

・国際関係学部 (2年生前期)

・・・ 内容 : OPAC(亜大・NDL)の紹介と演習「紹介状」の紹介
場所 : 図書館3階プレゼンテーションルーム
時間 : 基礎ゼミの授業内 (45分)

Ⅲ. 図書館ツアービデオの紹介

一① ツアービデオの上映



Ⅲ. 図書館ツアービデオの紹介

一② ツアービデオの製作経緯

2002年 5月 マルチメディアラボ創設
2002年12月 ツアービデオ製作開始(1作目)
2003年 2月 ツアービデオ完成(1作目)
2003年 4月 ツアービデオによるオリエンテーション①
2003年12月 ツアービデオ製作開始(2作目)
2004年 2月 ツアービデオ完成(2作目)
2004年 4月 ツアービデオによるオリエンテーション②

Ⅲ. 図書館ツアービデオの紹介

一③ 企画と実務

脚本・統括 : 専任事務職員
監督・撮影・音楽・編集等 : 在 学 生
協力団体 : 放送研究会 映画研究会
演劇研究会 ダンスチーム“TANZ”
監 修 : 亜細亜大学 学術情報課

Ⅲ. 図書館ツアービデオの紹介

一③ 企画と実務

- ・ 予 算
- ・ システム選定
- ・ スケジュール
- ・ 学生とのコラボレーション

Ⅲ. 図書館ツアービデオの紹介

一④ 製作後の反響

～～ 当時の館長先生より ～～

「金曜日夕刻拝見しました「図書館ツアーガイド」のビデオの完成をお祝い申し上げます。

内容も技術面も申し分なく、大変便利で魅力のあるものです。図書館の2階を中心としてあのようなものが作れるということは、素晴らしいことだと思います。当日も申しましたとおり、出来るだけ早い時期に多くの新入生に観せてほしいと思います。

関係の皆さん本当にご苦労様でした。」

Date Mon, 08 Mar 2004

Ⅲ. 図書館ツアービデオの紹介

一④ 製作後の反響

~~ 新入生より ~~

「すごい技術だと思いました！！
ロボドックがすごい可愛かったです。図書館のことがよくわかりました。
ありがとうございました!!>u<☆」

「映画を観てるみたいで本当にスゴイと思いました。
これから図書館を利用しやすくなると思う。」

「すぐに図書館に行きたくなりました。よかったです。」

「番組(ニュース)っぽくなっていて、すごく説明が分かり易かった。」



Asia University Library

Ⅲ. 図書館ツアービデオの紹介

一④ 製作後の反響

~~ スタッフより ~~

「みなさんお疲れ様でした。相当辛かったですが、今では貴重な体験をした気分一杯です。明日から旅にでて何かしら吸収していきます。」

「M2Lも放研も創研もTANZも映研も千葉さんもスゴいになって、ただただ感心しました。こんなガイダンスビデオは、ここでしか作れないと思います。」



Asia University Library

Ⅲ. 図書館ツアービデオの紹介

一④ 製作後の反響

~~ キャストより ~~

「おもしろかったです。一時はどうなってしまうのだらうと思いました。
撮影中、大変みなさん疲労していたのに、我々役者達に気をつけていただき、心にジーンとききました。撮影も大変だったのに、さらに編集とラボに住みつくようながんばりで・・・。」



Asia University Library

Ⅲ. 図書館ツアービデオの紹介

一④ 製作後の反響

~~ 他大学図書館員より ~~

「ありがとうございます。さっそく帰宅して見てみました。え〜と...、
『すばらしい』の一言です。テクニカルな部分ではありません。もちろんテクニカルな部分はすばらしいです。でも、それよりも、学生たちがどうやったら図書館の使い方を分かりやすく、脱教くなく伝えられるかを考えて、考えて考えて考えて...作ったというのが本当に良く伝わってきます。本当に、作成した学生さんたちにお礼状を書きたい気分になっています。」



Asia University Library

Ⅳ. 図書館ツアービデオ導入のメリット

一① ツアービデオ導入前後の実施の比較

・2002年 図書館員による館内案内ツアー

対 象 : 新入生(別科生・大学院生含む)

回 数 : 別科生 1 回 大学院 2 回 学部 34 回

方 法 : 講義形式(ppt)&ツアー

担当人員 : 延べ 35 人



Asia University Library

Ⅳ. 図書館ツアービデオ導入メリット

一① ツアービデオ導入前後の実施の比較

・2008年 ツアービデオによる図書館案内

対 象 : 新入生(別科生・大学院生含む)

回 数 : 別科生 1 回 大学院 2 回 学部 4 回

方 法 : ツアービデオ上映&口頭説明

担当人員 : 延べ 15 人



Asia University Library

IV. 図書館ツアービデオ導入のメリット

ー② ツアービデオのメリット

- ・ 基本的なマナーの理解 静粛な利用空間の維持
- ・ 説明や見易さや聞き易さの向上
- ・ カウンターでの初歩的な質問の減少
- ・ ガイドンスの連携が容易になる
- ・ 講習内容の質的レベルを均一化
- ・ 利用者の視点からのガイドンス作成



Asia University Library

IV. 図書館ツアービデオ導入のメリット

ー③ ツアービデオのデメリット

- ・ 内容の変更にはDV編集のスキルが必要
- ・ 人材を集めるのが困難な場合がある
- ・ バージョンアップ作業のルーチン化が難しい



Asia University Library

V. 今後のオリエンテーションの充実

・ツアービデオ上映の継続

変更点・不足分等は、ストーリーを維持して再編集
図書館ツアーと文献探索法を3時間で 表

・Web・メディアコンテンツの活用

VIDEOとPPT連動の教育ツールを活用したフォロー
例)「MP Meister」(株)RICOH 「事例紹介」

・アルバイト学生への教育充実

利用支援者の底辺を広げる



Asia University Library

亜細亜大学図書館
学術情報課 藤懸 徳仁 (Fujikake Naruhito)

E-mail : naruhito@asia-u.ac.jp
URL : <http://www.asia-u.ac.jp/lib/>



Asia University Library

次世代OPACとLibrary2.0

2009年10月23日
慶應義塾大学文学部 原田隆史

Web2.0

- 2005年9月 Tim O'Reillyが提唱
- 新しいWebを総称する言葉
 - 新しい時代のWebサイト, 新しいWebサービス
 - Webがもたらす影響など
- 利用者参加型であることに特徴とも
- 実は明確な定義は存在しない
- マーケティングとして都合よく利用しているだけの言葉という説も

Web2.0の「7つの原則」

1. 複数ユーザによるオープンで自由な整理
2. ユーザに対する使いやすい環境の提
3. ユーザ体験の蓄積をサービスに転化
4. ロングテールを取り込む
5. ユーザの積極的な参加
6. 集合知に対する信頼
7. 進歩的な分散ネットワークを用いた多様なサービス展開

大学図書館とWeb OPAC

- コンピュータ化された図書館システムの標準機能
- 全国の大学図書館の81.6%がWebインタフェースを通じてOPACを提供している¹⁾。

	図書館ページあり	WWW OPAC提供	電子ジャーナル提供	機関レポジトリあり	計
国立	86	86	86	86	86
	100.0%	100.0%	100.0%	77.9%	100.0%
公立	75	68	41	1	75
	100.0%	90.7%	54.7%	1.3%	100.0%
私立	534	457	232	21	588
	90.8%	77.7%	39.5%	3.6%	100.0%
計	695	611	359	89	749
	92.8%	81.6%	47.9%	11.9%	100.0%

上田修一 大学図書館OPACの動向(2009/3/31調査): <http://www.slis.keio.ac.jp/~ueda/libwww/libwwwstat.html> [accessed 2009-04-25]

OPACの有用性

- 研究の最初の段階で,
2番目に用いられるツール
(検索エンジンに次いで使われるツール)
- 書誌事項の明確な資料の所蔵有無確認
- 正確な書誌情報の確認
- 類似資料の検索 などの役割

図書館OPACに対する不満の例

- 検索語拡張機能の不足
 - 一文字でも間違えればヒットしない
- 検索結果表示順が必ずしも適切ではない
 - ランク付け出力に対する配慮が決定的に不足
- ターゲティングが不明確
 - そもそも利用者ごとに対応しようという意欲が不足?
- 表示される内容が不十分
 - 書影の有無も含め, 他のWebサービスに見劣り
- 検索速度が遅い
- わかりにくい利用者インタフェース
 - 専門知識のない人の利用を想定しているのか?

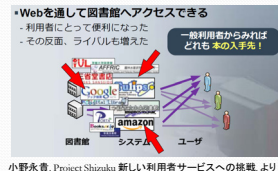
図書館サービスのWebサービス化

[利点]

- 利用者にとって便利になった
- サービス展開のための基礎技術に汎用ものを利用可能
- 図書館サービスの広報という意味でも有効

[要考慮ポイント]

- 利用者にとってはWebサービスのひとつ
- 既存のWebサービス全てが強力なライバル



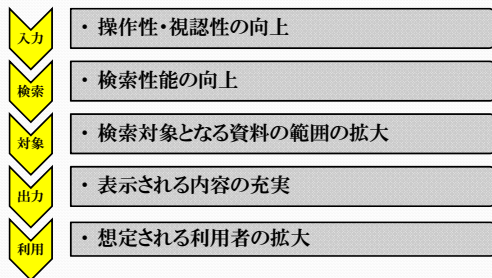
使いやすい情報提供サービス

- 実現できなければ図書館以外のどこかが実現させる



- 図書館に対する利用者の信頼は、Webサービスを提供する人々にとって垂涎的(?)
- 図書館だけが情報提供機関ではない
- どこと、どのような形で連携していくか
- 図書館の特徴と独自性

次世代OPACに求められる要素



環境 コスト、システムの柔軟性

操作性・視認性の向上

検索項目の簡略化, 単純化

- 不要な入力ボックスの省略等

デザイン上の工夫

- 適度な画像やボタンの併用: 書影の表示等
- 文字の大きさや配置の工夫
- 適切な余白の確保

検索結果の再加工を容易にする工夫

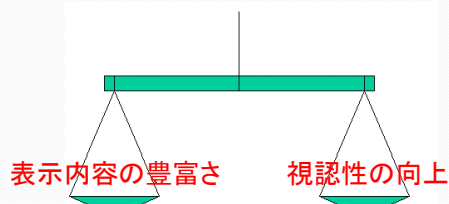
- 多様な並び替え機能, 操作の簡略化

画面遷移の最適化

類似操作に関わる手段の統一

バランスが大切

- 利用者の状況に応じた設計
- 利用者の要望に対応しようとする意識が重要



検索性能の向上

検索速度の高速化

- 図書館のデータは決して多くない
- 一般的な検索技術の進歩が後押し

検索語の修正・拡張機能

- Webサービスとの決定的な違いかも...
- 下手に似ているだけに致命傷になるのが心配
- 整備された辞書は利用可能に

関連語の表示機能

- サジェスト機能
- タグクラウド, ワードクラウド

タグクラウドの例

Drees, Burkhard, Eckwert, Bernhard, International Monetary Fund
International Capital Markets Dept.

人気のあるタグ

図書館 teu next-1 工藤先生「経済学」参考資料 kei
o 3月9日資料 opac 統計 生図研9月12日講演資料 ruby ils
php ocw nii テスト oss 青春アドベンチャー原作 中国 frbr ib
m 東大 起業 apple アーカイブ ソーシャルタギング 筑波大学 marc test
雑誌検索 メタデータ shizuku python カフェ youtube フレームワーク データ
ベース sns google 企業情報 ベンチャー 2008年春学期「企業倫理」資料集
小説 perl oclc 11月6日発表資料 学会 兵庫県 講演用資料 solr rails

検索対象となる資料の範囲の拡大

図書館が持つ図書以外の資料

- ・ Eジャーナル, Eブック, 文献データベース等
- ・ 機関リポジトリやローカルデータベースの構築
- ・ 様々な資料の提供方法の統合がなければ効果は半減

他の図書館や図書館以外の機関が持つ資料

- ・ ILL, 総合目録はあたり前
- ・ 図書館以外のWebサービスといかに連携できるか

Web上の情報源

- ・ 図書館資料と、いかに統合して提供できるか

図書館資料としてYouTubeのデータを取り込んだ例

表示される内容の充実

図書館内における資料へのアクセスに関する情報

- ・ たらいまわし禁止

追加操作に関する情報

- ・ 検索結果の絞り込み
- ・ ファセット機能

資料の評価に関する情報

- ・ コメント, レビュー, ソーシャルブックマーク
- ・ 他のWebサービスを利用するものひとつの方法

関連図書など, 他の資料への案内

- ・ 図書の推薦
- ・ FRBRの利用

ファセット機能の例

レビューなどを記録可能なオープンソースVuFind.org

(<http://www.vufind.org/>)



Webサービスとの連携で表示内容の充実

- 情報提供内容をリッチにする
- OPACの出力結果にブックカバー画像や本の説明、書評などを見られるようにしたシステム



- Amazon.comのAPI公開の利用などで容易に
 - RESTならばAPIの利用も簡単
 - データの交換をするための仕組み
 - XML (eXtensible Markup Language)の利用

想定される利用者の拡大

パーマリンクを用いた情報提供

- 検索エンジンを経由しても探せる工夫

APIの公開

- RSSでの配信
- SRU/SRW
- 他のWebサービスなどとの連携

Library2.0

- 2005年9月 Michael Caseyのブログ
- 従来の図書館サービスが住民に使われていない現状に危機意識
- Web2.0の考え方に注目
- Web 2.0のツールを積極的に活用することだけではない
- 新しいニーズに応えようとする考え

Library2.0の3つの原則

1. 目的にあわせて絶えず変化する図書館サービスを志向する
2. 利用者主導のサービスを通して、利用者に権限を与える
3. 現在の図書館利用者だけでなく、潜在的な図書館利用者に対するサービスの促進を模索する

目的にあわせて絶えず変化する図書館モデル

インターネット時代の到来

- 図書館を取り巻く環境の変化
- 図書館への要求も急速かつ大きく変化

図書館

- 絶えず変化する利用者の要求に対応できているかの評価
- 評価に基づいて迅速に反応した図書館サービスの展開

計画・実施・忘却



計画・実施・評価

Library2.0的なサービス

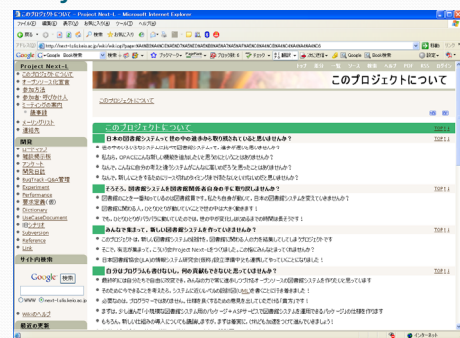
- Library2.0は、いろいろな文脈で使われる
- Walt Crawford(2006)では62の見方と7つの定義
- 非常に広く捉えたものも
 - 図書館における音楽・動画ダウンロード
 - iPod Shuffle貸出しサービス
 - 図書館が実施したティーン向けゲーム大会



オープンソース図書館システム

- オープンソース図書館システム
 - ソースコードの公開
 - 誰にでも自由に制限なく使用を許可する理念
- 世界中には数多くのシステム
 - Koha, PHPMyLibrary, OpenILS など
 - 統合図書館システム以外も多数
- 日本でも、Project Next-Lが³発足
 - 次世代の図書館システムの仕様を図書館員自身が協同で作成することをめざす

Project Next-L



(<http://www.next-l.jp>)

利用者が驚かないことが必要

今の利用者は

- 目新しいサービスには驚かない
- 検索エンジンと違うインターフェースには驚く
 - 善悪は別として、デファクトスタンダード
- 何でも結果が出ないなんて信じられない
 - 図書館の所蔵資料だけで勝負はできない
- たらい回しは大嫌い
 - 他のシステムにまわるのも「たらい回し」の一種
- 単なる真似をしただけのシステムも最悪

28

考え方の変化こそが重要

- 技術的な進歩性が重要なのではない
 - タグやレビューや推薦システムの実装
 - RSSでの発信 もあくまでひとつの選択肢
- 利用者のことをどれだけ意識しているか
 - 図書館が提供する情報の内容や手法
 - きちんと評価しているかが問われている
- 図書館OPACは楽しい
 - 従来のOPACは、利用者にとって楽しいものだったか

次世代OPACとは

- どのような技術を使用するかが重要ではない
- 一種のパラダイム転換
 - 提供者主導のサービス提供から
 - 利用者主導のサービス提供へ
- 時代の流れへの迅速な対応
 - フットワークの軽さが必要な時代
- システムの要件を示すのではなく、
図書館の姿勢や考え方を示す語である

図書館Webサービスの連携

井上 創造

九州工業大学工学研究院基礎科学研究系
九州大学附属図書館研究開発室

(最新版は

<http://rd.rdnnet.lib.kyushu-u.ac.jp/~sozo/download/0910.ppt>

にあります。

九大SNSの歴史

1. Varry (ベイリー)
2. 九大図書館実験システム
3. 大学院システム情報科学研究院システム
4. 花画像認識システム

これまでに作った機能

1. 九大人認証
2. リポジトリ足跡
3. Flickr連携
4. 仮想書架
5. メーリングリスト連携
6. リポジトリプロフィール
7. コンテンツ検索
8. データ連携機能
 - CalDAV, Googleカレンダー同時連携
 - 文献、業績同時管理
9. シングルサインオン
10. 利用者参加型画像検索

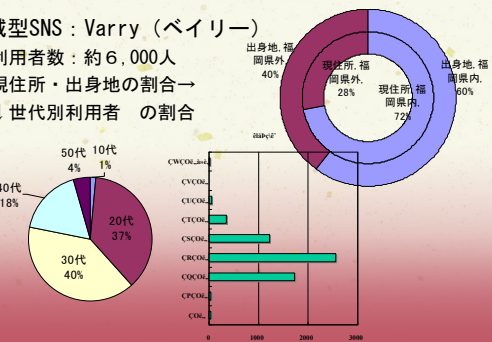
1. 九大人認証機能

◆地域型SNS: Varry (ベイリー)

❖利用者数: 約6,000人

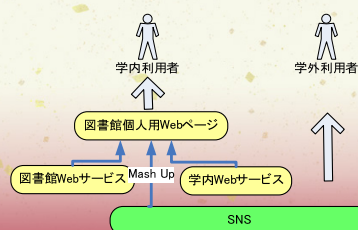
❖現住所・出身地の割合→

❖↓世代別利用者の割合



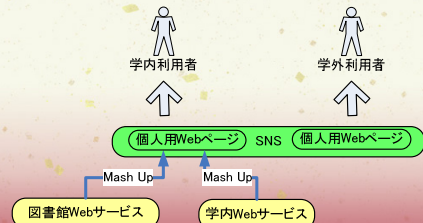
How to Mash Up (1)

◆図書館がMash Upするモデル



How to Mash Up (2)

◆図書館がMash Upされるモデル



比較

	図書館がMash Upするモデル	図書館がMash Upされるモデル
個人用Webページの自由な構成	SNS側の協力なしにできる	SNS側の協力が必要
学内限定のサービスとMash Up	できる (図書館Webページと学外公開する場合に注意)	できない
利用者の個人用Webページに対する信用	学内のWebページなので信用できる	学外のWebページなので信用しにくい
SNS学外利用者への図書館サービス提供	難しい	容易
学内限定の情報をSNSに漏らす可能性	学内のWebページなので、利用者がうっかりSNSに漏らす恐れ	学外のWebページだと利用者が認識できるので、漏らしにくい

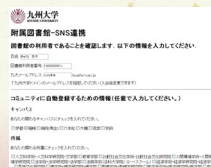
Mash Upされるタイプの実装

1. 九大メンバーの認証
2. 九大メンバーのホームページへの図書館Webサービスリンク表示
3. 九大メンバー間での実名表示と学外メンバーへの大学ロゴ表示



九大所属認証システム（登録時）

1. 利用者：利用者情報を入力
2. システム：情報のハッシュ値がデータベースに存在するかを判定する。
3. 存在すれば、ペイリーに氏名・メールアドレスを通知する
4. ペイリー：メールアドレスに対し招待状を送ることで利用者を招待する。
5. その利用者が招待状に応じてペイリーのアカウントを生成すると、ペイリーはその氏名を4の物に設定し、九州大学のコミュニティに自動的に加入させる。



九大所属認証システム（続き）

- ◆ 最初の時点で利用者に、所属学部や興味のある学問分野などの任意選択項目を入力させ、それらに応じたコミュニティに自動的に加入させる。
- ◆ ペイリーのアカウントを既に持つ利用者の場合は、実名の付与とコミュニティの参加のみを行う。

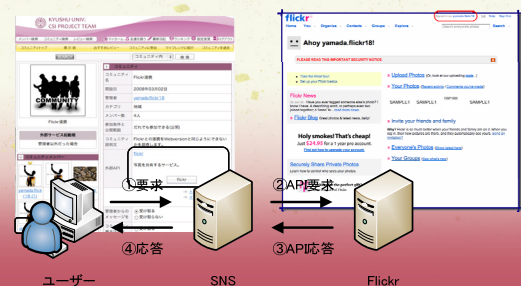
2. リポジトリ足跡機能

業績DBから学術リポジトリへの検索が著者に表示される



3. Flickr連携機能

コミュニティ内で写真を簡単に共有



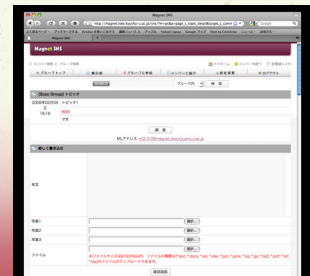
4. 仮想書架機能

好きな本の背表紙・書架画像を生成



5. メーリングリスト連携機能

コミュニティ=メーリングリスト



6. リポジトリプロフィール機能

リポジトリから特定著者のページを推定して生成



7～9

7. コンテンツ検索

◆SNSやリポジトリなどを統合検索

8. データ連携機能

◆CalDAV,

◆Googleカレンダー同時登録・取込

◆文献、業績同時登録

9. シングルサインオン機能

◆OpenID, Shibbolethクライアント機能

10. 利用者参加型画像検索

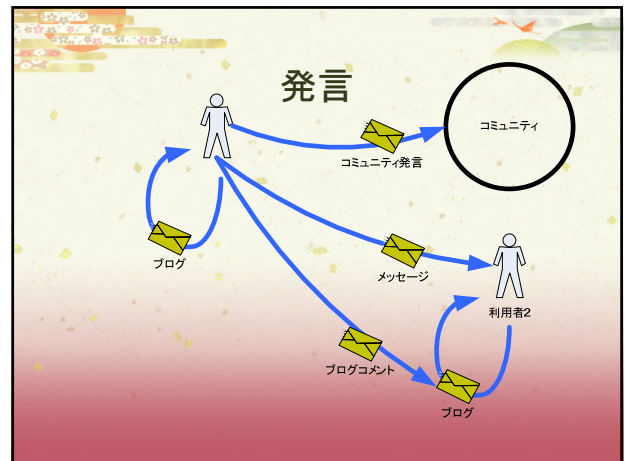
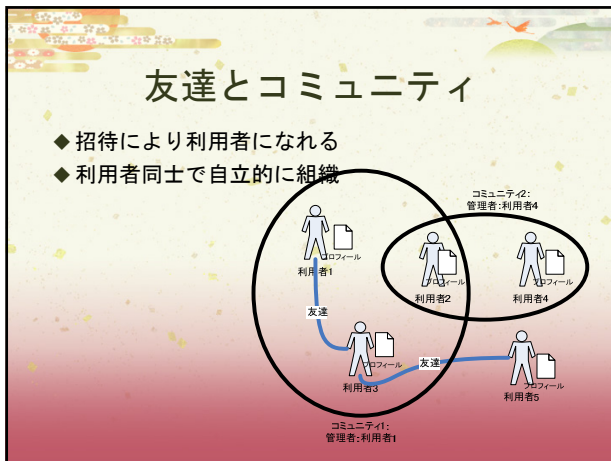
1. SNSから画像を質問&検索

2. 回答を機械学習



何が足りないのか

原点に帰って考えてみましょう



たったそれだけ

- ◆ 使われることのないポータルサイト?
- ◆ 自分で定義すべき

HOW → WHAT



基本要素のふるまい

- ◆ 人はある環境で本を読む。
- ◆ 人はある環境でデータを調べる。

…それだけ?

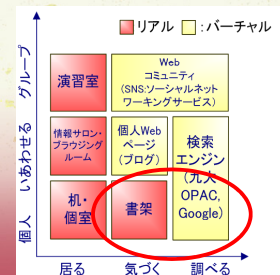
もっともっと



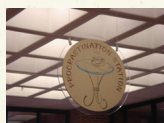
- ◆ 人はある環境で考え込む
- ◆ 人はある環境で物思いにふけて歩きまわる
- ◆ 人はある環境で休憩する
- ◆ 人はある環境で何かに気づく
- ◆ 人と人はある環境で話しあう
- ◆ 人はある環境で雰囲気を感じ出す

そういうのを総合したものが Social Networking

- ◆ 図書館は、配架と検索だけしか考えてこなかった？



Life to Library VS Library to Life (Learning Commons VS SNS)



VS



UMASS Amherst



大切なこと



Plan: 企画力

- ◆ 企画提案書を書けますか？
 - ❖ Win-Winの提案書が基本
 - ❖ 決して「他人が言っているから」ではない
- ◆ しかし図書館にはWinを測る指標がない

Do: 行動力

現実世界では簡単にできることでも、デジタルな世界でできないこと、ありませんか？
これからはアナログもデジタルも対等にサービスすべき時代
→ 「スキルがないからデジタルサービスは提供できません」 → 許されない

Check: 分析能力

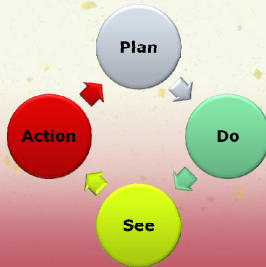
- ◆これからの評価・分析能力
 - ❖文字：検索技術に応用したテキストマイニング
 - ❖数：統計学，多変量解析，データマイニング
- ◆POS (Point of Sales)並みのことをやっていますか？
→これも新しい情報リテラシー。

Action: 管理能力

- ◆プロジェクト管理のスキル
- ◆実はソフトウェア工学の分野で急速に
進歩
→新しい情報リテラシーといえる

分析力と行動力を持つ図書館に！

↑九大ライブラリサイエンス大学院構想での私の発言



But the reality is...

- ◆IT itself evolves so fast.
 - ❖Web 2.0, consumer generated media...
 - ❖requirement from patrons changes
- ◆We cannot even do simple tasks in digital way.
→Needs for skill development for SNS/Web 2.0

System Designing Skill Development



Target Skill

- ◆PHP (PHP:Hypertext Preprocessor).
 - ❖widely spread as a language for Web applications and database management systems.
 - ❖Easy to learn.
- ◆CakePHP
 - ❖web application development framework
 - ❖Development becomes efficient.
 - ❖New idea of MVC (Model, View, and Controller)
 - ❖Easy to learn than other frameworks.

Curriculum (Day 1,2)

Day 1 (3.5h)

- ◆ How to use tools
- ◆ Concept of WWW
- ◆ HTML
- ◆ CSS
- ◆ Html ex.
- ◆ PHP
- ◆ Object oriented
- ◆ PHP ex.
- ◆ Web appli.

Day 2 (7h)

1. Web appli. Ex
2. Concept of database
3. SQL language in one table
4. SQL ex.
5. Web database
6. Web database ex.
7. SQL in multi-tables
8. Web security
9. Intro. To CakePHP

Curriculum (Day 3,4)

Day 3(3.5h)

1. Presentation of homework
2. What is CakePHP
3. Blog creation in CakePHP

Day 4(7h)

1. Concept of MVC
2. Source code of the blog system
3. Customizing the blog system
4. Multiple tables
5. Original blog system

So many contents!

- ◆ Many things to learn in a short period!
 - ❖ (Maybe) the most condensed in the world!
- ◆ But it is necessary skill for augmented library!
- ◆ We prepared a varieties of tricks to learn as shown in the following...

Participants

- ◆ 5 University libraries as a regular participant
 - ❖ Saga, Nagasaki, Kumamoto, Miyazaki, and Beppu universities.
- ◆ And others from all over Japan.
 - ❖ 27 (7 from Kyushu U) on day 1, 2
 - ❖ 22 (5 from Kyushu U) on day 3, 4

Formation

- ◆ Main instructor:
 - ❖ Computer scientist
- ◆ Instructors:
 - ❖ 2 Professional programmers
- ◆ Supporting staff:
 - ❖ Answer and help the participants in the course.
 - ◆ 2 members from the library, and
 - ◆ 2 members from information systems department
 - ❖ They studied prior.

Computer Environment

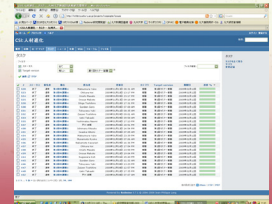
- ◆ Programming on a UNIX server
- ◆ USB memory connects to the server
- ◆ All materials are on the Web
 - participants can access many homework from office/home!

Pair Programming

- ◆ 2 persons share one PC.
- ◆ Participants can cooperate and help each other
- ◆ Pairing by balancing
 - ❖ Preliminary questionnaire:
 1. Experience of application domain
 2. Experience of IT system and programming

Project Management Web

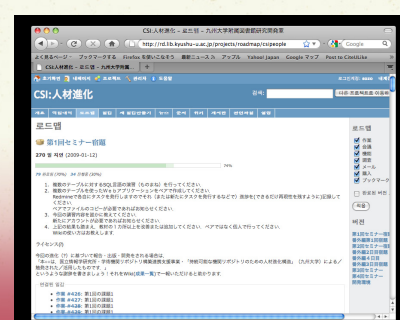
- ◆ Redmine: open source project management system
- ◆ Task management assigned to participants
- ◆ Wiki for materials
- ◆ Documents and files
- ◆ Forums for Q&A and discussions among participants
- ◆ All can be done from office/home!



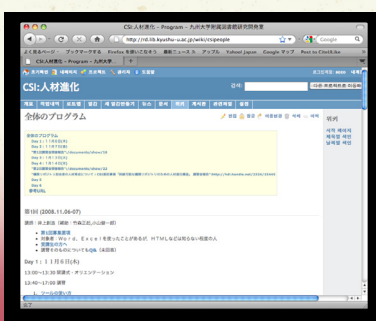
プロジェクトページ



課題の進捗状況



教材Wiki



掲示板



Follow-ups

◆Homework to participants:

- ❖Redo the exercise
- ❖Create a new application
- ❖Teach it to your friends!
- ❖Revise the materials (wiki)!

The remote environment helped a lot!

Project Management Skill Development

Project Management and System Proposal

- ◆We need project based work
- ◆Team work is important.
 - ❖+Outsourcing is sometimes taken.
 - ❖The customer needs a knowledge!
- ◆Nothing happens if we don't *propose!*

Curriculum

(18 participants (13 from Kyushu U))

Day 1 (4h)

1. (Lecture)How to make proposal document
2. (Exercise) define the target and theme of proposal in a 4-5 persons.

Day 2 (8h)

1. (Lecture)Project management
2. (Exercise)Creation of proposal slides
3. (Exercise)Review
4. Presentation

Outcome

◆Outcome: lots of applications

- ◆Q&A database
- ◆Staff information database
- ◆Library questionnaire system
- ◆Meta-data input tool
- ◆questionnaire system for image db
- ◆Web calculation system
- ◆Room reservation system
- ◆...

Outcome: lots of ideas

- ・お知らせをRSSで配信し、その情報をリポジトリトップページに表示させる機能
- ・アイテム流用入力、外部データベース参照入力機能
- ・著者名典拠
- ・機能とはちょっと違うのですが、標準のDspaceのトップページが貧弱なのでもう少し格好の良いものを作りたい。
- ・ユーザインターフェースで、本文有り、無しによって検索対象を絞ることができたら良いのではないかと思います。
- ・コミュニティやコレクション毎あるいはアイテム単位での画面のカスタマイズ(京大ではコミュニティ単位でEJ風にみせるカスタマイズを外注)
- ・著者名典拠のようなもの
- ・Webインタフェース上からのアイテム一括登録・編集
- ・各大学や機関の枠を超えて論文や文献が検索できる機能。
- ・キーワードにリンクが貼られていて、そこから関連する論文等を検索できる機能
- ・コレクション間でアイテムを付け替えることができる機能
- ・教員ごとに投稿数、ダウンロード数通知・表示機能
- ・見やすく分かりやすい統計機能
- ・アクセス数を統計してくれる機能
- ・翻訳機能
- ・リポジトリと直接関係はないかもしれませんが、本学で契約している各社のデータベースをまとめるプラットフォームが作れないだろうかと思っています。
- ・殆どの論文は共有となっているが、登録者だけにアクセス情報が送付される。登録者の他の共著の方には送付されない。
- ・全号登録していない雑誌についても、雑誌名から登録記事へたどれる
- ・検索結果画面でも、掲載誌やページ等がわかると便利だと思う
- ・各種統計機能
- ・オーバーレイジャーナルの様な表示機能
- ・プロフィールページの開発と機能拡張(コミュニティ)

Outcome:

lots of system proposals

◆System Proposal:

- ❖My fashion system
- ❖Web shopping with retailers
- ❖Lunchbox order system
- ❖Life ending system

Outcome:

lots of population

- ◆Participants: 67 persons x day
- ◆The homework: "Teach someone about the contents"
- ◆[Nagasaki University]
 - ❖ Web application, a PHP short course (2008. 12. 5)
 - ❖ SQL with database (2009. 2. 26)
- ◆[Saga University]
 - ❖ The 1st experience study meeting (2008. 12. 25)
- ◆[Miyazaki University]
 - ❖ PHP programming study meeting (2009. 1. 5)
- ◆[The Information Systems Division, Kyushu University.]
 - ❖ Information system study (2009. 2. 18)
 - ❖ Information system study (2009. 2. 23)

DEMO

- ・ 時間があればやります。

まとめ

- | | |
|----------------|-------------|
| 1. 九大人認証 | スキル開発 |
| 2. リポジトリ足跡 | – Webシステム開発 |
| 3. Flickr連携 | – プロジェクト管理 |
| 4. 仮想書架 | – 企画提案 |
| 5. メーリングリスト連携 | |
| 6. リポジトリプロフィール | ぜひ輪を広げてい |
| 7. コンテンツ検索 | きましょう！ |
| 8. データ連携機能 | →オープンな活動 |
| 9. シングルサインオン | |
| 10. 利用者参加型画像検索 | |



内容

なぜポッドキャスト？ —非来館型学生へのアプローチ

- プログラム紹介1
- ライブラリーツアー・Q&A・イントロダクション・ガイダンス

教員との連携 —リエゾン・ライブラリアン・プロジェクト

- プログラム紹介2
- 千葉大学の研究を語る・展示

学内への影響 —広がるコンテンツ

- プログラム紹介3
- 千葉大学の教育

今後の展開

制作環境 —今日から図書館放送部！

はじめに Podcastingとは




RSS

対応ソフトウェアで購読

新着の音声・動画をダウンロード

iPod + broadcasting = Podcasting

はじめに Podcastingとは

- ネット上で音声ファイルとして提供されているニュース、トークショーなどの番組プログラムを、iPodなどの携帯音楽プレイヤーに取り込み(ダウンロード)、どこでも聴けるようにするための仕組み。ブログ同様に、音声ファイルを作ってサイト上で公開したり、各サイトで提供されている番組(ポッドキャスト)を登録しておいて、内容が更新されたら自動的に取り込むようにできる。
- "ポッドキャスト" [インターネット] (Podcasting) は、現代用語の基礎知識、ジャパンレジャ (オンラインデータベース)、入手先 <<http://www.jkn21.com>>、(参照 2009-06-01)

どうしてポッドキャスト？

- 非来館型学生へのアプローチ⁽¹⁾
 - 学生との接触機会を増加
- すでに普及している技術の利用⁽¹⁾
 - インターネット
 - ブログ
 - iPod(携帯音楽機器)

図書館に來ない学生にも図書館のことを知らせたい

視聴側、制作側双方にとって敷居が低い

→まずは新入生を対象に図書館のガイド番組

プログラム紹介 1



podcastライブラリーツアー

- podcastライブラリーツアーをはじめよう。



podcastライブラリーツアー(亥鼻)

- podcastライブラリーツアーをはじめよう。(亥鼻)

聴きながら館内一周




プログラム紹介 1

- 図書館Q&A**
 - ・一問一答方式の図書館の使い方ガイド
 - ・学生の質問に職員が答える形式
- ライブラリーイントロダクション**
 - ・ライブラリーツアー短縮版 留学生の協力を得て多言語化
- Introduction to the Central Library (English)**
- Introduction to the Central Library (Chinese)**
- Introduction to the Central Library (Korean)**
- 図書館ガイダンス**

留学生
向け
サイトと
リンク

参加者の増加

教員との連携

- ・リエゾン・ライブラリアン・プロジェクト^[2]
 - ・教員と積極的に繋がり(liaison)を持ち、連携する図書館員
 - ・授業資料ナビ^[4]と同様に、プロジェクトチームで制作
- ・ポッドキャスト制作を通して繋がりを強化^[3]
 - ・関連図書の貸出やCURATOR（機関リポジトリ）へのアクセス増加
 - ・著作や報告書の寄贈
 - ・成果物をCURATORへ登録
 - ・協力関係ができた教員とのさらなる連携

研究成果・教育内容の
プロモーション効果

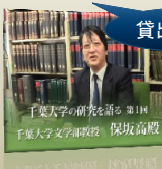
→幅広い対象に研究内容を紹介する番組

プログラム紹介 2

千葉大学の研究を語る

第1回

- ・文学部 保坂高殿先生
 - ・日本学士院賞の対象となった著書「ローマ帝政初期のユダヤ・キリスト教迫害」の紹介



貸出数増加

第2回

- ・文学部 秋葉淳先生
 - ・「図書資料に見るトルコの文化と歴史展」解説



プログラム紹介 2

千葉大学の研究を語る

第3、4回

- ・文学部 池田忍先生
- ・教育学部 鈴木宏子先生
 - ・「源氏物語絵巻展」解説



第5回

- ・医学部 小室一成先生
 - ・著書「臨床に役立つ循環器ペーシングテキスト」の紹介



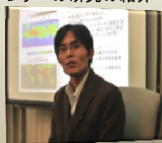
執筆に参加した
学生の出演

プログラム紹介 2

千葉大学の研究を語る

第6回

- ・環境リモートセンシング研究センター 樋口篤志先生
 - ・環境リモートセンシング研究センターの研究の紹介



第7回

- ・専門法務研究科 北村賢哲先生
 - ・「欠席判決」について



プログラム紹介 2

展示

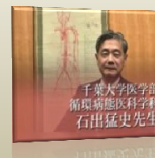
澤田重隆油彩作品展

- ・故澤田重隆氏の作品が、母校である千葉大学に寄贈されたことを記念して行われた展示会の概介



特別展「千葉市の医学と医療」

- ・医学部 石出猛史先生
 - ・特別展の内容や亥鼻分館所蔵「古医書コレクション」についての紹介



学内への影響

- ・教員からの反応⁽²⁾
 - ・「千葉大学の研究を語る」の公開後、教員からの問い合わせが多く寄せられた
 - ・映像・音声による情報発信のニーズ
- ・持ち込み企画⁽³⁾
 - ・教員から企画の申し出があり積極的な協力を得られた

→図書館の紹介に留まらない多様な番組

- ・情報資源へ誘導し番組内容を補完することで、図書館から発信する付加価値を持たせた

プログラム紹介 3

千葉大学の教育

パーソナルデスクラボによる 実験教育の展開(特色GP)の 紹介

- ・理学部 小堀洋先生
 - ・「パーソナルデスクラボによる実験教育の展開」を映像で紹介



受講者の増加

新司法試験合格者講演 新司法試験合格者インタビュー

- ・専門法務研究科 北村賢哲先生
 - ・新司法試験合格者に法学初学者に向け有益な事項を尋ねた



制作環境

今日から図書館放送部!

企画

- ・あらかじめ全体の構成をまとめておきます。

撮影録音

- ・所要時間はセッティングを含め1時間前後ですが、長引く場合もあります。

機材は個人向けの一般的な製品

- デジタルビデオカメラ 三脚に取り付けます
- デジタルカメラ 静止画も撮影
- 会議用のICレコーダ & ピンマイク

教員と打合せ

制作環境

今日から図書館放送部!

加工

- ・動画・静止画: 明るさ・色の調整
- ・音声: 音量調整・ノイズ低減処理

編集

- ・内容調整(10分以内にまとめる)
- ・テロップ、画面効果

圧縮

- ・音声はmp3, 動画はmp4に変換
- ・iPodで再生確認

音声編集: Audacity
<http://audacity.sourceforge.net>

動画編集: Adobe Premiere Elements4
<http://www.adobe.com/jp/products/premiereel/>

・長すぎると飽きる
・ファイルサイズ

パソコン1台でOK

制作環境

今日から図書館放送部!

- ・ブログに掲載、関連資料の記事とともに公開

図書館の蔵書(OPAC)へリンク

情報資源へのナビゲート

その他:e-bookやWebサイトへリンク

学術成果リポジトリへリンク

今後の課題

- ・コンテンツ作成スキルの向上
 - ・コンテンツ作成技術の習得、継承
 - ・学内連携
 - ・大学広報との連携、情報関連施設との連携、教員所属部局との連携等
 - ・詳細なアクセス解析
 - ・無料レンタルサイト運営者から提供される統計資料のみ
 - ・全体のアクセス統計と、各記事へのアクセスのみ分かる
- 図書館員だけでなく学生参加、共同製作
- 既存システムとの住み分け・協力
- 目標は全学部との連携(リエゾン)
- 大学内サーバでの運用を検討

参考文献・URL

1. 鈴木宏子 他「「ポッドキャスト@千葉大図書館」の構築 ポッドキャストによる図書館セルフガイドの作成」『情報の科学と技術』 No.59 No.1 2009.1 p34-40
2. 鈴木宏子 他「千葉大学におけるポッドキャストによる教育研究成果の発信：教員連携の実践例として」『大学図書館研究』 No.85 2009.3 p.23-33
3. 金山亮子、武内八重子「日本におけるリエゾン・ライブラリアン ー千葉大学附属図書館の挑戦」『専門図書館』 No.222 2007.3 p.15-20
http://mitizane.ll.chiba-u.jp/metadb/up/irwg5/liaison_librarian.pdf (参照 2009-10-01)
4. 授業資料ナビゲータ(PathFinder), 千葉大学附属図書館 (Webサイト),
<http://www.ll.chiba-u.ac.jp/pathfinder/> (参照 2009-10-01)



ネットワーク時代の レファレンスサービス

明治大学文学部
齋藤 泰則



目次

1. レファレンスサービスを取り巻く状況
2. ネットワーク時代におけるレファレンスサービスのモデル
3. ネットワーク時代におけるレファレンスサービスの展開



1. レファレンスサービスを取り巻く状況

ネットワーク情報源の増大
インターネット検索環境の整備・普及・発展



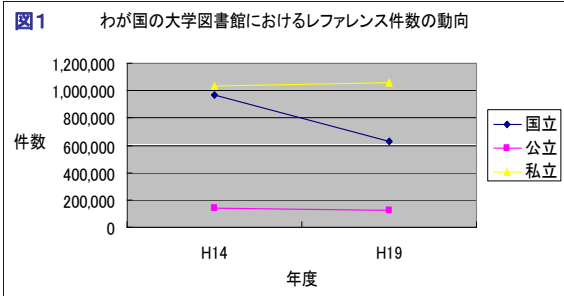
情報源としての図書館への依存度の低下？



レファレンスサービスの利用の低迷？



わが国の大学図書館における レファレンス件数の動向



出典：『平成14年度大学図書館実態調査』（文部科学省）、『平成19年度学術情報基盤実態調査』（文部科学省）に基づき作成。



わが国の大学図書館における レファレンス件数の動向

平成14年度の総件数に対する平成19年度の
総件数の割合（図1）

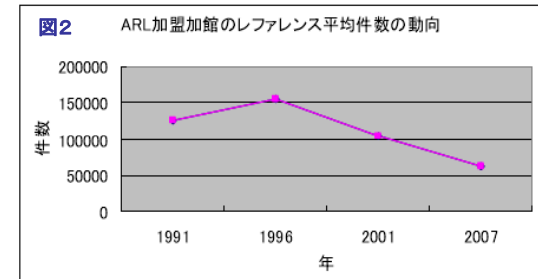
レファレンス総件数	15%減
私立大学図書館	微増(2%増)
国立大学図書館	35%減
公立大学図書館	15%減



全体として、レファレンス件数は減少傾向



米国の大学図書館における レファレンス件数の動向



出典：“ARL statistics, 1991-2007,” compiled and edited by Martha Kyriallidou and Les Brand. Association of Research Libraries, 2008, p.8に基づき作成。



米国の大学図書館における レファレンス件数の動向

2007年のレファレンス件数(図2)

- 1991年当時のレファレンス件数の
5割
- ピーク時(1996年)のレファレンス件数
の**3割**



米国の大学図書館における パブリックサービスの動向(1)

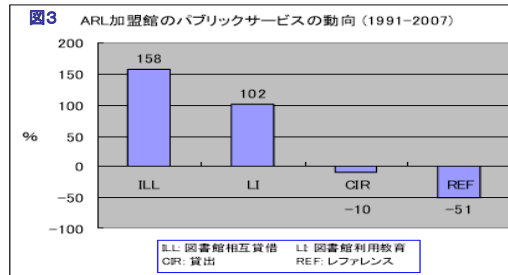


図2 ARL加盟館のパブリックサービスの動向
出典: "ARL statistics, 1991-2007," compiled and edited by Martha Kyriallidou and Les Brand. Association of Research Libraries, 2008, p.8-9 に基づき作成。



米国の大学図書館における パブリックサービスの動向(2)

ネットワーク環境は図書館サービスに
どのような変容をもたらしているか?(図3)
1991年の値と2007年の値との対比によれば、

増加したサービス

相互貸借件数 → 2.5倍
図書館利用教育件数 → 2倍

減少したサービス

レファレンス件数 → 半減
貸出冊数 → 1割減



レファレンス件数の減少要因

- ネットワーク情報源による**事実検索要求**
の充足率の上昇
- Web OPACによる**即答型文献検索**
要求の充足率の上昇

↓
クイックレファレンス利用頻度の低下

↓
レファレンス件数の減少



相互貸借件数の増加要因

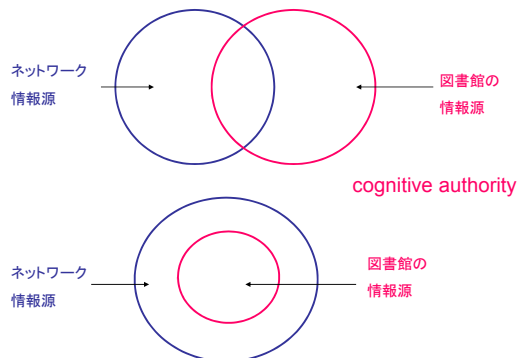
研究活動における**図書館の所蔵資料**への
依存度の高まり (ネットワーク情報源の増加・拡大
環境下において)

↓
専門資料としての**図書館の所蔵資料**への要求
の増大

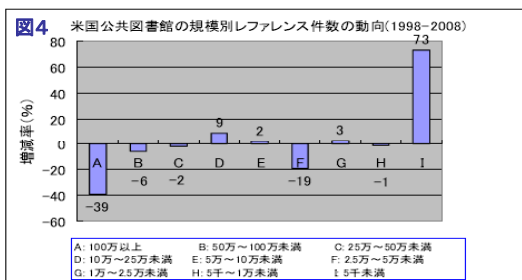
↓
協力レファレンス、**レファレンス協同**への期待



ネットワーク情報源と図書館の情報源



他館種のレファレンス件数の動向



出典：「Statistical report '98 : public libraries data service」, prepared by the Public Library Association, a Division of the American Library Association. American Library Association. 1998, p.67-85. 「Statistical report 2008 : public libraries data service」, prepared by the Public Library Association, a Division of the American Library Association. American Library Association. 2008, p.85-109 所収のデータに基づき作成。

他館種のレファレンス件数の動向

ここ10年間におけるレファレンス件数の減少傾向は、**全館種**にあてはまる傾向なのか？
(図4)



米国においては、大規模公共図書館では減少している(4割減)が、小規模公共図書館では大幅に増加している(7割増)。

図書館利用教育増加の要因

- ・主体的学習法への要求
- ・研究調査法に関するスキルへの要求
- ・多様化・複雑化する情報源への対応
- ・**cognitive authority**としての図書館情報資源
活用の重要性への認識



情報リテラシー／図書館リテラシー教育
への要求の増加

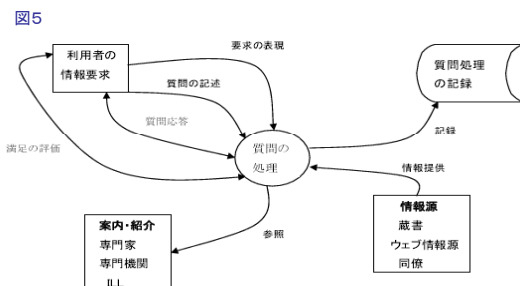
2. ネットワーク時代における レファレンスサービスのモデル

- ・事実検索要求・即答型文献検索要求の減少
- ・典拠性(cognitive authority)のある情報源への依存
- ・研究調査活動における図書館情報資源への依存



- ・研究調査支援としてのレファレンスサービスへの期待
- ・典拠性のある情報環境の構築・提供＝学習環境の構築としての間接サービスの意義
- ・情報検索サービスから発信型情報サービスへの展開＝能動的間接サービスの導入

レファレンスプロセスの システム分析モデル



出典：Saxton, Mathew L. and Richardson, John V. Jr. *Understanding reference transaction : transforming an art into a science*. Emerald, 2007, p.107.

レファレンスサービスの段階モデル

ランガナータンのモデル	クルソーのモデル
第1段階 最初のドキュメンテーション	第1段階 (organizer) 情報源の組織化
第2段階 即時的レファレンスサービス	第2段階 (locator) 即時的レファレンスサービス (即答質問の処理)
第3段階 フロア業務	第3段階 (identifier) 標準的レファレンスサービス (探索質問の処理、主題探索支援)
第4段階 待時的レファレンスサービス (リサーチコンサルテーション)	第4段階 (advisor) アドバイザー (文獻探索指導、利用指導)
第5段階 自己実現への支援	第5段階 (counselor) カウンセラー (調査質問の処理、調査プロセス全体にわたる支援)

出典: Ranganathan, S.R. *Documentation : genesis and development*. Ess Ess Publications, 1973, p.35-38.に基づき作成。
Kuhlthau, C.C. *Seeking meaning : a process approach to library and information services*. 2nd ed. Libraries Unlimited, 2004. p.115. Table7.1に一部加筆。



ネットワーク時代のレファレンス質問の類型(1)

レベル1 情報源に依拠しないで 回答できる質問	・回答のために情報源を必要としない質問。 ・サインやハインプレートなどで回答できるような質問(場所や方針に関する質問など)	例 ・「本はどこで受け取れるのか。」 ・「全曜日の開館時間はどのくらい遅くなるのか。」 ・「今日の新聞はどこにあるのか。」
レベル2 スキルに関する質問	・回答に実演を要する質問(例、的確に作成された案内によって回答可能なハウト型の質問)。 ・大抵の場合、図書館員が移動して、スキルを実演する必要がある。 ・同じ質問に対しては常に同じ回答が与えられるべきである。	例 ・「フロッピーディスクにどのようにダウンロードすればよいのか。」 ・「自宅からインターネットで図書館のデータベースにどうやってアクセスすればよいのか。」 ・「目録を使うどのようににどぞを調べればよいのか。」
レベル3 検索戦略の構築を必要とする質問	・回答を構築するために検索戦略の構築を必要とする質問。 ・情報源の選択を要する質問。 ・利用者に応じた主題へのアプローチが必要とする可能性のあるもの。	例 ・「臨床と栄養に関する論文を探す必要がある。」 ・「この薬にはどんな副作用があるのか。」 ・「1990年の米国における養子縁組の数は。」
レベル4 コンサルテーション	・通常のデスク業務以外により多くの時間を要するもの。 ・教材の選択のために行なわれる場合がある。 ・図書館員はコンサルテーション業務のために推薦資料の調査や報告書の作成を必要とすることが多い。	例 ・「証拠に基づく医療に関する案内を行なっているウェブサイトのリストを推薦して欲しい。」 ・「ウェブサイトを評価するためにどのような基準を用いるべきか。」

出典: Warner, Debra G. "A new classification for reference statistics," *Reference & User Services Quarterly*, vol.41, no.1, 2001, p.53.



ネットワーク時代のレファレンス質問の類型(2)

ライブラリーの質問	ライブラリーの質問
R1. 案内指示の質問 R1A. 方針に関する質問 R1B. 方針の解釈と補足に関する質問 R1C. 図書館員のみがアクセス可能な場所に関する質問 R1D. 貸借に関する質問	・一般的・案内指示の情報 ・場所に関する知識以上のものを必要としない。 W1. レベル1 情報源に依拠しないで回答可能な質問 W1A. 方針の解釈と補足に関する質問 W1B. 図書館員のみがアクセス可能な場所に関する質問
R2. 即時的レファレンス R2A. 検索に関する質問およびコンピュータの操作管理に関する質問	・印刷メディアであり、電子メディアであり、標準的なレファレンス資料で探求可能な基礎的な質問 ・例: 「アメリカの長さはいくつ?」 W2. レベル2 スキルに関する質問
R3. 探索質問	・回答に通常は複数の情報源を必要とする質問 ・例: 「仕事における性の偏見に関する情報はどこを探せばよいのか。」 W3. レベル3 検索戦略の構築を必要とする質問
R4. 調査質問	・時間を要する詳細な支援 ・専門家が必要となる場合がある。 W4. レベル4 コンサルテーション

出典: Henry, Deborah B. and Neville, Tina M. "Testing classification systems for reference questions," *Reference & User Services Quarterly*, vol.47, issue 4, 2008, p.366,368の表に基づき作成。



バーチャルレファレンスと質問の類型(1)

ペンシルバニア州立大学図書館における レファレンス質問の調査 (2002年)

- 受付方式によるレファレンス質問の類型比較
- 受付方式: 対面、電子メール、チャット



受付方式はレファレンス質問の類型に
影響を及ぼす (表1)



バーチャルレファレンスと質問の類型(2)

表1

	対面	電子メール	チャット
即時的レファレンス (即答質問)	66 %	4 %	13 %
検索戦略構築を要する質問 (探索質問)	25 %	85 %	84 %
進展的レファレンス (調査質問、コンサルテーション)	9 %	10 %	3 %
総件数	1622	447	291

出典: Fennewald, Joseph. "Same questions, different venue: an analysis of in-person and online questions." *Assessing reference and user services in a digital age*. Eric Novotny, editor. The Haworth Information Press, 2006, p.27.



バーチャルレファレンスと質問の類型(3)

バーチャルレファレンスの方式による レファレンス質問への影響(表2)

- 電子メール(非同期型)
 - ・目録検索に関わる質問
- チャット(同期型)
 - ・レポート作成に関わる質問
 - コンサルテーション型サービス
 - 図書館員とのやり取りを通して要求を焦点化
 - » Kuhlthauの情報探索モデル(図6)



バーチャルレファレンスと質問の類型(4)

表2




	電子メール	チャット
目録	35 % (116)	16 % (38)
データベース	21 % (70)	39 % (92)
レポート作成	23 % (77)	43 % (101)
その他	21 % (70)	2 % (5)
総件数	333	235

注: () 内は件数。

出典: Fennewald, Joseph. "Same questions, different venue: an analysis of in-person and online questions." *Assessing reference and user services in a digital age*. Eric Novotny, editor. The Haworth Information Press, 2006, p.30.

Kuhlthauの情報探索モデル

図6

段階	課題の受理	テーマの選択	焦点の検討	焦点の形成	情報の収集	発表の準備
感情	不確定	楽観	混乱 欲求不満 疑念	明快 自信	方向感覚	安心感 満足感 不満足感
思考		<div>曖昧  特定化</div> <div> 興味の増進</div>				
行為	適合情報の探索  適切な情報の探索					

出典: Kuhlthau, C.C. *Teaching the Library Research Process*.
The Scarecrow Press, 1994, p.25.

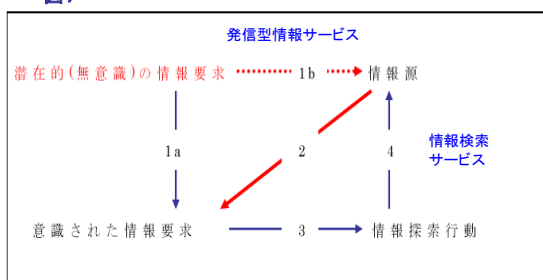
3. ネットワーク時代における レファレンスサービスの展開

情報検索サービスから 発信型情報サービスへの展開 (図7)

- 潜在的情報ニーズへの対応
- 情報源との出会いの場の創出
 - 学習環境＝ラーニングコモン構築
 - セレンディピティ効果



図7



出典: 齋藤泰則『利用者志向のレファレンスサービス: その原理と方法』
勉誠出版, 2009, p.149-151.



- コンサルテーション型サービスの重視
- 場としての図書館(滞在型図書館)の重要性
 - インフォメーションコモン＋ラーニングコモン
 - 情報環境の構築 → { 情報源との出会い
情報発見
- 東京女子大学図書館の事例
 - 滞在型図書館＋学習コンシェルジュ



参考文献

- 文部科学省『平成14年度大学図書館実態調査』
- 文部科学省『平成19年度学術情報基盤実態調査』
- 齋藤泰則『利用者志向のレファレンスサービス: その原理と方法』
勉誠出版, 2009.11, 184p.
- "ARL statistics, 1991-2007," compiled and edited by Martha Kyrrilidou and Les Brand. Association of Research Libraries, 2008, p.8
- Fennewald, Joseph. "Same questions, different venue : an analysis of in-person and online questions." *Assessing reference and user services in a digital age*. Eric Novotny, editor. The Hower Information Press, 2006, p.27, 30.
- Henry, Deborah B. and Neville, Tina M. "Testing classification systems for reference questions." *Reference & User Services Quarterly*, vol.47, issue 4, 2008, p.366,368
- Kuhlthau, C.C. *Seeking meaning : a process approach to library and information services*. 2nd ed. Libraries Unlimited, 2004, p.115.



参考文献

- Kuhlthau, C.C. *Teaching the Library Research Process*. The Scarecrow Press, 1994, p.25.
- Ranganathan, S.R. *Documentation : genesis and development*. Ess Ess Publications, 1973, p.35-38.
- Saxton, Mathew L. and Richardson, John V. Jr. *Understanding reference transaction : transforming an art into a science*. Emerald, 2007, p.107.
- "Statistical report '98 : public libraries data service ;," prepared by the Public Library Association, a Division of the American Library Association. American Library Association. 1998, p.67-85.
- "Statistical report 2008 : public libraries data service ;," prepared by the Public Library Association, a Division of the American Library Association. American Library Association. 2008, p.85-109.
- Warner, Debra G. "A new classification for reference statistics." *Reference & User Services Quarterly*, vol.41, no.1, 2001, p.53.

《2009年度研修会の総括と回顧》

研究部 研修委員長 今村 昭一

1. 2009年度研修会の開催について

○ テーマ

「行きたくなる図書館、利用したくなる図書館 ―Library 2.0に向けて―」
2009年10月22日（木）～10月23日（金） 於：東京農業大学

○ 開催趣旨

前年度「図書館評価」をテーマに、とりわけ利用者の視点を重視した図書館サービス評価の方法を紹介する機会を持ったことをうけて、評価の結果、ユーザーからのインプットを活用することにより実現される図書館サービスとは何か、「Library 2.0」をキーワードに大学図書館の諸施策を考察することを目的に企画した。

○ 参加者数

参加者はのべ107大学112名。募集定員の100名を超過し、申し込み期日前に受付を締め切ることとなった。

○ プログラム

別紙のとおり、基調講演・講演：6件、事例報告：3件。その他、特別企画。

○ 今年度特徴的な事項

・ポスター展示の企画について

今回、受講者参加型の企画としてポスター・広報物等の展示により、自館の利用促進のための取り組みを発表する場を設定した。アンケートの結果、概ね好評であった。

・会員以外の参加について

講師を派遣いただいた千葉大学より1名、オブザーバーとして研修会の全日程に参加いただいた。今後も国公私の枠を超えた交流促進を検討してよいのではないかと思います。

・参考文献の事前通知について

前年度に引き続き、受講決定者への参考文献の提示と講演者への質問の事前受付について通知した。今回も前年同様、質問はなかった。一方、講師から受講者への事前アンケートの依頼があった。

・講師事後アンケートの実施について

今回、講師へのアンケートを実施した。次回の研修会に向け、参考資料としたい。

2. 2010年度研修会に向けて

○ 研修会のあり方について

これまでの委員会の中で研修会のあり方を継続して検討してきた。研修会のテーマに関連する活動を行っている研究分科会と協働するという方向性についても探りたい。

○ 2010年度研修委員会

次期委員会（2010～2011年度）で詳細を検討する。

以 上

2009年度私立大学図書館協会東地区部会研究部

決 算 報 告 書

(2009年4月1日～2010年3月31日)

収入の部

単位：円

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差異 (A-B)	摘 要
部会交付金	2,890,500	2,926,900	△ 36,400	①13,000円 × 0.7 × 255 校 加盟館追加4校分 (36,400円) 570,000円 部会長校より新設・研修分科会支援金
研修会参加費収入	270,000	324,000	△ 54,000	参加費：③3,000円×108名
研究会参加費	0	0	0	2009年度は研究分科会報告大会のため未計上
雑 収 入	1,000	45,518	△ 44,518	預金利息 廃止分科会経費（北海道地区研究分科会）
小 計	3,161,500	3,296,418	△ 134,918	
前年度繰越金	2,317,169	2,317,169	0	
合 計	5,478,669	5,613,587	△ 134,918	

支出の部

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差異 (A-B)	摘 要
研究会開催費	500,000	301,137	198,863	研究分科会報告大会 12月14・15日開催 (於 東京理科大学) 内訳：分科会発表資料作成費100,000円、 資料発送費2,210円、飲料・弁当136,930円 配布資料印刷用トナー等29,400円、文具等32,597円
研修会開催費	700,000	664,761	35,239	研修会 10月22・23日 (於 東京農業大学)
運営委員会費	100,000	92,515	7,485	
運営委員・分科会 代表者合同会議費	160,000	123,420	36,580	年2回開催 (第1回5月15日於東京理科大学・ 第2回11月13日於早稲田大学)
分科会助成金	830,000	685,000	145,000	基本助成： 330,000 円 (30,000 × 11 分科会) 割増助成： 355,000 円 (⑤5,000×正会員71名 [上限13万円/分科会])
特別助成金	1,070,000	570,000	500,000	研修分科会 (2009年度新設) 1件
研修委員会費	100,000	100,000	0	
研究部活動費	50,000	0	50,000	
印 刷 費	600,000	264,915	335,085	研究部封筒：3,000部 研究部報告書：500部
通 信 費	200,000	105,097	94,903	研修会案内通知、研究分科会報告大会案内通知、 研究分科会会員募集、会員決定通知発送
運 営 事 務 費	100,000	99,434	566	
小 計	4,410,000	3,006,279	1,403,721	
予 備 費	1,068,669	44,516	1,024,153	廃止分科会経費 部会長校へ返還1件 (北海道地区 研究分科会<44,516円>)
次年度繰越金	0	2,562,792	△ 2,562,792	
合 計	5,478,669	5,613,587	△ 134,918	

2009年度私立大学図書館協会東地区部会研究部決算報告は、以上のとおりです。

2010年3月31日

東地区部会研究部担当理事校

東京理科大学図書館

監 査 報 告 書

2009年度に係る決算報告書及び附属書類について、その証憑書類及び帳簿を監査いたしました結果、当該決算報告書は適正に表示されていると認めます。

2010年4月7日

東地区部会監事校

中央大学図書館

活 動 計 画 （案）

（2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日）

1. 研究部活動方針

- 1) 研究活動
- 2) 研修活動
- 3) 研究部ホームページの安定的運用

2. 活動計画

1) 運営委員会

研究部の活動計画、予算・決算、研究部の運営その他について協議。
年 8 回程度開催。

2) 運営委員・研究分科会代表者合同会議

研究分科会活動計画・運営その他について協議。
2010 年 5 月、11 月の年 2 回開催。

3) 研究会

「交流会」（研究分科会参加者の相互交流）の開催。
2010 年 11 月 12 日 於：慶應義塾大学（予定）

4) 研修委員会

研修会開催（年 1 回）のため、年 8 回位開催予定。

5) 研修会

日程・会場未定。

6) 研究分科会

12 研究分科会が、月例研究会・夏期研究合宿等の活動を実施する。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| (1) 分類研究分科会 | (7) 西洋古版本研究分科会 |
| (2) 逐次刊行物研究分科会 | (8) 企画広報研究分科会 |
| (3) パブリック・サービス研究分科会 | (9) 和漢古典籍研究分科会 |
| (4) レファレンス研究分科会 | (10) 情報リテラシー教育研究分科会 |
| (5) 理工学研究分科会 | (11) Lーラーニング学習支援研究分科会 |
| (6) 相互協力研究分科会 | (12) 研修分科会 |

休会：図書館運営戦略研究分科会

以 上

2010年度私立大学図書館協会東地区部会研究部

予 算 (案)

2010年4月1日～2011年3月31日

収入の部

単位：円

科 目	本年度予算 (A)	前年度予算 (B)	差異 (A-B)	摘 要
部会交付金	2,926,900	2,890,500	36,400	2,356,900円 @13,000円 × 0.7 × 259校 570,000円 部会長校より新設・研修分科会支援金
研修会参加費収入	270,000	270,000	0	参加費：@3,000円 3,000 × 90 名 × 1 回
研究会参加費	150,000	0	150,000	「交流会」 参加費：@3,000円 3,000 × 50 名
雑 収 入	1,000	1,000	0	預金利息
小 計	3,347,900	3,161,500	186,400	
前年度繰越金	2,562,792	2,317,169	245,623	
合 計	5,910,692	5,478,669	432,023	

支出の部

科 目	本年度予算 (A)	前年度予算 (B)	差異 (A-B)	摘 要
研究会開催費	400,000	500,000	△ 100,000	「交流会」（研究分科会参加者の相互 交流）の開催
研修会開催費	700,000	700,000	0	2010年度は1回開催
運営委員会費	100,000	100,000	0	
運営委員・分科会 代表者合同会議	160,000	160,000	0	年2回開催（5・11月）
分科会助成金	760,000	830,000	△ 70,000	基本助成：360,000 円 （ 30,000 × 12 分科会） 割増助成正会員 400,000 円 （ 5,000 × 80 名）
特別助成金	620,000	1,070,000	△ 450,000	研修分科会支援金（57万円） 申請があった場合、予備費から充当
研修委員会費	100,000	100,000	0	
研究部活動費	50,000	50,000	0	研究部活動（運営委員会・研修委員会 含む）
印 刷 費	350,000	600,000	△ 250,000	研究部報告書：500部
通 信 費	100,000	200,000	△ 100,000	
運営事務費	50,000	100,000	△ 50,000	
小 計	3,390,000	4,410,000	△ 1,020,000	
予 備 費	2,520,692	1,068,669	1,452,023	
合 計	5,910,692	5,478,669	432,023	

《関係規程》

私立大学図書館協会東地区部会研究部細則

(昭和 29 年 4 月 1 日 制定)
(昭和 34 年 5 月 8 日 改訂)
(昭和 34 年 10 月 14 日 改訂)
(昭和 44 年 2 月 18 日 改訂)
(昭和 63 年 6 月 28 日 改訂)
(平成 7 年 8 月 2 日 改訂)
(2000 年 6 月 9 日 改訂)
(2004 年 6 月 18 日 改訂)

第 1 条 この細則は、私立大学図書館協会会則（以下会則という）第 33 条第 1 項第 3 号、第 39 条及び第 40 条に基づいて、私立大学図書館協会東地区部会（以下東地区部会という）に研究部（以下研究部という）を設置し、事務所を東地区部会研究部担当理事校（以下研究部担当理事校という）に置くことを定める。

第 2 条 研究部は、会則第 39 条の目的達成のために次の事業を行う。

- ① 研究会の開催
- ② 研究分科会の育成
- ③ 報告書の発行
- ④ 西地区部会研究会との連絡、情報の交換
- ⑤ その他研究部の目的達成に必要な事項

第 3 条 研究会は研究発表及び研究部の事業についての報告その他を行う。

- 2 会場は東地区加盟校が輪番で担当する。

第 4 条 研究分科会は各研究分科会ごとに適宜開催し、その研究の進行状況、成果その他を研究部担当理事及び研究会に報告するものとする。

- 2 各研究分科会は本研究部より助成金を受けることができる。
- 3 各研究分科会は本研究部より特別助成金を受けることができる。

第 5 条 報告書は第 2 条の各事業の状況及び研究成果を発表するもので、研究部担当理事が編集の責任に当たる。

第 6 条 本研究部には、次の役員を置く。

- ① 研究部担当理事 1 名
- ② 運営委員 8 名
(東地区部会役員校 3 名 東地区加盟校 5 名)

第 7 条 研究部担当理事には、研究部担当理事校の代表者が当たり、本研究部を代表し、かつこれを統轄する。

第 8 条 運営委員は、隔年 4 月東地区加盟館から研究部担当理事が推薦し、東地区部会役員会の承認を得た上、研究部担当理事をたすけて本研究部の運営に当たる。

第9条 研究部には、本研究部の運営を円滑ならしめるため、運営委員会を置く。

第10条 運営委員会は、研究部担当理事が招集し、次の事項を行う。ただし、必要に応じて各研究分科会代表者あるいは当該研究会会場校代表者の出席を求めることができる。

- ① 研究部の事業計画
- ② 研究会の運営に関する事項
- ③ 各研究分科会間の連絡、情報の交換
- ④ 研究部報告の編集、発行
- ⑤ その他本研究部の運営に関する事項

第11条 本研究部の経費は、東地区部会の助成金及びその他を充てる。ただし、必要に応じて実費を徴収することができる。

第12条 研究部の運営について必要な事項は別に定めることができる。

第13条 本細則の改廃は、東地区部会総会の承認を要する。

附 則

- 1 本細則は昭和29年4月1日よりこれを実施する。
- 2 本改訂細則は昭和34年5月8日よりこれを実施する。
- 3 本改訂細則は昭和35年10月14日よりこれを実施する。
- 4 本改訂細則は昭和44年2月18日よりこれを実施する。
- 5 本改訂細則は昭和63年6月28日よりこれを実施する。
- 6 本改訂細則は平成8年4月1日よりこれを実施する。
- 7 本改訂細則は2001年4月1日よりこれを実施する。
- 8 本改訂細則は2004年6月18日よりこれを実施する。

私立大学図書館協会東地区部会研究部研究分科会申し合わせ

(昭和 48 年 4 月 1 日 制定)

(昭和 55 年 6 月 18 日 改訂)

(平成 7 年 9 月 25 日 改訂)

(2002 年 4 月 1 日 改訂)

(2003 年 4 月 1 日 改訂)

(2004 年 4 月 1 日 改訂)

(2005 年 4 月 1 日 改訂)

第 1 条 この申し合わせは、私立大学図書館協会東地区部会研究部に研究分科会を置くことを定める。

第 2 条 本研究分科会は、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則の当該条項に則って活動するものとする。

第 3 条 各研究分科会は、以下の要件を備え、かつ、複数の大学に所属する者若干名をもって構成されるものとし、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得なければならない。

- ① 当該年度の研究テーマ
- ② 当該年度の研究回数
- ③ 当該テーマの研究に必要とされる条件
- ④ 会費徴収額

第 4 条 各研究分科会は代表者 1 名を置くものとする。

第 5 条 各研究分科会の活動期間は 2 年とし、更新することができる。更新にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。

第 6 条 新規に研究分科会を発足するにあたっては、会員更新担当理事に対し、第 3 条の要件を更新年度の前年 12 月までに示さなければならない。

第 7 条 会員更新担当理事は、研究分科会更新前年度の所定の日までに、加盟館代表者に、第 3 条各号の事項を通知し、加盟館における参加者選定の基準を示さなければならない。

第 8 条 加盟館代表者は、更新前年度の所定の日までに、各研究分科会の参加者を決定し、会員更新担当理事に通知するものとする。

- 2 会員更新担当理事は、この通知に基づき、当該研究分科会代表者に諮ったうえ、各研究分科会の会員として登録する。

第 9 条 各研究分科会の活動期間中に、途中入退会者があった場合、研究分科会代表者は書面をもって、月例担当理事に通知するものとする。

- 第 10 条 各研究分科会は、研究部より助成金を受けることができる。
- 2 各研究分科会は、研究部より特別助成金を受けることができる。但し、助成にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。
- 第 11 条 研究分科会代表者は、当該研究分科会を主宰するとともに、毎月末までに翌月の開催計画を、月例担当理事に連絡するものとする。
- 第 12 条 研究分科会代表者は、毎年研究部担当理事に、研究分科会の活動状況及び会計報告をしなければならない。
- 第 13 条 研究分科会代表者は、研究部担当理事の求めに応じて、研究部運営委員会に出席することができる。ただし、議決権を持つことができない。
- 第 14 条 各研究分科会は、その研究の成果を研究部の開催する研究会において原則として発表しなければならない。
- 第 15 条 研究分科会代表者は、毎年 2 回（5 月・11 月）開催される運営委員会・代表者合同会議に出席しなければならない。但し、代表者が出席できない場合は代理による出席を認める。代理も不可能である時は、特に研究部が認めた場合この限りではない。
- 第 16 条 本申し合わせの改廃は、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得て行うものとする。

付 則

- 1 本申し合わせは、2004 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 本申し合わせは、2005 年 4 月 1 日から施行する。

私立大学図書館協会東地区部会研究部研修委員会規則

(昭和 56 年 4 月 1 日 制定)

(平成 2 年 4 月 1 日 改正)

(平成 8 年 3 月 28 日 改正)

第 1 条 この規則は、東地区加盟館館員の資質の向上を図るため、私立大学図書館協会東地区部会研究部（以下研究部という）に、研修委員会（以下委員会という）を設置することを定める。

第 2 条 前条の目的達成のため委員会は、次の活動を行う。

- (1) 研修会等に関する情報の収集、提供
- (2) 研修会等の企画、実施
- (3) 関連する機関、団体との連絡・協力
- (4) その他目的達成のために必要な活動

第 3 条 委員会は 6 名の委員をもって構成し、うち 1 名は研究部担当理事校（以下担当理事校という）から選出する。

第 4 条 委員の任期は 2 年とし、再任はさまたげない。ただし、担当理事校から選出された委員の任期は担当理事校の担当期間とする。

第 5 条 委員に欠員が生じた場合はすみやかに補充するものとし、その任期は前任者の残任期間とする。

第 6 条 委員会は研修会等を企画・実施する際、その必要に応じて、実行委員若干名を置くことができる。

第 7 条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は委員会を招集し、議事を進行する。

第 8 条 委員長及び委員は東地区加盟館から研究部担当理事（以下担当理事という）が推薦し、東地区部会役員会に諮り、これを委嘱する。

第 9 条 委員長は委員会の活動について、担当理事に対し、少なくとも年 2 回以上報告しなければならない。

第 10 条 委員会の事務経費については、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則第 11 条を準用する。ただし、研修会等を実施する際の費用は、原則として受益者負担とする。

第 11 条 委員会の運営に関する事項は委員会申し合わせとして別に定めることができる。

第 12 条 この規則の改廃については研究部運営委員会の承認を必要とする。

附 則

この規則は平成 8 年 4 月 1 日より施行する。